MOBILE SUIT GUNDAM 0083 with PHANTOM BULLETS

機動戦士ガンダム0083
with ファントム・ブレット
3D&設定資料集

DENGEKI HOBBY BOOKS



Earth Federation Force

RX-78GP01 GUNDAM GP01
RX-78GP01Fb GUNDAM GP01Fb
RX-78GP02A GUNDAM GP02A
RX-78GP03S GUNDAM GP03S
RX-78GP03 GUNDAM GP03 DENDROBIUM
RX-78GP04 GUNDAM GP04
RGM-79C GM TYPE-C RGM-79N GM CUSTOM
RGC-83 GM CANNON II
RGM-79 POWERED GM RGM-79Q GM QUEL
ALBION

Deraze Fleet

MS-06F-2 ZAKU II MS-06R AINOK ZOM TROPEN
YMS-16M XAMEL MS-14F GELGOG/G/M
MS-14Fs GELGOG/M COMMANDER MODEL
MS-21C DRA-C MS-09R-2 RICK DOM II
MA-08 ALWATO AMS-07 BLUE ZIEL
AGX-04 GERBERA TETRA PEER GYNT

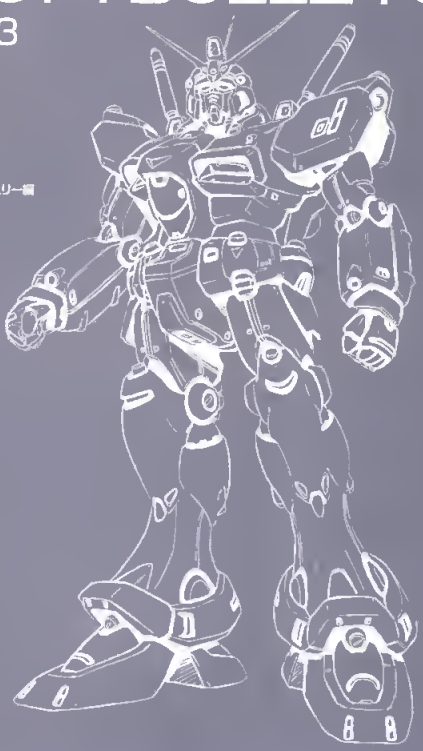
MOBILE SUIT GUNDAM 0083 with PHANTOM BULLETS

機動戦士ガンダム0083 with ファントム・ブレット 3D&設定資料集

立体作例パート
008 パーフェクトグレード&マスターグレード編
054 ハイグレード&ハイグレードユニバーサルセンチュリー編
119 ファントム・ブレット復刻版

設定資料パート
151 機動戦士ガンダム0083メカニック設定資料集

「ファントム・ブレット 復刻版」は、2002年に発行された「機動戦士ガンダム ファントム・ブレット」を再収録したものです。そのため、文章中に時期に合わない記述が多少あります。また固有名詞なども掲載時のままとなっております。予めご了承ください。





Solomon! I came back!!

PERFECT GRADE & MASTER GRADE

パーフェクトグレード&マスターグレード編

まずは1/100スケール、マスターグレード、及び1/60スケールのパーフェクトグレードシリーズを用いた改造作例を紹介していこう。ここでは過去10年以上に亘って「電撃ホビーマガジン」誌に掲載された作例の再収録から、本書用の新規作例まで、数多くの力作が並んでいる。

CONTENTS

010 RX-78GP01Fb ガンダム試作1号機フルバーニアン　古木誠人
018 RX-78GP01 ガンダム試作1号機／NAOKI
024 RX-78GP01Fb ガンダム試作1号機フルバーニアン／米津辰哉
030 RX-78GP02A ガンダム試作2号機・田村和久
036 RX-78GP03S ガンダム試作3号機ステイメン／yumoto
042 MS-06F-2 ザクII F2型／岩田トシオ
046 RGM-79C ジム改／中村圭
048 RGM-79N ジム・カスタム／小松敬幸
052 RGM-79Q ジム・クゥエル／池田正


RX-78GP01Fb
GUNDAM
GP01Fb
BANDAI 1/60



超大型キットを フルバーニアン固定で ディテールアップ!

PG「ガンダム試作1号機」は、約7年前にリリースされたキット(2003年11月発売)だが、重力下仕様から空間仕様であるフルバーニアンへの換装も可能なボリューム満点のキットである。そんな「ガンダム試作1号機」をフルバーニアン固定でディテールアップ。外装パーツを作り込んで、面のディテールより試作機らしさを演出している。

RX-78GP01Fb
ガンダム試作1号機(フルバーニアン)
1/60スケール プラスチックキット
"パーフェクトグレード"
制作:木謙人

RX-78GP01Fb
GUNDAM GP01Fb

BANDAI 1/60 scale plastic kit "Perfect Grade"
modeled by Noruhito Furuki

■BELONGING: Earth Federation Force ■MODEL NUMBER: RX78GP01Fb ■NAME: GUNDAM GP01Fb ■OVERALL HEIGHT: 18.5m ■TOTAL WEIGHT: 43.2t





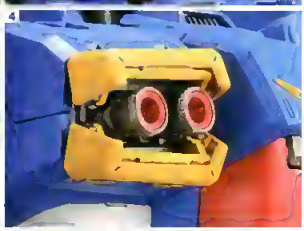

3


2


1

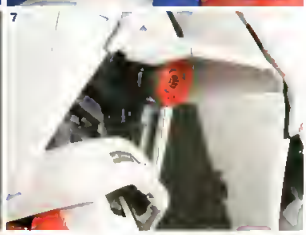

6


5


4


9


8


7



RX-78GP01Fb
GUNDAM GP01Fb

BANDAI 1/60 scale plastic kit "Perfect Grade"
modeled by Naruhito Furuki

1-2.頭部はほぼキットのまま。ライトユニットをセットしているため発光ギミックを楽しむことができる。
3-4.胸部上面は作例の見所の一つ。外装を切り欠いたうえ、市販パーツなどで内部フレーム部もディテールアップしている。胸ダクトのバーニアはキットのままでも設定通りの開閉ギミックを楽しめる。
5-6.肩アーマーは写真のように上下に分割した後に削り込んで外装にスキ間を作っている。
7.スネ裏のバーニアなどの密度感もPGならでは。
8.前腕も外装を切り欠いている。スキ間からシリンダーのディテールが覗く。
9.脚部も中央部分や側面を切り欠いている。



空間仕様であるフルバーニアンのコア・ファイターIIFbは、フレキシブルに可動するブースターポッド、前面のバーニアX4基の増設に伴い、機動力が大幅に向上。スラスターは重力下仕様のコア・ファイターIIに比べ、2倍以上の推力を誇る。



11



10

10.キャノピーは開閉可能。コクピットにはパイロットフィギュアを乗せることができるが、作例ではオミットしている。
11.ランディングギアも取り付けることができる。

Coloring Data

白…GX1番・クールホワイト
青…GX5番・スーパーブルー＋GX1番・クールホワイト少々
赤…CG2番・レッド(1)＋GX1番・クールホワイト少々
黄…CG3番・イエロー(1)＋GX1番・クールホワイト＋GX3番・ハーマンレッド少々
フレーム…61番・焼鉄色
グレー…14番・ネービーブルー＋333番・エクストラダークシーグレーBS381C/640＋2番・ブラック少々
バーニア類…SM05番・スーパーチタン
※すべてGSIクレオスの「Mr.カラー」及び「ガンダムカラー」

RX-78GP01Fb ガンダム試作1号機（フルバーニアン）

バンダイ 1/60スケールプラスチックキット
「パーフェクトグレード」

製作・文：吉木誠人

OVAが発売されて20年も経つんですね。アナベル・ガトーの「ソロモンよ、私は帰ってきた！」、コウ・ウラキの「間に合え！」は好きなセリフで、締め切りが近づくと、特に「間に合え！」を呪文のように唱えながら作業しています（笑）。

さて製作についてですが、プロポーションはいじらずにちょっとしたディテールアップで、イメージを変えてみました。「至高のガンプラをオリジナルディテールで楽しむGP01Fb編」（電撃ホビーマガジン2010年6月号）では主にスジ彫りを追加しましたが、今回は外装パーツを切り欠いたり、パーツ同士のスキ間を切り欠いて、内部フレームをちょっと見せる方向にしています。

表面処理を行い、「Mr.サーフェイサー1200」を軽く吹いて一度組み上げます。全体のバランスを見つつ、パーツを切り欠く箇所やスジ彫りをする部分をシャープペンで下書きしていきます。ここでパーツを切り欠く場所に内部フレームへの接続ピンがないかどうか、しっかり位置を確認しておきましょう。下書き後、デザインナイフや0.1ミリ厚のモデリングノコなどでモールドを彫ったり、切り欠いたりしていきます。またモールド入りのプラ板や市販パーツ、ジャンクパーツを加工して貼ったりもしています。

難しい加工ではないので、皆さんも好みのディテールを考えて楽しみながらチャレンジしてみてください。加工後はけっこう印象が変わるのでオススメです。



■BELONGING:Earth Federation Fo

NAME:GUNDAM GP01Fb ■OVERALL HEIGHT:18.5m ■TOTAL WEIGHT:43.2t

RX-78GP01Fb
GUNDAM GP01Fb

BANDAI 1/60 scale plastic kit "Perfect Grade"
modeled by Naruhito Furuki

RX-78GP01
GUNDAM GP01

BANDAI 1/100 scale plastic kit "Master Grade"
modeled by HAOKI





RX-78GP01
GUNDAM GP01
BANDAI 1/100 scale plastic kit "Master Grade"
modeled by NAOKI

■BELONGING:Earth Federation Force ■MODEL NUMBER:RX78GP01 ■MODEL NAME:GUNDAM GP01 ■OVERALL HEIGHT:18.0m ■TOTAL WEIGHT:39.7t

シリーズ屈指の名キットを徹底改修

本書用新作としてお届けするのは、MG「ガンダム試作1号機」。MG黎明期である1997年8月に発売されたキットだが、その出来の良さはシリーズ屈指。複雑なコア・ファイター収納ギミックはもちろん、メカデザイナーであるカトキハジメ氏によって、新たにMG用に描き起こされたスタイリッシュなデザインラインを忠実に再現したその内容は、今もなおMG「ドム」と並ぶベストキットに推す声も多い。作例では、作者のイメージを投影するために全身に及び徹底改修。よりマッシブなガンダム試作1号機として生まれ変わった。



RX-78GP01
ガンダム試作1号機
バンダイ1/100スケールプラスチックキット
"マスターグレード"
製作:NAOKI

RX-78GP01 ガンダム試作1号機
バンダイ 1/100スケール プラスチックキット
"マスターグレード"

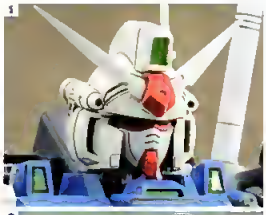
製作・文：NAOKI

個人的にこのキットにはすごく思い入れがありまして。ご存知のようにまだMGシリーズが立ち上がり始めた初期のキット。昔のMGは今のように確固たるフォーマットも確立されておらず、バンダイさんの方も手探りの試行錯誤感が感じられ、アイテムチョイスも含めて、それが良い意味でのサプライズに繋がりました。そんなMG黎明期に登場した「ガンダム試作1号機」は、いまだに傑作キットと呼び声も高いMG「ドム」と並ぶほどの名作でした。なので、今回製作の依頼を受けた時も基本的な部分は弄らずとも、各部をブラッシュアップしていけば今の目で見ても遜色ないものが完成するだろうと思っていたのですが…。結果として手の入れていないパーツがないほどの大改修になってしまいました。それだけ現在のキットの完成度が高くなり、自分の目が肥えてしまったのだと感じました。

さて、目指したのは随戦型らしいマッシブなプロポーション。一番近いイメージソースはカトキハジメさんが「GUNDAM FIX FIGURATION」用に描かれたイラストですが、完全基規というわけではなく、あくまで自分の思う「ガンダム試作1号機」として製作しています。

頭部は、頬あての部分をDVDジャケットなどに見られるイラストのような末広がりに修整。それに伴い両サイドのディテールは一度削ぎ取り新造。フェイスは赤いクマドリの面取りを変更し頬のラインも修整。アゴも形状を変更しています。首は接続部を1ミリほど延長。ディテールを新造し、胴体との接続にホビーベースの「ロールスイングジョイント」を使用し三重関節にしています。

胴体は、コクピットブロックの張り出しが気になったので、天面センサー部分で一度切







1・3.頭部はヘルメットの頬あてが末広がりになるように形状修整。フェイスも削り込んでバランスを変更している。(写真3の右がキット素組み)
4・7.胴体も細かく手を加えた部分。コア・ブロックシステムをオミットした代わりに各部の形状を大幅に見直している。(写真4がキット素組み)

Coloring Data

白…GX1番・クールホワイト+92番・セミグロスブラック:少量
青…80番・コバルトブルー+GX1番・クールホワイト+79番・シャインレッド:少量
黄色…58番・黄橙色+GX1番・クールホワイト+79番・シャインレッド:少量
関節グレー…331番・ダークシーグレーBS381C/638
バックパック…92番・セミグロスブラック+GX1番・クールホワイト:少量
武装…37番・RLM75 グレーバイオレット+92番・セミグロスブラック+GX1番・クールホワイト:少量
※すべてGSIクレオスの「Mr.カラー」



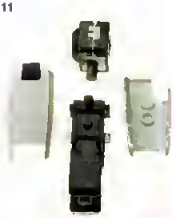




8-9. 腕は上腕からヒジ関節までをMG「ガンダムVer.2.0」から移植。前腕はタテに2ミリ、ヨコに1ミリ、プラ板を挟んで延長・大型している。
10-11. 脚部はMG「ガンダム試作3号機ステイメン」をベースに試作1号機の意匠を盛り込んでいる。また、上面のフレームを切り離し、回転軸を追加して股関節の可動範囲を広げている。













12-13. キット素組み（写真右※一部スミ入れ済み）との比較。作例は作者の目指したよりマッシブな体形になっているのが分る。

り離し、前後幅を縮めます。コア・ブロックの変形／合体はオミットしたので、ハッチは接着しヅライチにしたうえでラインを変更。胸ダクト部分は新造。肩部センサーは取り付け位置を前方に。Aパーツとコア・ブロックの間に1ミリプラ板で幅増し&腰部との接続部分で2ミリ延長、股間ブロックを縦・前方向に大型化し胴体を長く見せています。フロントアーマーは大型化したうえで形状変更。サイドアーマーは胴体から離れ過ぎてラインが崩れているので、基部を加工し密着させています。腕ももっと密着させ下半身のマッシブさを強調するために、腕部受け軸を2ミリほど切り詰めています。

腕は全体的に細く、ヒジ関節も貧弱に見えるので、上腕部をMG「ガンダムVer.2.0（以下2.0）」から流用。ディテールはポリパテで新造しています。前腕はタテ2ミリ、ヨコ1ミリ大型化。前腕センサーは新造。肩アーマーも大型化&形状変更。ディテールも一度削り取り新造しています。上記の理由で腕部をより胴体に密着させるため、肩部の受け穴を薄くカットしています。シールド取り付けは別パーツになっているディテールパーツを利用し、MG「2.0」の基部を取り付けられるように変更。

脚部はよりマッシブな下半身にするためMG「ガンダム試作3号機ステイメン（以下ステイメン）」のものを流用。そのままだと股間幅が広すぎるので、キットの股間軸を1、5ミリほど幅詰めして使用しています。可動範囲拡大のため太モモ部分に回転軸を新造。ポリキャップを埋め込み接続しています。ヒザースネは「ステイメン」のものを、ディテールを埋めたり追加したりで流用しています。アンクルガードはキットを使用し、より自然な流れになるように前半部分をカット、形状変更した後角度を変えて再接着。足首はキットのものを使用。甲部分のラインを修整しています。

RX-78GP01Fb
GUNDAM GP01Fb

1/100 scale plastic kit "Mastergrad" modeled by Tobi





RX-78GP01Fb
GUNDAM GP01Fb
GUNDAM 1/100 scale plastic kit "Master Grade"
Modeled by Tatsuya Yonezu

スタイリッシュなイメージを投影して MGフルバーニアンをリビルド

1997年12月にリリースされたMG「ガンダム試作1号機フルバーニアン」。10年以上も前に発売されたものながら、「ガンダム試作1号機」同様にファンの間からは今もなお名キットとして評価が高いアイテムだ。そんな秀作を、作者オリジナルアレンジを効かせたスタイリッシュなプロポーションに改修。コア・ファイターギミックはオミットしているが、その分プロポーション変更に注力している。



RX-78GP01Fb
ガンダム試作1号機 (フルバーニアン)
バンダイ1/100スケールプラスチックキット
"マスターグレード"
製作:米津辰哉

■BELONGING:Earth Federation Force ■MODEL NUMBER:RX-78GP01Fb ■MODEL NAME:GUNDAM GP01Fb ■OVERALL HEIGHT:18.5m ■TOTAL WEIGHT:43.2t



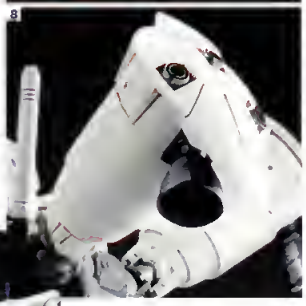
1. 腹部は腹のダクト内部にモールド入りのプラ板をはめ、バルカン砲身を市販パーツでデコレートしている。側面部のアンテナは作者の好みでオミット。
2. 首はアゴがさらに引けるように2ミリ延長。伸ばした部分に市販パーツでカバーをしている。
3. 肩関節を市販パーツやプラ材などで新造している。
4. 腰前後のアーマーはエポキシパテ（以下エポパテ）で埋めた後プラ板でディテールを追加。
5. 肩アーマーはプラ板を挟み、上下に2ミリずつ大型化。上腕は1ミリ幅詰めし、前腕を6ミリ延長して腕全体のバランスを変更。なお、手首はMG「ガンダムVer.Ka」のものを流用している。
6. 製作途中写真。プラ板をスペーサーにして各部の延長、大型化がなされているのが分かる。

Coloring Data

白…GX1番・クールホワイト＋45番・セールカラー
赤…79番・シャインレッド＋GX1番・クールホワイト
青…80番・コバルトブルー＋GX1番・クールホワイト＋34番・スカイブルー
グレー…37番・RLM75グレーバイオレット＋43番・ウッドブラウン
※すべてGSIクレオスの「Mr.カラー」及び「Mr.カラーGX」







7.脚部は太モモをフレームで6ミリ，外装で5ミリ延長。足首のボールジョイントの軸を短くして外側にオフセット，足の接地性を高めている。ツマ先はエポパテで箱っぽく形状変更した。
8.ブーストポッドは円筒部分を市販パーツで新造，形状変更している。
9.ビーム・ライフルは市販パーツやジャンクパーツでロングバレルタイプに。シールドは接続基部をMG「ガンダムVer.2.0」から流用している。

RX-78GP01Fb ガンダム試作1号機「フルバーニアン」
バンダイ1／100スケールプラスチックキット「マスターグレード」

製作・文／米津辰哉

キット自体は10年以上前のもので，過去様々な作例が発表されているので，今回はプロポーションを中心にいじってみました。

頭部は頬のダクトなどにモールド入りプラ板を貼り込んだ程度です。側面のアンテナは付けずに基部を埋めています。

胴体はコア・ファイターギミックを省略し，胸部中央のコクピットブロックの底で2ミリかさ上げして接着。さらに首を2ミリ延長し，よりアゴを引いた状態にできるようにしました。また，肩軸の基部にフレーム状のパーツを追加してあります。腰サイドアーマーの軸受けを切り取り，2ミリほど下に設置。前後のアーマーは上下に幅詰めして小型化し，裏をエポキシパテ（以下エポパテ）で埋めています。背部ブーストポッドのシルエットを三角錐から，より筒状にしたかったので，市販のバーニアパーツの組み合わせで作り直し。基部は流用パーツでメカっぽく。

肩上部のバーニアブロックを内側に4ミリ延長し，フレーム風のパーツを追加。バーニアのギミックはオミットして市販パーツでディテールアップ。肩アーマーは上下に2ミリ幅増しし，裏に0・5ミリプラ板を貼り付けて大型化。上腕を1ミリ幅詰めし，前腕を6ミリ延長してバランスを調整。脚部は太モモをフレームで6ミリ，外装で5ミリ延長。股関節に干渉する部分を切り欠いています。足首のボールジョイントの軸を短くし外側にオフセット，足の接地性を高めています。スネアーマーは一旦カットし角度を付けて再接着。ツマ先はエポパテで箱っぽく形状変更。

ビーム・ライフルはプラ材とジャンクパーツでロングライフルにしてみました。シールドの接続部はMG「ガンダムVer.2.0」から流用しています。

RX-78GP02A
GUNDAM GP02A

Part of 1/60 scale plastic kit "Master Grade"
Text by Kazuhiko Tamura



上半身のボリュームアップで イメージを変える!

ドムなどの重MSの流れを汲むGP02A。キットは比較的スマートな体形でスタイリッシュにまとめられた印象だ。そこで、GP02Aの設定画のイメージである、どっしりとしたスタイリングをさらに強調するため、作例では上半身を中心にボリュームアップ。太モモを短くし、その分足首関節を延長してヒザから下を伸ばして脚部のバランスを変更。より力強いGP02Aが完成した。

RX-78GP02A
ガンダム試作2号機
バンダイ1/100スケールプラスチックキット
"マスターグレード"
製作:田村和久




RX-78GP02A
GUNDAM
BANDAI 1/100 scale plast
modeled by Kazuhisa Ta



Coloring Data

白…GX1番・クールホワイト:90%
　+19番・サンディブラウン:5%
　+42番・マホガニー:5%
黄…113番・RLM04イエロー:70%
　+19番・サンディブラウン:30%
赤…114番・RLM23レッド:50%+1番・ホワイト:20%
　+158番・スーパーイタリアンレッド:30%
青…CG54番・ブルー(12):40%+67番・パープル:40%
　+1番ホワイト:10%+2番・ブラック:10%
グレー…CG100番・グレー(24):70%+1番・ホワイト:30%
黒…116番・RLM66ブラックグレー:80%+1番・ホワイト:20%
関節…CG100番・グレー(24):30%+42番・マホガニー:25%
　+1番・ホワイト:15%
バズーカ白…97番・灰色9号
※すべてGSIクレオスの「Mr.カラー」及び「ガンダムカラー」

1-2. 頭部はヒサシの下を削り、フェイスパーツを上に位置変更。これにより小さいに目付きが鋭く見えるようになった。またフェイスパーツは中央に切り込みを入れてハの字に広げてボリュームアップしている。
3-4. 胴体は製作途中写真**4**をご覧いただくと分かるように、中央と左右で3分割しプラ板を挟んでボリュームアップ。
5-6. 腕部は上腕を2ミリ程度切り詰め、前腕のシリンダー状のパーツをプラ棒やプラ材で新造している。













RX-78 GP02A ガンダム試作2号機

バンダイ／1/100スケール プラスチックキット
マスターグレード

製作・文 田村和久

「0083」は大好きな作品のひとつですが、20年も前のものだということに改めて驚きます。時が経つのは早いものだと実感。しかし作品はまったくその年月を感じさせず、今見ても非常に楽しめるものとなっています。試作機を中心とした機体開発の模様や、地上と宇宙空間でのセッティング変更などメカニカルな部分の描写も深い作品です。

さて今回はMG「GP02A」の製作。戦術核兵器が有効な射程まで高速で突入し敵を殲滅するという特殊なコンセプトの下に開発された機体を、MGを使って組み上げます。全体のプロポーションはバランスを同シリーズの「GP01」に合わせたためか、設定画よりもスマートな印象です。「GP02A」らしく力強いフォルムを出したいと思い、各部のバランスを調整しました。

上半身は外装をコクピットの左右両脇あたりのラインで切り離し、中央と左右で3分割。切断面に1、2ミリプラ板を挟んで再接着。横方向に2ミリ程度幅増しました。上腕は内部のポリキャップが干渉しないラインで2ミリ短縮。同じように太モモは4ミリ短縮。足首関節は6ミリ延長して、脚部のバランスを変えつつ足裏の接地性を上げます。足首を延長して生じたスキ間は、装甲の端にプラ板を貼り付けています。

頭部はコンパクトな印象にするため、ヒサシの下辺を削り、フェイスパーツを上へ位置変更。フェイスは細めなので、表側から中央に切り込みを入れてハの字に広げました。前腕のパイプ状の部分はひとまわり太いプラ棒に置き換えて密度を上げてみました。左肩やバズーカのセンサーはウェーブ「H・アイズ」に置き換え、胸の丸ダクト枠はハイキューパーツ「MJティッシュ」を使用しました。

7-8.脚部は太モモを4ミリ切り詰め、その分足首関節を6ミリ延長。脚部プレアーもそれに合わせて外側を中心にプラ板で延長している。
9.アトミック・バズーカはセンサー部分をクリアーパーツに置き換えたのみ。
10.シールド裏側にはバズーカの砲身が装備されている。砲身は作例オリジナルのカラーリングで塗り分けている。


RX-78GP03S
GUNDAM
GP03S
BANDAI 1/100 scale plastic kit "Master Grade
modelled by yumoto



RX-78GP03S
GUNDAM GP03S
scale plastic kit "Master Grade"
modeled by yumoto

■BELONGING:Earth Federation Force ■MODEL NUMBER:RX78GP03S ■MODEL NAME:GUNDAM GP03S ■OVERALL HEIGHT:18.0m ■TOTAL WEIGHT:41.6t

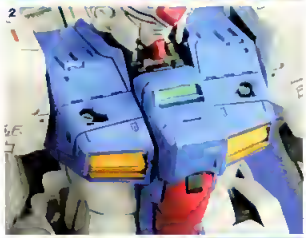
コア・ファイターギミックをオミットして自分好みのスタイル&ディテールに!

本書用新規作例の3作目は2001年4月に発売されたMG「ガンダム試作3号機ステイメン」。MGオリジナルのコア・ファイター搭載ギミックを内蔵した意欲作。作例ではコア・ファイター搭載ギミックはあえてオミットして、全体的にスタイリッシュなバランスになるように改修。作者オリジナルのディテールと相まって最新試作機らしい洗練された「ガンダム試作3号機ステイメン」が完成した。



RX-78GP03S
ガンダム試作3号機ステイメン
バンダイ1/100スケールプラスチックキット
"マスターグレード"
製作:yumoto











RX-78GP03S GUNDAM GP03S

BANDAI 1/100 scale plastic kit "Master Grade"
modeled by yumato



1.頭部は各アンテナ類をシャープに削り込んだほか、フェイスパーツの頬にあたる部分を削り込み小顔に。アゴはプラ板で延長している。
2.胸上面はすべてモールドを彫り直した後、一部開孔して市販パーツなどでデコレートしている。
3.バックパックはコア・ファイター収納タイプではないほうの劇中版を選択。また各バーニアはアルミ製金属パーツなどに交換している。
4.肩アーマーはプラ板を足して大型化。ダクト部分は開孔した後、スリット入りのプラ板を裏から貼っている。











5.フォールディング・サポートアームのギミックはキットのままでも再現可能。作例では各パーツのすり合わせを綿密に行って塗装後の干渉を少なくしている。
6.スネを含め、全身各所にスジ彫りを追加している。
7.テールバインダーは、0.5ミリのプラ板でフィンを大型化。その他プラ板にて作例オリジナルのフィンも追加している。
8.武装は右からフォールディング・シールド、ビーム・サーベル、ビーム・ライフル、自作のロング・ビーム・ライフル、フォールディング・バズーカ。作例オリジナルのロング・ビーム・ライフルは、GP01とGP04の中間のデザインをイメージしている。

RX-78GP03S ガンダム試作3号機ステイメン

バンダイ／1/100スケール プラスチックキット "マスターグレード"

製作・文：yumoto

キットは今から10年前のものですが、組み立て易いキット構成で個々のパーツの形状も良く、とても好感の持てるキットです。しかし、MGシリーズも常に進化を続け、今の目で見ると全体のプロポーションなど時代を感じさせるような"気になる部分"も。でも、この"気になる部分"というのが、個人的には"ここをもう少し直せばもっと良くなるなぁ"という部分を見つけて自分好みに改修できるので大好きです。

ヘルメットはV字アンテナ、左右のダクトのフチを薄くしています。フェイスはヘルメットへの取り付け位置を約1ミリ奥に移動。首は接続軸で約1ミリ延長し、取り付け位置を約1ミリ後方に。首の裏側にはメッシュパイプを通してディテールアップ。

作例は全天周モニター仕様で製作。胸部のモールドは彫り直して、プラ板、市販パーツなどでディテールアップ。胸の黄色いダクトは上下に0.25ミリのプラ板を追加。腰は短く感じたのでフレームごと上下方向に約7ミリ延長。併せてフロントアーマーも約7ミリ延長、約1ミリ幅増しています。肩アーマーはプラ板で大型化。ダクトは開孔して内部にスリット入りのプラ板を取り付け。上腕もプラ板で1ミリ延長しています。太モモはフレームで約2ミリ延長。脚がハの字に開くように股関節フレームを一部カット。ヒザ・スネにはスジ彫りを追加。テールバインダーは、0.5ミリのプラ板でフィンを大型化。またオーキスとのドッキング部分は、それらしく見えるように自作のバインダーを追加しています。GP系の特徴的な黒いラインは、ハセガワ「カーボンフィニッシュ」を貼ってみました。



MS-06F-2 ザクⅡF2型
バンダイ1/100スケールプラスチックキット
"マスターグレード"
製作:岩田トシオ

BELONGING:Delaze Fleet ■ MODEL NUMBER:MS-06F-2 ■ MODEL NAME:ZAKU F2 ■ OVERALL HEIGHT:17.5m ■ TOTAL WEIGHT:49.9t



MS-06F-2
ZAKU II F2

BANDAI 1/100 scale plastic kit "Master Grade"
madeled by Toshio Iwata

グフカスタムのパーツも使って徹底改修

2002年4月に発売されたMG「ザクⅡF2型」は、先に発売されたMG「グフカスタム」からさらに発展させた脚部フレーム構造や豊富な武装など、当時はファンの間で仮想MG「ザクVer.2.0」とも呼ばれ高い評価を受けた。しかしながらカトキハジメ氏の描いたアニメ設定画からは多少のアレンジ(ヒザや胸の形状など)が加えられており、アニメ設定のイメージを追求するには形状の変更などが必要となる。本書用新作として、このMG「ザクⅡF2型」をアニメ設定に近付けるべく徹底改修。MG「グフカスタム」も用いながら各部形状を再構築している。



2



1

1-2.頭部はダクトのフチの肉厚を削って薄くし、モノアイは市販パーツに置き換えてキットのものより小さくしている。





MS-06F-2
ZAKUⅡF2
BANDAI 1/100 scale plastic kit "Master Grade"
modeled by Toshio Iwota



4



3

3.胴体は胸部両脇をMG「グフカスタム」から流用。コクピットカバーは取り付け位置を変更してキットの状態よりもさらに寝かせた角度で固定。スカートアーマーはフロント部分をばらして一枚ずつ形状修整している。
4.足首はMG「グフカスタム」のものをベースにツマ先を延長しつつ形状変更。足首上面のカバーは可動の邪魔にならないように、市販ボールジョイントで独立可動できるように修整している。



5-6.腕は前腕を幅詰めし、逆にヒジブロックは大型化。上腕は削り込んでエッジを落として丸みを出している。
7-8.脚部は太モモを削り形状修整。ヒザアーマーはプラ材などで新造している。

Coloring Data

緑…153ストーングリーン+018エメラルドグリーン
グレー…221ドゥンケルグラウ
バーニア…125スタープライトアイアン
※すべてガイアノーツの「ガイアカラー」

MS-06F-2 ザクⅡF2型

バンダイ 1/100スケールプラスチックキット
マスターグレード

製作・文・岩田トシオ

ザクⅡF2型のアニメ設定画は、ザクFZ型の形状を意識したデザインですが、MGはかなりアレンジが入っています。立体アレンジとしては面白いのですが、今回はキットの良い部分を活かしつつ、アニメ設定画に近づける方向で製作。流用パーツとして、MG「グフカスタム」を使用しました。

頭部は、口ダクト部分の肉厚を削りました。モノアイは少し大きめで顔がかわいく見えるため、市販パーツに置き換えました。素組みで作る場合も、頭部のパイプはスキ間が出やすいので、コマの角度調整を行ったほうが良いでしょう。

胴体は、上半身のボリュームを抑えつつ形状変更。胸部前脇はMG「グフカスタム」のものを形状変更して流用。コクピットカバーは、切り込みを入れて、取り付け角度を寝かせ気味に修整。スカートアーマーはフロント部分をばらして、一枚ずつ形状を修整して分割位置を変更して再接着。結構大変でした(笑)。股関ブロックは前方に延長しています。

脚部は足首をMG「グフカスタム」より。ツマ先を延長しつつ形状変更。ヒザは自作し、ヒザが潜り込むように太モモの形状を変更。太モモは後ろ側も設定とかなり違いますが、今回はスルー。腕は前腕部分を幅詰めして、ヒジブロックを大型化しました。上腕部分はパーツを削り込んで、エッジを落としています。

武装ですが、MMP-80マシンガンは、連邦軍仕様に、ロケットブースターはジオン軍仕様に付属。予備マガジンも必要なのでキットが3個必要(笑)。

塗装は個人的な好みで、青味を強くしております。



RGM-79C
GM TYPE C

BANDAI 1/100 scale plastic kit
"Master Grade"
modeled by Keiichi Takamura

後ハメ加工を中心に工作する

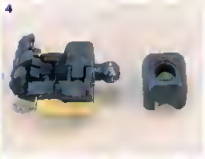
MG「ガンダムVer.Ka」をベースに新パーツを加えることで商品化された「ジム改」。MGとしては比較的パーツ数が抑えられ、初心者にも組みやすいキットになっている。作例では一番の攻略ポイントである頭部バイザーの後ハメ加工を中心に製作。豊富な武装も丁寧に仕上げている。

RGM-79C ジム改

バンダイ1/100スケールプラスチックキット
"マスターグレード"
製作:中村圭



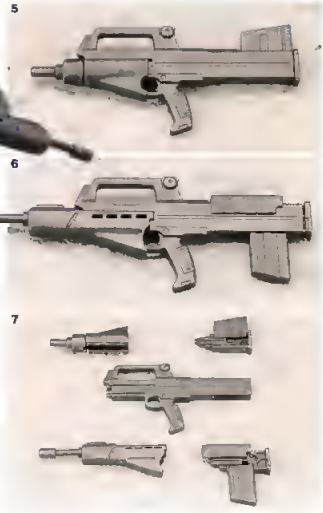












1-2.頭部はバイザー部分のクリアーパーツが挟み込み式となっているため、マスキングの手間を省くために後ハメ化。頭部パーツの分割ラインを写真2のように変更して対応している。
3-4.手首のグレーパーツも後ハメに。前腕内部の接続ピンを利用して、グレーパーツを固定する。グレーパーツを前腕側でプラ板にてコの字形に延長して形状変更。接続ピンにはめる仕組みにした。
5-7.マシンガンはパーツの組み換えでジム・ライフル(写真5)と90ミリマシンガン(写真6)の両方を再現できる。またその他にビーム・スプレーガンも付属する。


148
E.F.S.F.

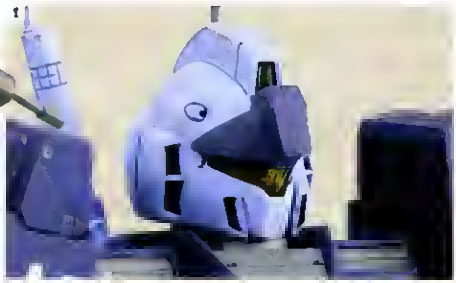

BELONGING: Earth Federation Force
MODEL NUMBER: RGM-79N
MODEL NAME: GM CUSTOM
OVERALL HEIGHT: 18.0m
TOTAL WEIGHT: 42.0t
148
RGM-79N
GM CUSTOM
BANDAI 1/100 scale plastic kit "Mobile Suit"
madeled by Takayuki Kamitsu

ジム改との二個イチでMGジム・カスタムをブラッシュアップ

MG「ジム・カスタム」は1999年12月に発売されたMG初期のキット。MG「ガンダム RX-78 NT-1」とのパーツ共有で商品化されたため、足首などは設定と大きく異なったアレンジがされていた。本書用新作は、比較的新しいアイテムであるMG「ジム改」との二個イチ工作で、よりアニメ設定画稿に近いジム・カスタムの再現を試みている。カラーリングは作者オリジナル、配色は劇場版『機動戦士Zガンダム』に登場したエゥーゴカラーを参考にしている。

RGM-79N ジム・カスタム
バンダイ1/100スケールプラスチックキット "マスターグレード"
製作:小松敬幸

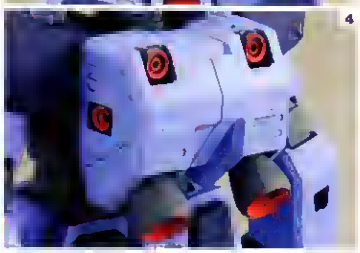






1.2.頭部はバイザー内部のメカパーツを後ハメ加工。両頬のダクトを深く彫り込んでいる。
3.脇腹にメリハリが足りないと感じたので、段差に向かって斜めに、脇のスリットの深さ分削り込んでいる。
4.バックパックは、装甲の上部と背部を接着。合わせ目を消して一体にしている。









Coloring Data

ダークブルー…CG90番・ブルー(23)
ライトブルー…1番・ホワイト:70%+80番・コバルトブルー:30%
グレー…13番・ニュートラルグレー
赤…68番・モンザレッド
黄…58番・黄橙色
※すべてGSIクレオスの「Mr.カラー」及び「ガンダムカラー」

5.腕部はMG「ジム改」をベースにヒジの丸一モールドを切り取り、上腕装甲の半円部にプラ板を接着して修整している。
6.脚部はもっとも改造を加えた部分。MG「ジム改」をベースにスネで5ミリ延長。フレームはシリンダーの下、装甲はフクラハギ部分を切り取って、フレームと同じ辺りで分割。MG「ジム・カスタム」から切り離したヒザアーマーを接着し、フクラハギとの合わせ目を光硬化パテで修整して形状を合わせている。
7.ジム・ライフルとビーム・サーベルはMG「ジム改」を使用。シールドは「ジム改」のマウントパーツを使用できるように接続軸のポリパーツを変更している。





RGM-79N ジム・カスタム

バンダイ 1/100スケール プラスチックキット
"スターグレード"

製作・文・小松敏幸

当初は「ジム改」を使った"カトキスリッパ"のお手軽再現、予定でしたが、簡単には付かないことが即判明。「ジム・カスタム」に「ジム改」の腕と脚を組み合わせる二個イチに路線変更しました。比較するとスネが細く短いのが原因のようなので、その辺りの加工が中心になります。

■脚を伸ばそう

胴体は、肩関節にプラ板を巻いて軸径を変更。脇腹にメリハリが足りないと感じたので、段差に向かって斜めにスリットの深さ分だけ削りました。僅かな差ですが効果はあったと思います。腰部はフロントとリアのバーニアを市販パーツと「ジム改」のパーツに変更。バックパックは内部フレームの構造に不安があったので、左右のパーツをプラ板でつないで補強。ボールジョイントの軸も補強しています。ビーム・サーベルは「ジム改」の物を使用するため、コネクター部を作り直しました。

腕部はヒジの丸一モールドを切り取り、上腕装甲の半円部にプラ板を接着して修整。前腕は手首周りの加工で、マウントラッチ側がボリューム不足に見えたため、プラ板で1ミリ大型化しました。肩アーマーの取り付けプレートも「ジム改」の物に変更しています。

工作メインである脚部はスネで5ミリ延長。フレームはシリンダーの下、装甲はフクラハギ部分を切り取って、フレームと同じ辺りで分割しました。「ジム・カスタム」から切り離したヒザアーマーを接着し、フクラハギとの合わせ目を光硬化パテで修整。フクラハギは上下で小型化していますが、後部装甲は逆に後ろ側へ大型化しています。



RGM-79Q GM QUEL

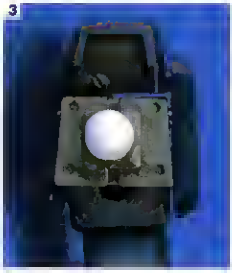
BANDAI 1/100 scale plastic kit "Master Grade"
modeled by Tadashi Ikeda

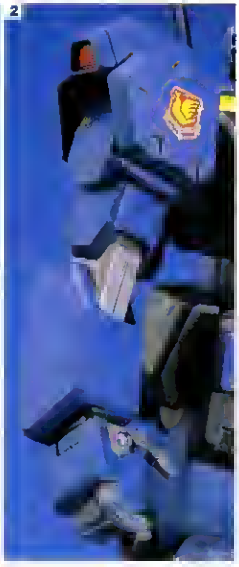
細部をディテールアップして丁寧に仕上げる

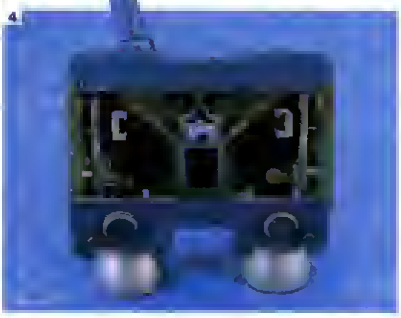
1999年12月に発売されたMG「ジム・クゥエル」は先に発売された「ジム・カスタム」同様、「ガンダム RX-78NT-1」からのパーツ流用で再現されたキットだ。作例では各部装甲裏のディテールアップや、金属パーツの使用により、さらにシャープで密度感のある作品に仕上げている。











1、頭部は後頭部左側から伸びるアンテナとバルカン砲をシンチュウパイプに置き換えている。
2・3、腕はほぼキットのままだが、肩アーマーの本体側に市販パーツを使ってディテールを追加している。(写真3参照)
4、バックパックはバーニア付近の裏側をプラ板で埋めて市販パーツを貼っている。またビーム・サーベルの放電針(?)はシンチュウパイプに置き換えている。
5、キットではバズーカは付属しないが、作例ではMG「ガンダムMk-Ⅱ」のものを流用して持たせている。それ以外のGMライフル、ビーム・ライフル、ビーム・サーベルはキット付属のもの。

Coloring Data

黒…14番・ネービーブルー+5番・ブルー+2番・ブラック:少々
青…65番・インディブルー+80番・コバルトブルー+50番・クリアーブルー+5番・ブルー
赤…68番・モンザレッド+47番・クリアーレッド
関節等…8番・ジルバー+2番・ブラック+9番・ゴールド:少々
※すべてGSIクレオスの「Mrカラー」

RGM-79Q ジムクゥエル

バンダイ 1／100スケール プラスチックキット "マスターグレード"

製作・文:池田正

まず頭部はパーツE2を先に塗装しておき、H1とF14を取り付けます。バルカン砲とアンテナはシンチュウパイプに置き換えました。肩パーツは胴体側にディテールがないので、市販パーツなどでディテールアップ。ヒジ関節は塗装後にマスキングして上腕を組み込みます。

胴体は色ごとにパーツが分割されているので、塗装の際も非常に楽です。胸のインテークは本体側を削り込むことで後ハメが可能です。またバックパックは前から見た際に丸見えになる肉抜き穴にプラ板を貼って隠しています。ビーム・サーベルは設定画にあった小さな放電針(?)をシンチュウパイプで再現。武装はオマケとしてMG「ガンダムMk-Ⅱ」のバズーカを追加しています。



HIGH GRADE & HIGH GRADE UNIVERSAL CENTURY

ハイグレード&ハイグレードユニバーサルセンチュリー編

ここからはもっともラインナップが充実しているHGUC
とHG、そして1/550スケールで展開されたHGメカニ
クスを使った改造作例及びジオラマを紹介していこう。

CONTENTS

055 RX-78GP01 ガンダム試作1号機／岩田トシオ
056 RX-78GP01Fb ガンダム試作1号機フルバーニアン／大江健
057 ジオラマ「ベール・ギュント」／コジマ大隊長
060 RX-78GP02A ガンダム試作2号機／岩田トシオ
061 RX-78GP02 ガンダムGP02A(MLRS仕様)／人首猛
062 ジオラマ「プライドを賭けた決闘」／角田勝成
065 RX-78GP04 ガーベラ 佐藤弘(オーバーダード)
066 AGX-04 ガーベラ・テトラ／VAN
070 RX-78GP03 ガンダム試作3号機／岬光彰
075 RX-78GP03S ガンダム試作3号機ステイメン 射水宏
076 RGM-78 パワード・ジム／今井康博
078 RGM-79C ジム改／市川貴秀
080 コラム：オーガスタで開発されたMS
081 RGC-83 ジム・キャノンII Mo8
084 RGM-79N ジム・カスタム／yumoto
087 RGM-79Q ジム・クゥエル／岩輔
090 MS-06F-2 ザクIIF2型／岩田トシオ・人首猛・岡田雅之
094 MS-09F/TROP ドム・トローペン(サンドブラウン)／大橋宗一郎
095 MS-09F/TROP ドム・トローペン 岩田トシオ
096 ジオラマ「熱砂の攻防戦」 角田勝成
099 MS-14Fs ゲルググM 指揮官機 VAN
102 MS-14F ゲルググM 岡田雅之
103 MS-21C ドラッツェ／コジマ大隊長
104 MS-09R-2 リック・ドムII／岡田雅之
106 RX-78GP03 ガンダム試作3号機／岡田雅之
109 AMX-002 ノイエ・ジール／人首猛
112 MA-06 ヴァル・ヴァロ／岡田雅之
114 YMS-16M ザメル コジマ大隊長
118 アルビオン 岡田雅之

好キットをさらに ハイクオリティーに

2000年8月に発売されたHGUC「ガンダム試作1号機」は、コア・ファイター搭載ギミックはオミットされているものの、プロポーション、ディテールともに申し分ない好キット。作例では細かい部分の修整を行い、さらに作例としてのクオリティーを高めている。

RX-78GP01 ガンダム試作1号機
バンダイ1/144スケールプラスチックキット
"ハイグレードユニバーサルセンチュリー"
製作:岩田トシオ



RX-78GP01 GUNDAM GP01

アナハイム社製 汎用多目的型 モビルスーツ

地球連邦軍の「ガンダム開発計画」に基づいてアナハイム・エレクトロニクス社が開発したガンダム・タイプの試作1号機。RX-78ガンダムのコンセプトを継承しコアブロック・システムを搭載している。コードネームは「ゼフィランサス」。



RX-78GP01 GUNDAM GP01

BANDAI 1/144 scale plastic kit
"High Grade UNIVERSAL CENTURY"
madeled by Toshia Iwata



2



1

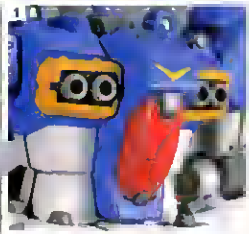


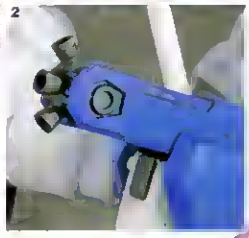
3



1.頭部はフェイス部をFG「ガンダム」のものに差し替えている。
2.バックパックはコア・ファイターIIの尾翼モールドが入っているので、削り落として、スキ間をパテで埋めている。
3.付属するコア・ファイターIIも丁寧に塗り分けている。







1.胸のバーニアは差し替えで展開状態を再現できる。
2.作例では肩アーマーごと差し替えることでバーニアが展開した状態を再現した。
3.コア・ファイターIIも丁寧に塗り分けている。





細部のディテールアップで引き締める

「ガンダム試作1号機」に続いて2000年12月発売されたHGUC「ガンダム試作1号機フルバーニアン」は、「試作1号機」からほとんどのランナーが新規に入れ替えられた意欲作。胸のバーニアなども差し替えで展開状態を再現できる。作例では細部をディテールアップすることで、より引き締まった印象を受ける。

RX-78GP01Fb
ガンダム試作1号機フルバーニアン
バンダイ1/144スケールプラスチックキット
"ハイグレードユニバーサルセンチュリー"
製作:大江健

RX-78GP01Fb GUNDAM GP01Fb

試作1号機の宇宙戦仕様

ガンダム試作1号機の各部ユニットを宇宙戦用に換装した機体。月面のアナハイム・エレクトロニクス社の工場にて換装された。全身にバーニアを装備していることから「フルバーニアン」と呼ばれる。



RX-78GP01Fb GUNDAM GP01Fb

BANDAI 1/144 scale plastic kit
"High Grade UNIVERSAL CENTURY"
modeled by Ken Ohe

DELAZE FLEET
MUSAI GRADE LIGHT CRUISER

PEER GYNT

BANDAI 1/144 scale plastic kit
"High Grade UNIVERSAL CENTURY"use diorama
modeled by Kojima Daitaichou



出撃準備

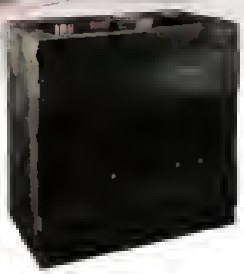
デラーズ・フリート ムサイ級軽巡洋艦後期型"ペール・ギュント"
バンダイ1/144スケールプラスチックキット
"ハイグレードユニバーサルセンチュリー"使用ジオラマ
製作:コジマ大隊長

RX-78GP02A ガンダムGP02A
MS-09R-2 リック・ドムII
MS-06F-2 ザクFII型
※すべてHGUCシリーズ



星の屑作戦前夜、ペール・ギュント格納庫内をジオラマで再現!

ソロモンへの「星の屑作戦」開始前夜、ソロモン海域に潜伏するデラーズ・フリート軽巡洋艦のMS格納庫内では、出撃を控えたモビルスーツたちの最後の整備点検が行われていた。OVA第9話「ソロモンの悪夢」のワンシーンを箱型の電飾ジオラマで再現。HGUCシリーズを3個用いて、デラーズ・フリート軽巡洋艦後期型ペール・ギュントの格納庫内の喧騒をコジマ大隊長が見事に演出している。



ジオラマボックス

➡ジオラマボックスは左右を蝶番で繋いで展開可能に。これは撮影時のアングルを広げる以外にも作業性の向上にも繋がる。しかし強度を確保する上では補強材が不可になるので注意を。

デラーズ・フリート ムサイ級軽巡洋艦 後期型ペール・ギュント

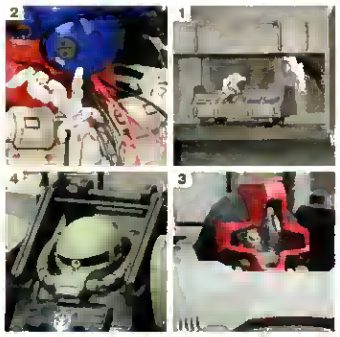
バンダイ 1/144スケール プラスチックキット
バイグレード ユニバーサルセンチュリー・使用ジオラマ
製作・文:コジマ大隊長

「星の屑作戦」発動を待つ時点での軽巡洋艦ペール・ギュントの格納庫内を描写しました。ムサイ後期型は4本のカタパルトを備えていますが、大型MSであるGP02Aとリック・ドムIIに加え、艦隊直掩のザクIIF2型1機、残りの1本にはGP02Aのシールドをマウントし、射出時までの退避スペースとして利用していると想定しました。

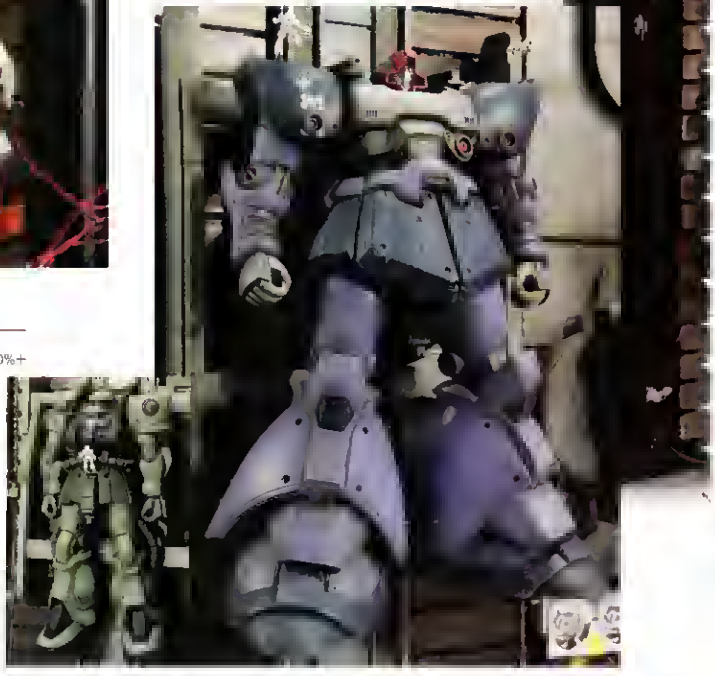
ザクIIF2型は搭載機中もっとも古くから使われている機体ですが、ペール・ギュントでは艦隊の防衛用として控えの扱いなので、ポイントを絞ってのスジ彫りの追加とプラ材によるディテールアップを。動力パイプと肩アーマーのスパイクは市販パーツに置き換えています。塗装はマホガニーで全体を下塗りした後、シリコンバリアをブラシ吹きしてから基本塗装を行い、爪楊枝やデザインナイフで擦り落とす「塗装ハゲ」を加えています。

カリウスの乗機リック・ドムIIは、股間軸を約2ミリ下げ、首のジョイントも2ミリ下げることで下半身は大きく、反対に上半身は小さく見せます。基本塗装後にエナメル塗料の明灰白色でウォッシング、ファレホのライトグレーでエッジに擦れを描き込んでいます。機体番号の「302」は劇中のセリフから元第302哨戒中隊所属機という戦歴を表現。GP02Aは、バルカン部分の塗り分けが楽にできるように頭部の分割線を変更、腕部・脚部フレームは後ハメできるよう加工。3機の中ではもっともロールアウトが遅く損傷が少ないはずですが、劇中では結構ハードに使われているので、ファレホでウォッシングし、油絵の具で細かいチッピングを描き込みました。MSベッドは連邦仕様の拘束治具がないため、急造品のものを使っているかのようにアレンジ。3機ともにアプローチを変化させたウェザリングを施して、質感の差を演出し





1.低重力の格納庫内で作業をするデッキクルー。操作盤まで細かく造形されているのが分かる。
2.GP02Aは劇中に合わせてコクピットハッチを開け、コード類を繋いでいる。
3.カリウスのリック・ドムⅡはモノアイ内部も作り込み、バイザーはクリアーパーツに変更。
4.MSを整備するフックはプラ板などで作り、レジンで複製して数を揃えている。



Coloring Data

■GP02A
白…GX1番・クールホワイト:90%+313番・イエローFS33531:10%
赤…158番・スーパーイタリアンレッド:90%+純色イエロー(G):10%
青…80番・コバルトブルー:80%+GX1番・クールホワイト:20%
黄色…58番・黄橙色
グレー…MT02グレートーン2
■リック・ドムⅡ
紫…74番・エアスペリオリティーブルー:50%+純色マゼンタ(G):10%+純色シアン(G):10%+GX1番・クールホワイト(30%)
濃紺…71番・ミッドナイトブルー:60%+純色シアン(G):30%+GX1番・クールホワイト:10%
赤…100番・マルーン
グレー…MT02グレートーン2
関節…MT03グレートーン3:80%+純色マゼンタ(G):15%+純色シアン(G):5%
■ザクⅡF2型
薄緑…56番・明灰緑色(中島系):60%+GX1番・クールホワイト:40%
濃緑…16番・濃緑色:80%+GX1番・クールホワイト:20%
関節…MT02グレートーン2
黒…71番・ミッドナイトブルー
■船内
茶…42番・マホガニー
グレー…MT02グレートーン2:80%+32番・重亀色(2):20%
※(G)はガイアノーツの「ガイアカラー」。特に表記のないものはGSIクレオスの「Mr.カラー」及び「Mr.カラーセットTHE GRAY」

てみました。

ベース(というか船内)は「ファルカタ」という木材を用いて箱組みし、上面と側面は開閉できるよう蝶番で接続。MSベッドはプラ板で製作した物をレジンで複製。その他小物類もほとんどプラ板・棒から。内装は100円均一ショップで入手した材料やタカラトミーの「プラレール」を用いて大まかにレイアウト。3Mプレミアゴールド スーパー多用途接着剤、下地にガイアノーツ「マルチプライマー」を使い接着・塗装を可能に。劇中ではMSデッキは気密されており、酸素や人から出る水分が内壁に影響を与え表面が酸化皮膜(つまりサビ)に覆われているような塗装に。ただし、カタパルトや可動部分は機能維持の観点からペンキを塗り直していると思い、ツートーンに塗り分けました。GP02Aのシールドを設置しているレーンのみカタパルト射出状態なのは、狭いMSデッキでシールドを回転させるのがリスキーであり、一旦船外に出してから方向転換~回収~装備というプロセスを踏むのではないかという考えから。根拠はGP01との戦闘で穴が開いたシールドはキンバライト基地到着時にも修理されていませんが、「星の屑作戦」時には直っています。核攻撃に赴く前に表向きで作業を行った後に右記のようなプロセスで出撃前にGP02Aに保持させたと想定。クルーがノーマルスーツを着ている理由付けにもなると考えました。

電飾は密閉された空間を演出する上で欠かせない要素です。LEDは14個、発射管制コンソールには光ファイバーで卓のイルミネーションを表現。一部のLEDにはメッキ加工されたリフレクターを付けて光量を稼いでいます。12V1・6AのACアダプターから電源を取り、E・153という定電流ダイオードを経由して20mAになるように配線しました。

■BELONGING: Earth Federation Force ■MODEL NUMBER: RX78GP02A ■MODEL NAME: GUNDAM GP02A ■OVERALL HEIGHT: 18.5m ■TOTAL WEIGHT: 54.5t

RX-78GP02A
GUNDAM GP02A

BANDAI 1/144 scale plastic kit
"High Grade UNIVERSAL CENTURY"
modeled by Toshio Iwata





キットを活かしたディテールアップ

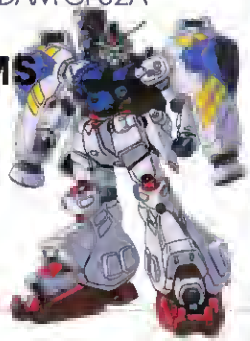
2006年7月に発売されたHGUC「ガンダム試作2号機」は、GPシリーズの中では最後発のHGUCキット。「ガンダム試作1号機」から数えて6年の歳月はHGUCの技術革新には十分な期間となった。本キットはMGよりもさらにアニメイメージに近いベストプロポーションと呼ぶに相応しい傑作。作例では後ハメ工作などを中心に細部のディテールアップを行い、キットの素性を最大限に活かしている。

RX-78GP02A ガンダム試作2号機
バンダイ1/144スケールプラスチックキット
"ハイグレードユニバーサルセンチュリー"
製作:岩田トシオ

RX-78GP02A GUNDAM GP02A

戦術核使用を前提とした重MS

ミノフスキー粒子散布下で核兵器を運用する目的で開発された重MS。核使用時に備えた耐熱・耐衝撃処理が施された特殊装甲のため、重量は試作1号機の約1.5倍。その超重量のため、両肩の大型スラスター・バインダーで機動力を補う。



BELONGING: Earth Federation Force ■MODEL NUMBER: RX-78GP02A ■MODEL NAME: GUNDAM GP02A (TYPE-MLRS) ■OVERALL HEIGHT: 18.5m ■

核非武装バージョンのGP02A

この機体は、アーケードゲーム『機動戦士ガンダム戦場の絆』に登場するGP02Aのバリエーション機。アトミック・バズーカを装備しない核非武装を想定し、背部にMLRS（Multi Launcher Rocket System）を搭載している。キットはHGUC「ガンダム試作2号機」に新ランナーを追加し、2007年2月に発売された。作例ではこのキットの攻略ポイントである後ハメ加工を中心に工作している。

RX-78GP02A
ガンダムGP02A（MLRS仕様）
バンダイ1/144スケールプラスチックキット
"ハイグレードユニバーサルセンチュリー"
製作：人首狐



➡MLRSポッドはハッチが開閉する。

RX-78GP02A
GUNDAM
GP02A
(TYPE-MLRS)
BANDAI 1/144 scale plastic kit
"High Grade UNIVERSAL CENTURY"
modeled by Takeshi Hitokabe



BANDAI 1/144 scale plastic kit
"High Grade UNIVERSAL CENTURY"use diorama
modeled by Katsunari Kakuta

RX-78GP01 ガンダムGP01Fb
RX-78GP02A ガンダムGP02A
※すべてHGUCシリーズ

ジオラマサイズ
幅410×奥行き242×高さ440ミリ

ありのソロモンでの名勝負をジオラマで魅せる!

ソロモンでの地球連邦軍の観艦式を核の炎で焼き払ったガトーのガンダム試作2号機。その帰路の中、コウ・ウラキのガンダム試作1号機フルバーニアンが攻撃を仕掛けてくる。二人のプライドと意地が激突する様は、戦闘というよりはむしろ決闘と呼ぶに相応しい名勝負となった。そんな両ガンダムの宇宙空間での激突という難しいシチュエーションを、ベテランビルダー角田勝成がジオラマ化。周辺にデブリを加え、うまく空間を演出しているのも本作の見所と言える。



「プライドを賭けた決闘」

バンダイ1/144スケールプラスチックキット
"ハイグレードユニバーサルセンチュリー"使用ジオラマ
製作:角田勝成









1.頭部はブレードアンテナをシャープにした以外はほぼキットのまま。
2-3.GP01Fbのビーム・サーベルで切断された腕や脚は、ジャンクパーツを入れた後、熱で溶解した様子を表現。
4.足首には内部にプラ棒などでシリンダーを追加。空いているスペースに市販パーツを入れてデコレートしている。



5.GP01Fbの頭部は、HGUC「ガンダムMk-II」のフェイスパーツを目の形状をデザインナイフで修整して使用。首部にはシリンダーを追加。
6.背部ブースト・ポッドの各バーニアは、市販パーツに交換。バトルダメージは模型用ノコギリやモーターツール等を使い、内部メカはジャンクパーツやコード類を詰め込んで、それらしく演出している。

7.ザクIIF2型はちぎれた動力パイプを、コードやスプリングでデコレート。脱力感や機動停止している様が伝わるようポージングしている。
8.ボールやジムは一年戦争時、ソロモンの激戦があった空域を連想するアイテムとして登場させた。ザクIIF2型同様、ダメージ表現を施している。

「プライドを賭けた決闘」

バンダイ 1/144スケール プラスチックキット
パイグレード ユニバーサルセンチュリー 使用ジオラマ
製作・文 角田勝成

コウが駆るGP01Fbとの戦いで、左腕と右足を失ったガトーのGP02A。しかし、なおも圧倒的なパワーでGP01Fbを窮地に追い込む！　今や満身創痍の2機のガンダム。そして最後のとどめを刺そうと、サーベルをフルパワーにするガトーのGP02Aにコウが叫ぶ！「クソッ、まだだァ!!」男のプライドを賭けて激突する2機のガンダム！　劇中でもとても印象的な場面。そんなシーンをジオラマに選んでみました。

使用したキットはすべてHGUCシリーズ。特にGP02Aは、あの悪役ヅラの再現といい、スタイリングといい最高にカッコイイです！　舞台はソロモン海域。ジオラマを作るうえで、飛んでいる場面や浮いている場面は、とても表現が難しいシチュエーションの一つです。今回は宇宙が舞台ですから、無重力であることが伝わるよう演出しなければならず、とても頭が痛いところ。一番簡単に浮いているように見せるには、アルミ線等を支柱にしてベースに固定する方法。ただし、この支柱が色々な意味で興ざめする原因になることも…。そこで、今回はこの支柱が少しでも目立たないように工夫してみました。また撃破されたザクIIF2型や、一年戦争時の残骸であるジムやボール等を漂わせることで、無重力感を演出しています。　私がジオラマを作る際、いつも気を付けているのが各MS（役者）のポージング（演技）。MSの顔には表情がありませんので、ジオラマの基本でもある（いつ、どこで、誰が、何を）が伝わるように、カラダ全身を使って表現させます。特に手の表情はとても大事な所なので、細心の注意を払っています。ベースはスタイロフォームを下敷きに、ガレキはスチレンボードから切り出したものにプラ板を貼りつけて表現しています。

■BELONGING:Earth Federation Force ■MODEL NUMBER:RX-78GP04 ■MODEL NAME:GERBERA ■OVERALL HEIGHT:[illegible]TA ■[illegible] :NO DATA

幻の機体を フルスクラッチ!

"デラーズ・フリートに譲渡されたガーベラ・テトラがもしそのままアナハイムで開発されていたら?"という発想のもとにメカニックデザイナー明貴美加氏によって描き起こされたのが、このRX-78GP04ガーベラだ。そんな幻の機体ガーベラを佐藤弘(オーバーダード)がスクラッチ。特徴的なシュツルム・ブースターも再現している。

RX-78GP04 ガーベラ
1/144スケールスクラッチビルド
製作:佐藤弘(オーバーダード)



RX-78GP04
GERBERA

1/144 scale scratch build
modeled by Hiroshi Sato (OVER DARD)

AGX-04 GERBERA-TETRA

BANDAI 1/144 scale plastic kit
modeled by VAN

AGX-04 GERBERA-TETRA

デラーズ・フリートに譲渡されたガンダム試作4号機

アナハイム・エレクトロニクス社がガンダム試作4号機として開発していたが、連邦軍から正式な認可が下りなかったため、各部に偽装を施しデラーズ・フリートに譲渡された曰くつきの機体。



無印1/144キットを仮想HGUCに徹底改修!

1992年6月に発売された本キットは、OVA終了から劇場版公開の間に発売された。それまでに培った技術が投入され、そのボリュームはもちろん、背部シュツルム・ブースターも付属するなど、当時の発売キットのトリを飾るに相応しいサービス満点の内容だった。作例は本書用の新作。HGUCシリーズと並べても違和感がないように各部をシェイブ。関節にHGUCキットを流用し、仮想HGUC「ガーベラ・テトラ」を完成させている。

AGX-04 ガーベラ・テトラ

バンダイ1/144スケールプラスチックキット
製作:VAN

Coloring Data

赤…CG190番・レッド(12)
関節部…CG101番・ファントムグレー+SM01番・スーパーファインシルバー
バーニア…2番・ブラック+SM03番・スーパーアイアン
※すべてGSIクレオスの「Mr.カラー」及び「ガンダムカラー」

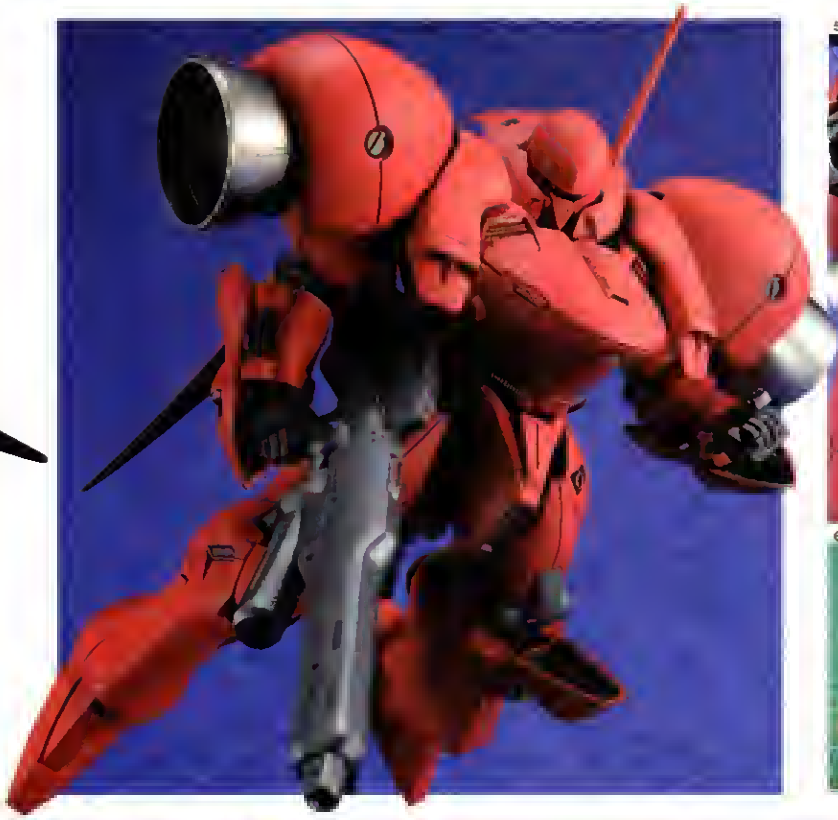


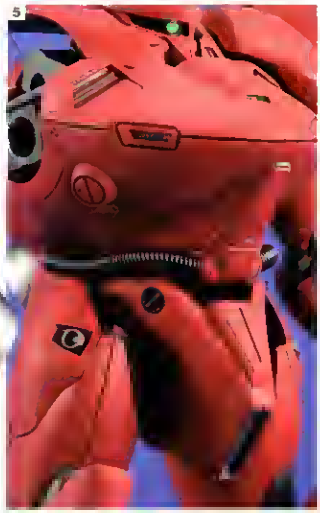


1・4.頭部はヘルメットパーツの周りをカットして小型化。モノアイは市販パーツの組み合わせで可動式に新造している。

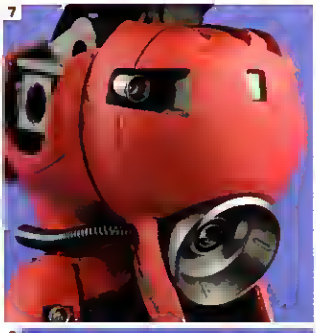










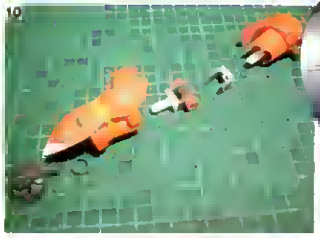


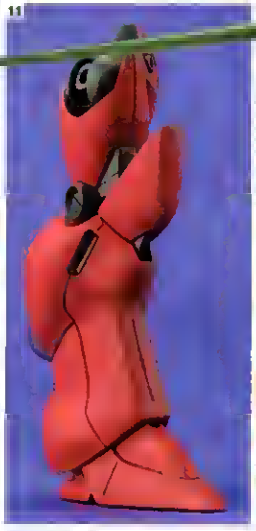




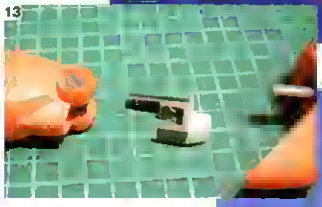
5.6.胴体は左右で5ミリ、前後で10ミリ幅詰めして小型化。さらにウエスト部分で切り離してボールジョイントを埋め込んでいる。下半身も左右で4ミリ、前後で5ミリ幅詰めして上半身とのバランスを取っている。
7.各部バーニアを削り込んでシャープに。また小さいバーニアなどは切り取って市販パーツに交換している。
8.背部シュツルム・ブースターはディテールを追加したほか、本体との接続をネオジム磁石で行っている。

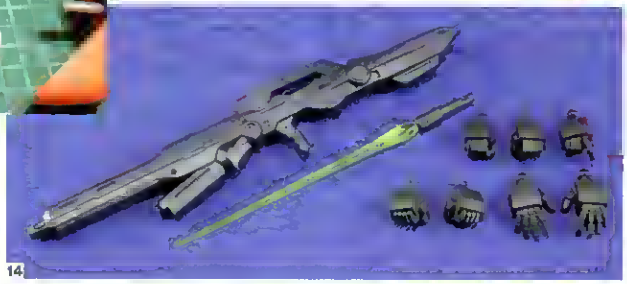

9


10


11


12


13


14

9-10.腕は上腕で3ミリ、前腕で3ミリ幅詰め。ヒジ関節はキットのマルイチモールドを切り離した後ウェーブ「プラサポ」を活用して二重関節に。手首はHGUC「ジム改」を流用している。
11-13.脚部は、太モモを接着面で2ミリ幅増し、逆にスネは接着面で6ミリ幅詰め。股関節はHGUC「ゲルググM」の肩関節を流用。ヒザはポリパーツを使った引き出し式の二重関節にしている。
14.ビーム・マシンガンは長さ・幅ともに切り詰めて小型化。ビーム・サーベルのクリアー刃はHGUC「ゲルググM」から。手首は表情の違うものを左右計7種用意した。

AGX-04 ガーベラ・テトラ

バンダイ 1/144スケール プラスチックキット
製作・文：VAN

発売からかなり経っている古いキットなので、バランス、精度がHGUCと比較すると時の流れを感じる部分が多く、彫刻刀で彫り込んだり、ディテールを入れ直したりしています。また、キットのサイズも1/144にしてはかなり大きいので、HGUCの他の機体と並べた時に違和感のない大きさになるよう全身を幅詰め調整しています。

頭部はヘルメットの裾をカットし小型化しつつシャープに加工。モノアイはウェーブの「Hアイズ」を使い可動式に。胴体は左右で5ミリ、前後で10ミリ幅詰めしてウエストで切り離しボールジョイントを組み込み可動式に。下半身は左右で4ミリ、前後で5ミリ幅詰め。両肩のブースト・ポッドはこの機体の象徴なので、あえて強調するため小型化はせずポリパーツによる可動方式にしました。

腕は上腕で3ミリ、前腕で3ミリ幅詰めし、ヒジ関節はキットのマルイチモールドを切り離して、ウェーブ「プラサポ」を使って二重関節に。手首はHGUC「ジム改」を使用。脚部は股関節にHGUC「ゲルググM」の肩球体パーツを使い、横ロール可動を追加。太モモは接着面で2ミリ、スネは接着面で6ミリ幅詰め。ヒザもポリパーツを使った引き出し式二重関節に。しかし、パーツの干渉により思ったような可動範囲が得られませんでした（汗）。

足首は左右で3ミリ、前後で120ミリ幅詰め。全身の動力パイプはスプリングパイプに変更。各部バーニアはキットのものを簡易旋盤加工して、シャープにしつつ市販パーツで内部をディテールアップ。全身のバーニアとマルイチモールドはくり貫いて市販パーツに交換。ビーム・マシンガンは接着面で幅詰めし、長さも何ケ所かで切り詰め小型化しています。シュツルム・ブースターはマグネット脱着にしました。



RX-78GP03 GUNDAM GP03 NDROBIUM

BANDAI 1/144 scale plastic kit "High Grade UNIVERSAL CENTURY"
modeled by Mitsuaki Misaki

RX-78GP03 GUNDAM GP03 DENDROBIUM

規格外の究極機動兵器

MSの汎用性とMAの攻撃力を併せ持つ最強の機動兵器。戦艦クラスのビーム・キャノン砲と防御バリアーであるIフィールドを搭載。アームド・ベース「オーキス」とコントロール・モジュールであるMSユニット「ガンダム試作3号機ステイメン」で構成されている。



超大型キットをディテールアップ&追加コンテナをスクラッチ!

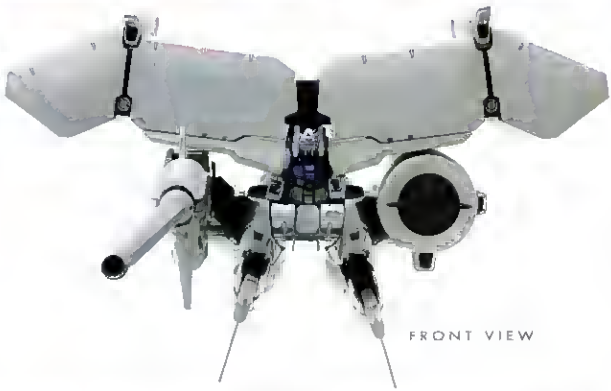
2002年3月に発売されたHGUC「デンドロビウム」は全長1メートルを超えるガンプラ最大サイズの超大型キットだ。その重量を支えるために内部に鉄板を組み込むシステムとなっており、またウェポン・コンテナの複雑なギミックなど、劇中のあらゆるアクションギミックを可能にした豪華な内容となっている。作例では、各部を丁寧に仕上げると同時に、コミック「機動戦士ガンダム0083 星屑の英雄」(作画:松浦まさふみ/発行:メディアワークス※現アスキー・メディアワークス)に登場したCコンテナをスクラッチ。装着できるようにしている。

RX-78GP03 ガンダム試作3号機デンドロビウム
バンダイ1/144スケールプラスチックキット "ハイグレードユニバーサルセンチュリー"
製作:岬光彰





REAR VIEW



FRONT VIEW



5



3



1

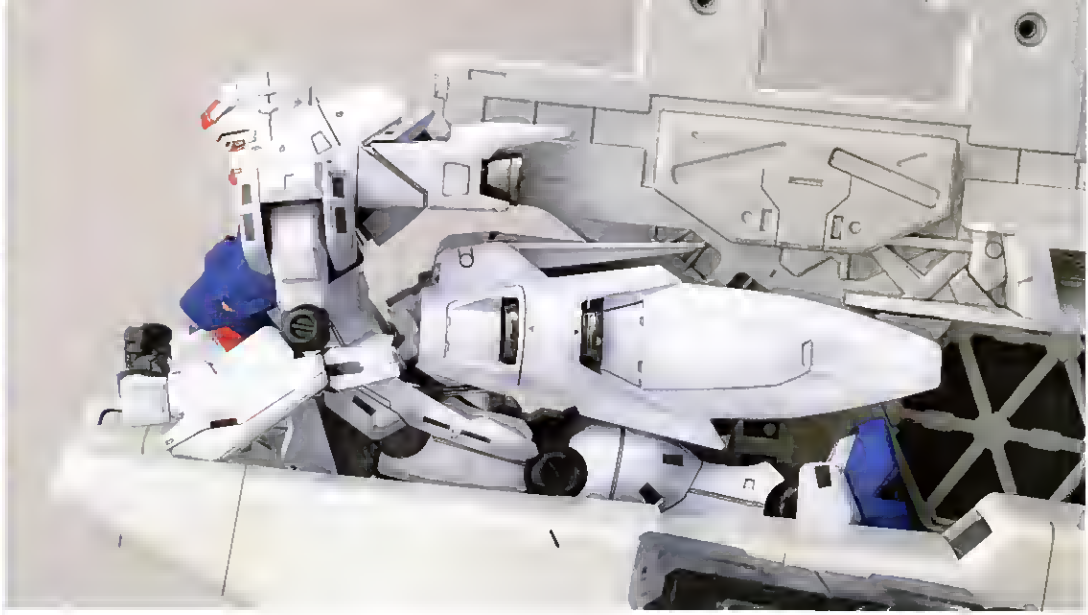


4



2

1.左右の大型コンテナはそれぞれ8基のウェポンコンテナが内蔵されている。上部センサーがロック機構の役割を果たしており、このセンサーを上に持ち上げるとロックが解除され、コンテナカバーが開く。
2.左側のコンテナにはビーム・ライフルやバズーカが納められている。
3.右側にはフォールディング・シールドを収納。
4.コンテナ内に内蔵されるマイクロミサイル(写真右)と大型ミサイルコンテナ(左)。
5.作例では「ガンダムイボルブ4」用にカトキハジメ氏が描き下ろした新武装、後方要撃ミサイルパックをスクラッチで再現している。

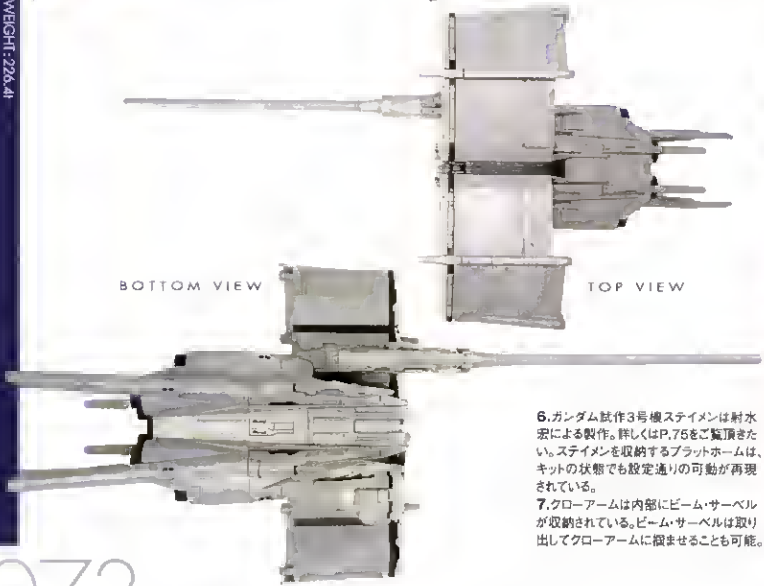


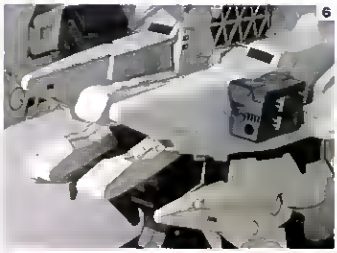


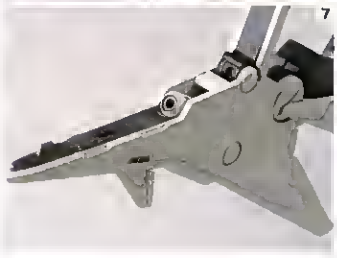
RX-78GP03

GUNDAM GP03 DENDROBIUM

BANDAI 1/144 scale plastic kit "High Grade UNIVERSAL CENTURY"
modeled by Mitsuaki Misaki







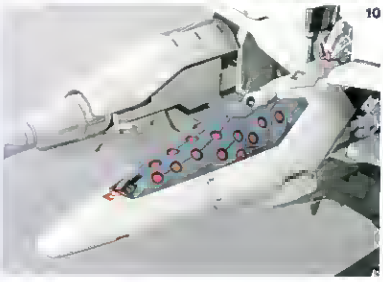
6.ガンダム試作3号機ステイメンは耐水宏による製作。詳しくはP.75をご覧頂きたい。ステイメンを収納するプラットホームは、キットの状態でも設定通りの可動が再現されている。
7.クローアームは内部にビーム・サーベルが収納されている。ビーム・サーベルは取り出してクローアームに掴ませることも可能。



RX-78GP03
GUNDAM GP03 DENDROBIUM







9·10.コミック版に登場するCコンテナはポリエステルパテなどによるスクラッチ。ハッチ開放後の有線ミサイル及び内部メカのディテールも再現している。
11.下側もコミックを参考にディテールを忠実に再現。



Comic Data

「機動戦士ガンダム0083 星屑の英雄」
原作：矢立肇・富野由悠季
作画：松浦まさふみ
発行：メディアワークス ※現アスキー・メディアワークス
定価：各630円 ※価格は税込(5%)
※現在は絶版のため入手困難

RX-78GP03ガンダム試作3号機

バンダイ1／144スケールプラスチックキット
"バイクレードユニバーサルセンチュリー"

製作・文：岬光彰

実は以前、個人的に1／144でデンドロビウムをスクラッチしたことがあります。いや、正確に言うとコンテナ部を作りかけて、その大きさと嵩む材料費に負けて断念してしまったのですが…。

キットは剛性を確保するためにパーツに肉厚があり、リブなども多いのでヒケが心配だったのですが、巧みな成形技術によりほとんど大きなヒケは見当たりません。コンテナ全面のグレーのパーツ両脇に二箇所ずつあるだけで工作的には非常に楽でした。

小さなヒケについてはヤスリで削ったり、瞬間接着剤で埋めてから削り込むなどして対応しています。ビーム・キャノン砲身の合わせ目を消す際は、耐水ペーパーを指で持って削ると歪んでしまう可能性があるので、内径1.5ミリぐらいの水道工事用の塩ビパイプを半分にカットして、その内側に耐水ペーパーを貼り付けた"逆丸ヤスリ"を活用しました。またABSパーツはプラ用接着剤では接着できないのでABS専用のものを使用するか、瞬間接着剤を使うとよいでしょう。

コンテナ内のマイクロミサイルは塗り分けが難しそうだったので、ミサイル部をくり貫いて、ミサイルを市販パーツで新造。複製して数を揃え、塗装後にはめ込んでいます。

オマケでコミック版に登場する追加武装であるCコンテナをスクラッチ。また、「ガンダムイボルブ4」に出てきた開くタイプの後方要撃ミサイルパックも新造。スタイロフォームを芯に薄く延ばしたエポキシパテを貼りつけて製作しました。

RX-78GP03S GUNDAM GP03S STAMEN

BANDAI 1/144 scale plastic kit "High Grade UNIVERSAL CENTURY"
modeled by Hiroshi Imizu

デンドロビウムに合わせてステイメンの可動範囲を広げる

HGUC「ガンダム試作3号機ステイメン」を、オーキスにドッキングさせた際にさらにそのパフォーマンスを発揮できるように改造。主に関節部分の可動範囲を広げる工作を行っている。

RX-78GP03S ガンダム試作3号機ステイメン
バンダイ 1/144スケールプラスチックキット "ハイグレードユニバーサルセンチュリー"
製作:射水宏





1-2. キットのままではオーキスに収納した際に顔を正面に向けることが困難だったため、首に上下スイングの機構を新設。シリンダーもシンチュウ線やパイプで作り直している。
3-4. 肩関節はフォールディング・アームを伸ばした際に腕がまっすぐに伸びるように、肩関節に上下左右のスイング機構を新造している。







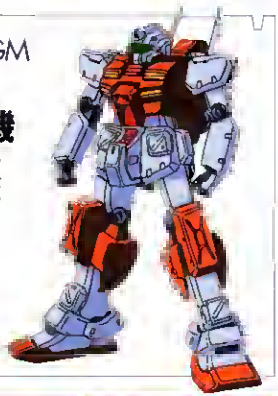


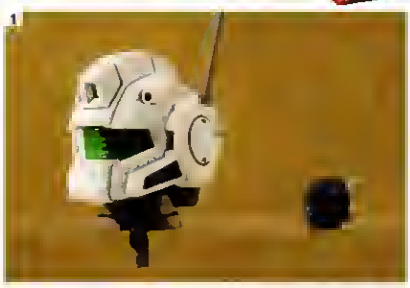
RGM-79 POWERED GM

BANDAI 1/144 scale plastic kit
"High Grade UNIVERSAL CENTURY"
modeled by Yasuhira Imai

RGM-79 POWERED GM
機動性向上を目的とした実験機

RGM-79 ジムをベースに大型バックパックや脚部のショックアブソーバーなどの増設を行った実験機。オーストラリアのトリントン基地で模擬戦などを行っていた。





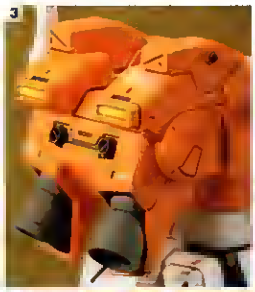
1. 頭部は内部のメカパーツを塗装後に組み込めるように後ハメ加工を施したほか、頭のダクト内部にディテールを追加。アンテナをプラ棒で作り直している。

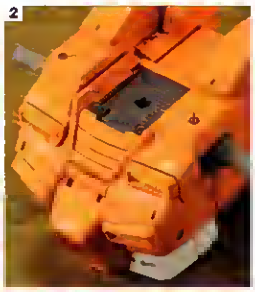


マッシブなスタイルをさらに強調する!

トリントン基地にてディック・アレンが搭乗し、コウ・ウラキ達と模擬戦を行い、その後デラーズ・フリートの迎撃に参戦したパワード・ジム。キットは2006年8月にリリースされ、初のキット化ということもありファンの注目を集めた。作例はよりマッシブなイメージになるよう上半身をボリュームアップ。各部のディテールアップも行いメリハリの効いた作品に仕上がっている。













2.上半身は首周りや上面を中心にディテールを追加している。
3.バックパックはバーニア基部を市販パーツでボリュームアップ。マルイチモールドも市販パーツに置き換えている。
4.肩アーマーの胴体側付け根にプラ板で新造したスペーサーパーツを挟み、肩幅を広げている。
5.キットにはビーム・サーベルのクリアー刃、ハイパー・バズーカ、ブルバップ・マシンガン、シールドが付属。劇中の装備すべてを楽しめる。
6.ヒジ関節はこのシリーズの定番工作である後ハメ加工を施している。写真のように接続部分を切り欠くだけでよい。

Coloring Data

白…1番・ホワイト+316番・ホワイトFS17875
オレンジ…58番・黄橙色+79番・シャインレッド+1番・ホワイト
黄…4番・イエロー+58番・黄橙色+1番・ホワイト
赤…79番・シャインレッド+1番・ホワイト
関節…37番・RLM75グレーバイオレット+7番・ブラウン+1番・ホワイト
武器…40番・ジャーマングレー+1番・ホワイト
※ すべてGSIクレオスの「Mr.カラー」

RGM-79 パワード・ジム

バンダイ 1／144スケール プラスチックキット
バイクレード ユニバーサルセンチュリー

製作・文:今井康博

HGUCの『0083』ラインナップとしては「GP02A」に続くこのキットですが、これがなかなかの出来。作例ではキットの素性の良さを活かしながら、各部のディテールアップと、よりマッシブなスタイリングになるように上半身のバランスを調整しました。

まず頭部はカメラパーツの後ハメのために合わせ目の位置を変更。頬のダクトは内部を彫り込んでモールドを追加。アンテナはプラ棒にて作り直しています。

胴体は増加装甲を付けたマッシブ感をさらに演出するために、面に1ミリプラ板を貼って、より頭が埋まって見えるように。合わせてバックパックを微調整。キットでは首周りが寂しかったので一旦くり貫いてモールドを入れたプラ板でディテールアップ。4個ある胸のダクトは細く感じたので、ポリエステルパテ(以下ポリパテ)で大きく作り直しています。股間ブロックも増加装甲感が薄く感じたので、間にメカ風のブロックをポリパテで作って厚みを増しました。各アーマーの裏はポリパテで埋めています。

肩アーマーは接続方法を変更。接続用の板を新造しています。他は後ハメ加工と手首カバーを市販パーツから作り直したのみ。

■ディテール

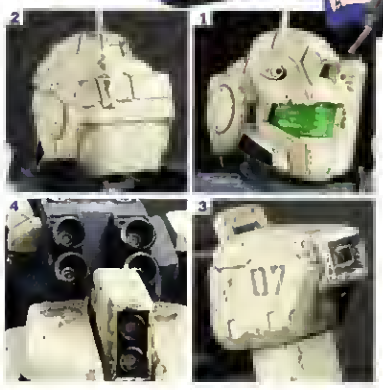
この機体の特徴である各部の台形状のモールドをより立体的に見せるためにひと工夫してみました。一度キットの台形モールドを切り抜き、裏からポリパテを押し当て、硬化後にモールド部分を整形。別パーツ化することで、より立体的に、かつ塗り分けを容易にしてみました。

RGM-79C
GM TYPE C

"MOBILE SUIT GUNDAM 0083 STARDUST MEMORY"
modeled by Hobby Japan

RGM-79C GM TYPE C
マイナーチェンジで辿り着いたベーシック機

一年戦争末期に生産されたジム後期型のマイナーチェンジ版。頭部カメラの機能強化やランドセル、肩部などのバーニア、スラスター類の増設により機動性は向上。総合的にも過去のジムを上まわるスペックを持つ。



1・2. 頭部はバルカン砲をアルミパイプに、アンテナはシンチュウ線を削り込んだ物に置き換えている。
3. 肩アーマーは天板と前後で3分割し、上面のフックは市販パーツを加工した物に変更。サイドに付くダクトはキットの物よりひとまわり大型な物を自作している。
4. 腰中央ブロックはプラ板にてひとまわり大きく新造している。

各部形状を改修して さらにスレンダーな印象に!

HGUC「ジム改」を徹底改修。胴体・脚部の延長や肩アーマー、前腕の形状変更など各部バランスを徹底的に見直し、よりスレンダーな印象に仕上げている。また塗装も使い古された状態を表現するため、ウェザリング塗装をきつめに施している。「度重なるパーツ交換などによって各部装甲の色が異なる」という考えのもと、細かく色分けされた装甲塗装にも注目してほしい。



Coloring Data

本体白…CG94番・ホワイト(10)
本体紺…CG84番・ブルー(20)
フレーム…13番・ニュートラルグレー:50%+1番・ホワイト:30%
+40番・ジャーマングレー:20%
武器…CG101番・ファントムグレー
※すべてGSIクレオスの「Mr.カラー」及び「ガンダムカラー」







5.足はツマ先にプラ板を貼り足して形状変更。よりアニメ設定画に近付けている。またアンクルガードの色が足首本体と違うのにも注目。
6.キット素組み(写真右)との比較。作例は胴体や脚部の延長により身長が伸びているのが分かるだろう。

RGM-79C ジム改

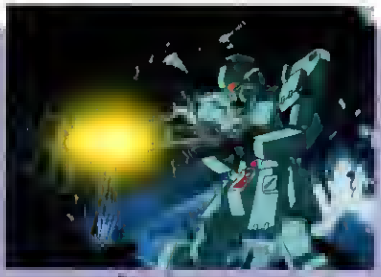
バンダイ/1/144スケールプラスチックキット
ハイグレードユニバーサルセンチュリー

製作・文:市川貴秀

頭部はバルカン砲をアルミパイプに、アンテナはシンチュウ線を削り込んだ物に変更。あとはC面の変更とエッジ処理をしています。この処理は頭部だけではなく全体に行っていて、これをやるだけでもかなり仕上がりが変わってくるので効果的です。肩アーマーは3分割し、上部のフックは市販パーツを加工した物に変更。サイドに付くダクトはキットの物よりひとまわり大きな物を自作し複製して2つ揃えました。内部の小さいダクトは市販パーツを使用しています。ヒジ関節はMG「ジム改」を参考に修整。前腕は0・5ミリ延長し、面構成の変更、及び手首周りをプラ板と市販パーツに新造。手首は「ハイディティールマニピュレーター」を使用。

胴体は腹部で2ミリ延長。それに合わせてコピットハッチも下側に1ミリ延長しています。股間中央ブロックはプラ板にて新造。キットの物よりひとまわり大きくしています。それによってリアアーマーの接続方法も変更し可動するように。脚部は太モモで1・5ミリ延長。股関節との接続部が可動範囲の確保のために切り欠かれているので、見える部分だけをプラ板で埋めました。フクラハギはパテにてボリュームアップ。ソール部はツマ先部分にプラ板を貼り、厚みと角度の変更をしています。

塗装について。今回、右腕と左足のアンクルガードの色を、他と少し色味を変えて塗ってみました。「このジムは別の基地から回ってきた機体。ジムの機体色はホワイトではなくアンチホワイトという決まりがあるが、細かい色指定はないので、基地ごとに若干色が違っている。よって予備パーツはこの基地独特のグレーよりのジムホワイトで塗られたものしかない…」というオリジナルな設定を作り少し塗装方法で遊んでみました。



オーガスタ研究所で開発されたMS

地球連邦軍が立ち上げたニュータイプ研究所では、実に様々な試作MSが開発された。連邦軍の主力量産型MSジムも、その開発・研究に組み込まれ、様々な機能に特化した試作機が生まれている。ここでは、中でもU.C.0083～0087年にもっとも盛んに開発が進められたオーガスタ基地内の研究所出身MSについて考察してみよう。

TEXT：電撃ホビーマガジン編集部



ティターンズ初の制式採用機

ジム・カスタムをベースにした高性能機。各所に後に開発されるRX-178ガンダムMk-Ⅱに近い意匠が見受けられるあたり、以降のティターンズ専用MSに多大な影響を与えた機体ともいえる。

RGM-79Q
ジム・クゥエル



高機動能力を継承
RGM-79N
ジム・カスタム

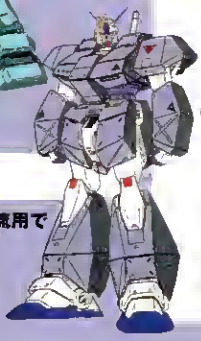


RX-78NT-1
ガンダムアレックス

アムロ・レイ用に開発されたNT専用ガンダム。各部スラスター・アポジモーターの増設、全天周モニターの採用など、最先端の技術が惜しみなく投入された。またチョバム・アーマーを装備することで戦闘空域到達までの防御力も強化できる。



アーマーパーツの流用で
防御力を強化
RGC-83
ジム・キャノンⅡ



ティターンズとともに繁栄したオーガスタ研究所

一年戦争中期のU.C.0079年、地球連邦軍はジオン軍が投入したニュータイプ（以下NT）兵や、自軍のホワイトベース部隊の活躍を目の当たりにし、ついに本格的なNT研究に着手する。地球各所に8箇所の研究所を設立するが、その中でも最古参なのがオーガスタ基地内に設置されたオーガスタ研究所だ。この研究所では一年戦争中からアムロ・レイの戦闘データなどが蓄積され、NT専用のMSなどが開発された。その第一号機がRX78NT-1ガンダムアレックスである。結局この機体はパイロット候補であったアムロには届かず、ジオン軍工作部隊などにより破壊されるが、その技術は後のジム後継機開発に活かされることとなる。RGM-79Nジム、カスタムやRGC-83ジム・キャノンⅡだ。そして、それらの集大成として開発され、ティターンズの制式採用機となったRGM-79Qジム・クゥエルを機に、ティターンズとオーガスタ研究所の関係はより深まっていく。オークランド研究所との共同開発によるORX-005ギャプラン、NRX044アッシマー、NRX-055バウンド・ドックなど、次々とNT専用MS、MAなどを提供し勢力を拡大していく。

ティターンズの崩壊とともに研究所は閉鎖され、その短い歴史に幕を閉じることになるが、U.C.0096年までアナハイム・エレクトロニクス社の庇護のもと、研究所は極秘裏に運営されていた、という記録も残っている。

RX-78-5
ガンダム試作5号機

RX-78-4
ガンダム
試作4号機



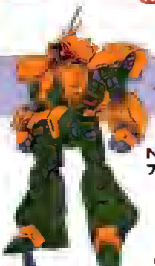
一年戦争後期に投入されたガンダムの後継試作機

ア・バオア・クー戦に投入されたとされる試作ガンダムの2機。ジャイアント・ガトリングガンやメガ・ビーム・ランチャーなど攻撃力と機動力に重きを置いた機体。

ORX-005
ギャプラン



NRX-044
アッシマー



オークランドとの共同開発

オークランド研究所との共同開発により、様々なNT専用機が生まれた。すべて可変機であるところからも時代を先取りしていたと言える。またMS開発と並行して強化人間の研究にも着手。ロザミア・バダムやゲーツ・キャパなどのパイロットも生み出している。

NRX-055
バウンド・ドック



■BELONGING: Earth Federation Force ■MODEL NUMBER: RGC-83 ■MODEL NAME: GM CANNONII ■OVERALL HEIGHT: 18.0m ■TOTAL WEIGHT: 47.3t

RGC-83 ジム・キャノンII
1/144スケールスクラッチビルド
製作:MoB

RGC-83 GM CANNONII

1/144 scale scratch build
modeled by MoB



RGC-83 GM CANNONII
防御力を高めた中距離支援タイプ

ガンキャノンとジム・キャノンで得たノウハウをフィードバックさせた中距離支援型。アレックスのチョバム・アーマーの複合装甲を採り入れ、防御力を高めた一方、強力なビーム・キャノンを2門装備し攻撃力も備えている。







1.頭部はHGUC「ジム・カスタム」をベースに製作している。
2.肩アーマーは「ガンダムNT-1」から流用。アポジモーターは市販パーツに置き換えている。

キット3個で未発売のジム・キャノンⅡをミキシング!

「ジム・カスタム」の発売でアルビオン隊のMSのHGUCキットも残すところジム・キャノンⅡのみとなった。そこでキットを待たずにHGUC準拠のジム・キャノンⅡを製作。HGUC「パワード・ジム」「ガンダムNT-1」「ジム・カスタム」の3種のキットを用いてこの無骨な機体を完全立体化している。

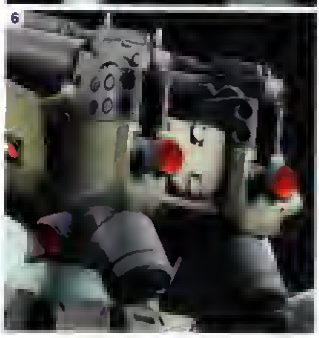




Coloring Data

薄いブルー…74番・エアスペリオリティブルー+20番・ライトブルー+1番・ホワイト
グリーン…60番・RLM02グレー+32番・軍艦色(2)
グレー…116番・RLM66ブラックグレー+1番・ホワイト
その他…58番・黄橙色
79番・シャインレッド等
※すべてGSIクレオスの「Mrカラー」







3.ビーム・キャノンはもちろん可動。その可動に合わせてシリンダーパーツも前後にスライドする。
4.上半身はHGUC「パワード・ジム」にプラ板を貼り足して整形。腰フロントアーマーは同「ガンダムNT-1(以下NT-1)」を使用。市販パーツで可動式にし、太モモの動きの邪魔にならないように配慮している。
5.肩や前腕は「パワード・ジム」のパーツに「NT-1」のアーマーを切り詰めて被せている。
6.バックパックはプラ板とポリエステルパテ(以下ポリパテ)による新規造形。



7.HGUC「ジム・カスタム」との比較。
8・9.製作途中写真。各キットが効率よく活用されているのが分かるだろう。
10.腰中央ブロックは「ジム・カスタム」をベースにプラ板などで追加工作。
11.武装は『劇場版 機動戦士Zガンダム』に登場した機体を参考に「ジム・カスタム」のシールドとビーム・マシンガンを用意。そのままだと持てないので、ビーム・マシンガンのマガジンはカットした。
12.スネはポリパテ&エポキシパテで製作し、レジンにて複製して2個揃えている。

RGC-83 ジム・キャノンⅡ

1/144スケールスクラッチビルド

製作・文:MOB

キット3個混ぜ合わせという贅沢作例です。用意したキットはHGUCシリーズの「パワード・ジム(以下パワード)」「ガンダムNT-1(以下NT-1)」、そして「ジム・カスタム(以下カスタム)」、あと「ガンキャノン量産型」。設定画でキャノンとカスタム、パワードを見比べて同じ部分をそれぞれのキットからいただいてきましょう。基本的に各パーツ形状はそのままで明らかに違うところだけ作り足し・作り直しました。

頭部は「カスタム」からの改造、胸は「パワード」。肩、腕、前垂れは「NT-1」という具合です。上腕・太モモ・脚などジム系共通部分は本当にそのままです。スネとバックパック、およびキャノン砲だけはどうにもなりませんので自作です。バックパックはポリエステルパテ(以下ポリパテ)とプラ板工作にて。キャノン付け根をカバーする穴開き板は「ガンキャノン量産型」から頂きました(この部品だけのために量産キャノン潰すなんて超贅沢!)。キャノン砲はプラ棒・プラパイプの組み合わせにジャンクパーツで根元を飾ってやります。

スネは「カスタム」「パワード」の部品を芯にしてエポキシパテ&ポリパテを盛り削りして形を作りました。左右同じものはシリコン&キャストで複製です。

塗装は大雑把ですがシャドー吹き(というかフチ取り)しています。あとは黒でスミ入れして最後に「スーパークリアーつや消し」でコートして出来上がりです。顔のクリアーパーツはもともとオレンジでしたが、その上から構わずグリーンを吹きました。雰囲気を捉えて、既存キットを使ってお手軽に…という作例でした。ありものをかき集めて別のものに仕立て上げるの、結構おもしろいっすよ。

RGM-79N GM CUSTOM

BANDAI 1/144 scale plastic kit
"High Grade UNIVERSAL CENTURY"
modeled by yumoto

RGM-79N GM CUSTOM
ガンダムの意匠を受け継ぐオーガスタ系ジム

ジム後期生産型をベースにジェネレーター出力やサブスラスターの強化が施されたスペシャル仕様。オーガスタ基地で開発されたガンダムNT-1［アレックス］の開発データが応用されており、各部にその意匠を残す。







1-2.頭部はアンテナをシンチュウ線に置き換えたほか、バルカン砲をドリルで開孔。

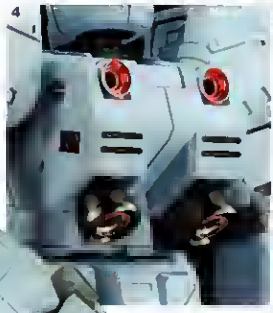


全身にモールドを追加して スペシャル機を演出!

フレームなど一部のランナーを除き完全に新規で開発されたHGUC「ジム・カスタム」。各部のバランスも抜群な秀作キットを、後ハメ加工と一部バランスの修整、そして全身にわたるディテールの追加でさらにブラッシュアップ。オーガスタ系のハイスペック機らしく特別感をうまく演出した作品となった。

RGM-79N ジム・カスタム
バンダイ1/144スケールプラスチックキット
"ハイグレードユニバーサルセンチュリー"
製作:yumoto



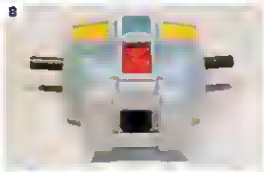




3.脚部スネ部分などはモールドを追加している。
4.バックパックはメインバーニア内部に金属パーツを取り付け。上の丸いノズルはアルミ製パーツに交換している。

















5·7.首はアゴが引けるように本体部分にプラ板を挟みかさ上げしている。
8·10.胴体は腰との接続部分にプラ板を貼って、1.5ミリ延長。
11·12.胸上面にはモールドを追加している。





13・14. 肩アーマーは挟み込み式のため、写真14のように片側に仕切り板を作ることで完成後に組みつけられるように。赤いスラスターも接続ピンを切り取って後ハメ式にしている。

15-16. 腰の中央ブロック側面のアポジモーターは市販パーツでディテールアップ。またフロントアーマーは軸中央で切断し、左右が独立して可動できるようにしている。

17. キット素組み(写真右)との比較。腰と首が伸びてさらにスレンダーな印象になった。











Coloring Data

本体色…GX1番・クールホワイト+
34番・スカイブルー少々+324番ライトグレー少々
関節…オリジナルで混色したグリーン系グレーを2色
黄…58番・黄橙色+GX1番・クールホワイト少々
赤…GX3番・ハーマンレッド+GX1番・クールホワイト少々
※今回は本体色にホワイトを加えた軽いグラデーションで仕上げています。
※すべてGSIクレオスの「Mr.カラー」



RGM-79N ジム・カスタム

バンダイ 1/144スケールプラスチックキット
バイグレードユニバーサルセンチュリー

製作・文：yumoto

「特徴がないのが特徴」と言われる名脇役ジム・カスタムですが、劇中ではそれまでのジムのイメージを一新する活躍がとても印象に残る人気の高いMSです。同系列のパワード・ジム、ジム・クゥエルなどがHGUCで発売されており、そのデータをフィードバックして作られたHGUC「ジム・カスタム」は、「0083」ジム系の集大成とも言える秀作です。今回は塗装のための後ハメ加工を中心に、部分的な改修とモールドを追加して「特徴がない」と言われるMSを、印象に残る作品に仕上げられるよう頑張りました！

元々、側頭部に分割ラインのあるデザインですが、部分的に合わせ目を消しています。後頭部のアンテナは金属パーツに交換。あまり細くなるとアンテナだけ浮いた感じになるので0.7ミリのやや太めのシンチュウ線に。バルカンは0.5ミリ径のピンバイスで開孔。各ダクトは細くて深いモールドに彫り直しています。胸はスケール感を出すためにスジ彫りを追加。首の接続箇所を約1ミリ上げてアゴを引けるように改修。胴は1・5ミリプラ板で延長。延長部分を消さずに、あえてディテールとして処理しました。

バックパックのバーニアは内部に金属パーツを取り付け。丸いノズルはアルミ製パーツに交換。肩アーマーの接続は、プラ板でMGのような差し込み式に変更。前腕とヒジ関節は前腕内部の接続軸をカットすれば簡単に後ハメ加工ができます。計7種類ある手首パーツは、ライフル用と握り拳とも良い出来ですが、少し厚みが気になったので親指を削り込んで小型化しています。スネとヒザ関節はフクラハギ内部の接続軸をカットすれば後ハメが可能。ヒザ、フクラハギの角ダクトは塗り分けを兼ねて市販パーツを内部に取り付けています。

BELONGING: Earth Federation Force ■ MODEL NUMBER: RGM-79Q ■ MODEL NAME: GM QUEL ■ OVERALL HEIGHT: 18.0m ■ TOTAL WEIGHT: 39.8t

RGM-79Q GM QUEL

BANDAI 1/144 scale plastic kit
"High Grade UNIVERSAL CENTURY"
madeled by Gansuke



RGM-79Q GM QUEL
ティターンズ初の制式採用機

ジム・カスタムをベースにした高性能機。各所に後に開発されるRX-178 ガンダムMk-Ⅱに近い意匠が見受けられるあたり、以降のティターンズ専用MSに多大な影響を与えた機体ともいえる。





1・2.頭部はHGUC「ジム・クゥエル」のものを使用。アンテナをシンチュウ線で補強し、スジ彫りを深く彫り直している。オデコなどのセンサー部は塗装した透明プラ板を貼っている。



RGM-79Q ジム・クゥエル
バンダイ1/144スケールプラスチックキット
"ハイグレードユニバーサルセンチュリー"RGM-79N ジム・カスタム改造
製作:岩輔

HGUCジム・カスタムベースで ジム・クゥエルをリビルド!

ジム・クゥエルは現在A.O.Z版としてHGUCキットが発売されているが、HGUC「ガンダムTR-1［ヘイズル2号機］」がベースとなっており、スネを中心とした脚部がアニメ用設定画に比べひとまわり太めのスタイリングになっている。そこでHGUC「ジム・カスタム」の発売を機に、「ジム・カスタム」をベースにしたアニメ設定画準拠のジム・クゥエルを本書用に立体化した。





3.HGUC「ジム・カスタム」作例（製作:yumoto）との比較。形状的な類似点が多く、作例からもジム・クゥエルとジム・カスタムの関係性が窺える。
4-5.HGUC「ジム・クゥエル」キット素組み（写真右）との比較。HGUC「ジム・クゥエル」は脚部のボリュームがあり、全体的にアニメ設定画よりもマッシブな印象を受ける。



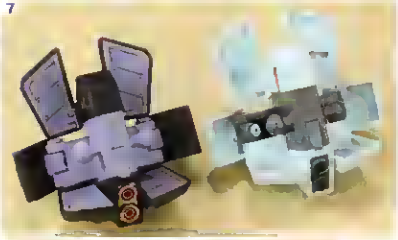




Coloring Data

胴…80番・コバルトブルー＋68番・モンザレッド＋1番・ホワイト＋2番・ブラック
青(濃)…14番・ネービーブルー＋65番・インディブルー＋2番・ブラック:少量
関節…72番・ミディアムブルー＋68番・モンザレッド＋1番・ホワイト
赤…CG2番・レッド(1)
イエロー…CG3番・イエロー(1)＋1番・ホワイト
武器…37番・RLM75グレーバイオレット
バーニア…SM03番・スーパーアイアン
※すべてGSIクレオスの「Mr.カラー」及び「ガンダムカラー」











6.上半身はHGUC「ジム・カスタム」をベースに中央コクピットブロックを「ジム・クゥエル」から移植。左上のセンサーも「ジム・クゥエル」のものを丁寧に切り取って貼り付けている。
7.下半身は「ジム・カスタム」を使用。前後のアーマー裏をプラ板で塞ぎ、モールドを追加したほか、リアアーマーを切り離し、独立して可動するように。これにより脚を後ろに反らせた際に干渉しないようになっている。またサイドアーマーは「ジム・クゥエル」のものを加工して使用した。
8.腕はヒジ関節を「ジム・カスタム」から移植。前腕は1ミリ延長している。
9.肩アーマーは挟み込み式だったので、胴体寄りの部分に仕切り板を新造、塗装後に組み上げられるようにしている。またヒンジによる可動を設け、腕を上げた時の干渉を防いでいる。また裏側は厚アーマーと同様にプラ板で埋めてモールドを追加している。
10.武装はHGUC「ジム・カスタム」と同様。作例では随所にディテールを追加している。

RGM-79Q ジム・クゥエル

バンダイ　1/144スケール　プラスチックキット
ハイグレード ユニバーサルセンチュリー

製作・文:岩輔

2011年1月に発売されたHGUC「ジム・カスタム」を使用して、「ジム・クゥエル」を製作しました。ジム・クゥエルはすでにキット化されていますが、「アドバンス・オブ・Z」(電撃ホビーマガジン連載企画)にて登場したバージョンのプロポーションなので、一部のパーツのみの使用に止め、アニメ設定画に近い「ジム・クゥエル」を目指しました。

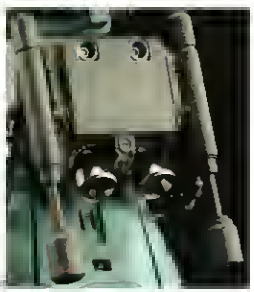
まず頭部ですが、「ジム・クゥエル」の頭部を使用しています。アンテナをシンチュウ線で補強し、スジ彫りを深く彫り直しました。センサー部は塗装した透明プラ板を貼ってあります。胴部は「ジム・カスタム」のコクピットハッチ周辺を削り取り、「ジム・クゥエル」のパーツを取り付けますが、ジム・カスタムとジム・クゥエルでは微妙に形状が違うので、胸部上部をポリエステルパテで裏打ちして削ってあります。胸部センサーは「ジム・クゥエル」の物を切り取って接着しました。また首が短いと感じたので、首のポリパーツの取付け位置を1ミリ上げてあります。バックパックはビーム・サーベルの取り付け方法を変更。中にピンを追加し外れにくくしてあります。腰部は、リアアーマーを切り取り可動式にしました(ほとんど動きませんけど…)。サイドアーマーは「ジム・クゥエル」の物を加工して使用しました。

腕部は、ヒジ関節周りを「ジム・カスタム」、その他の部分を「ジム・クゥエル」から使用。その他、前腕部を1ミリ延長し、肩アーマーの取り付け方法を変更してあります。脚部は、スネのセンサー部分を開孔し裏から塗装した透明プラ板を貼り付けました。ヒザ部はバーニアを削りプラ材で四角いディテールを追加しました。

武装やシールドは、ストレート組みにディテールを追加しました。

MS-06F-2 ZAKU II F2

BANDAI 1/144 scale plastic kit
"High Grade UNIVERSAL CENTURY"
modeled by Toshio Iwata

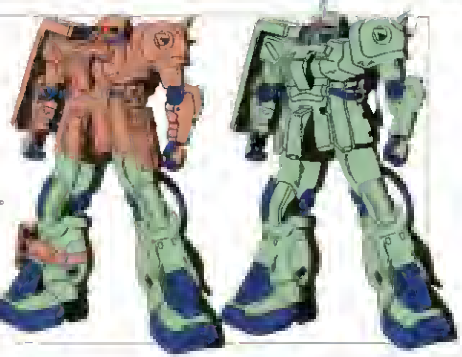


ビッター機は短時間ジャンプを可能にするブースターロケットがランドセルに増設されている。作例ではブースターロケットをジャンクパーツの寄せ集めで新造した

MS-06F-2 ZUKUII F2

現地改修されたカスタム機

MS-06Fの後期型。一年戦争終結後そのほとんどが地球連邦軍に接収されたが、ジオン残党軍が運用する機体も見受けられた。本機はキンバライト鉱山基地跡を拠点にしたジオン残党軍の司令ノイエン・ビッター少将専用機で、ランドセルに短時間ジャンプが可能なブースターロケットを装備していた現地改修型だ。その他に現地で迷彩色に塗り替えた機体も数機確認されている。



傑作キットを ビッター専用機に改造する

『機動戦士ガンダム0083 STARDUST MEMORY』に登場する"ザク"は、ファンの間でも非常に人気の高い機体である。2010年2月にリリースされたHGUC「ザクF2ジオン仕様」を、キンバライト鉱山基地跡を守るノイエン・ビッター機に改造。名シーンである第4話「砂漠の攻防戦」を再現した。

MS-06F-2 ザクF2型 ジオン仕様

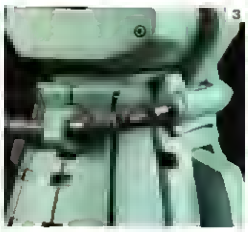
バンダイ1/144スケールプラスチックキット
"ハイグレードユニバーサルセンチュリー"
製作:岩田トシオ



1.頭部はモノアイを市販パーツの組み合わせでディテールアップ。またブレードアンテナはシャープに削り込み、動力パイプは市販のものに置き換えている。
2.ツマ先は設定画を参考に切り欠きを追加している。
3.腰の動力パイプはスプリングパイプを芯に市販パイプパーツに置き換えている。











キンバライト鉱山基地仕様
ツートーンザクを再現する!

ノイエン・ビッター少尉とともに出撃するジオン残党軍のザクは上半身のみサンドカラーで現地塗装されたものも登場した。ここではそのツートーンカラーのザクを装備も含めて再現。頭部のアップリケアーマーなど、すべてキット付属のもので再現できるのでぜひ試してみて欲しい。

MS-06F-2 ザクF2型 ジオン仕様
バンダイ1/144スケールプラスチックキット
"ハイグレードユニバーサルセンチュリー"
製作:人首猛

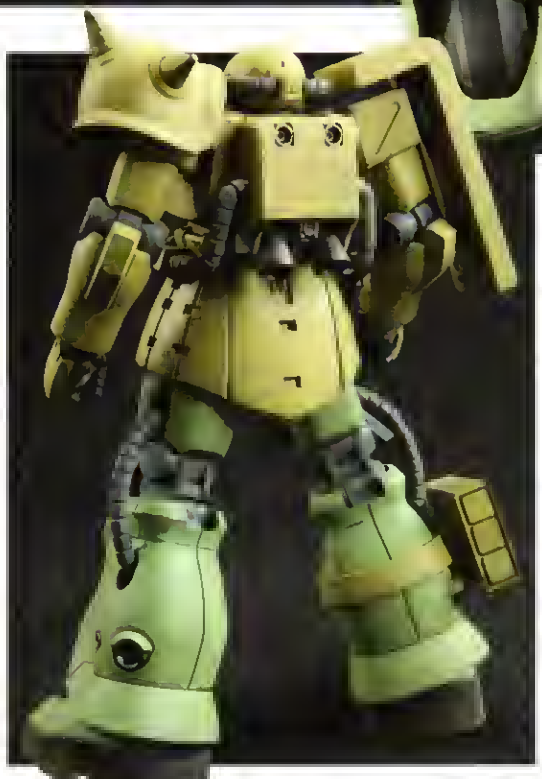


⬇キットの武装セット内容。90mmマシンガンやフット・ミサイルなどうれしい装備が満載となっている。

MS-06F-2
ZAKU II F2

BANDAI 1/144 scale plastic kit "High Grade UNIVERSAL CENTURY"
madeled by Takeshi Hitokabe





■BELONGING:Delaze Fleet ■MODEL NUMBER:MS-06F-2 ■MODEL NAME:ZAKUII F2 ■OVERALL HEIGHT:17.5m ■TOTAL WEIGHT:49.9t



MS-06F-2 ZAKU II F2

BANDAI 1/144 scale plastic kit
"High Grade UNIVERSAL CENTURY"
modeled by M[illegible]yuki O[illegible]da

宇宙仕様のザクⅡF2型をウェザリング塗装で

こちらは本来のキットの仕様であるジオン仕様カラー。主に宇宙での戦闘シーンで活躍していた。作例は頭部モノアイと手首周り以外はほぼキットのまま。各所に使い古されたイメージを演出するために、モーターツールなどでバトルダメージを施し、ウェザリングと塗装で仕上げている。

MS-06F-2 ザクF2型 ジオン仕様
バンダイ1/144スケールプラスチックキット
"ハイグレードユニバーサルセンチュリー"
製作:岡田雅之







←頭部はモノアイレールをくり貫き市販パーツの組み合わせでモノアイを新造。クリアーパーツの裏にはメタリックシールを貼り、光の反射で明るく光るようにしている。

キンバライト基地仕様のトローペン

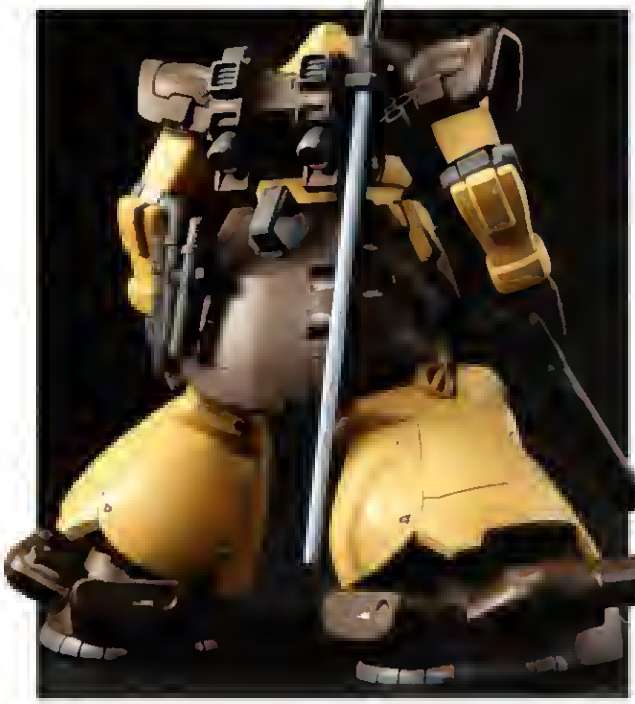
キンバライト鉱山跡基地にてジオン残党軍に運用されていたドム・トローペンは全身がサンドカラーで塗装され、武装もラケーテン・バズーカではなくザク・バズーカだった。作例では武装を含め劇中登場装備を忠実に再現したほか、モノアイスリットなどのディテールアップも行っている。

MS-09F/TROP ドム・トローペン サンドブラウン
バンダイ1/144スケールプラスチックキット
"ハイグレードユニバーサルセンチュリー"
製作:大橋宗一郎



MS-09F/TROP DOM TROPEN

BANDAI 1/144 scale plastic kit
"High Grade UNIVERSAL CENTURY"
modeled by Souichirou Ohashi





1.頭部モノアイスリット部をくり貫き、透明プラ板でモノアイカバーを製作。中にHGUC「ザク」のパーツをそのまま使用。
2.劇中の機体を完全再現すべく、腰の予備弾装をプラパイプとプラ板から新造している。

MS-09F/TROP DOM TROPEN

局地専用ドムを現地改修した砂漠戦対応型

局地戦用に改造されたドムのバリエーション機。砂漠戦に特化した機体で。脚部インテークにダスト・フィルターが装備されている。



■BELONGING:Dabaoa Fleet ■MODEL NUMBER:MS-09F/TROP ■MODEL NAME:DOM TROPEN ■OVERALL HEIGHT:18.5m ■TOTAL WEIGHT:44.8t

良質キットの完成度をさらに高める

2000年11月に発売されたHGUC「ドム・トローペン」は、OVA第1話「ガンダム強奪」にて連邦軍トリントン基地を襲撃した際に登場した一般的なドムのカラーリングタイプだった。"ドムタイプのキットには傑作が多い"というガンプラのセオリー通り、このキットも非常にバランスの良い傑作の一つ。作例ではプロポーションはそのままに、足首関節の新造によりさらに接地性を高めるなどの改造を施している。

MS-09F/TROP ドム・トローペン
バンダイ1/144スケールプラスチックキット
"ハイグレードユニバーサルセンチュリー"
製作:岩田トシオ



➡作例ではより足首の接地性を高めるため、足首関節を市販のボールジョイントパーツに変更。引き出し式にすることで、脚を広げても足底をしっかり接地できるようにした。

MS-09F/TROP
DOM TROPEN

砂漠地帯への最適化を目指した局地型ドム

局地戦用に改造されたドムのバリエーション機。砂漠戦に特化した機体で、脚部インテークにダスト・フィルターが装備されている。



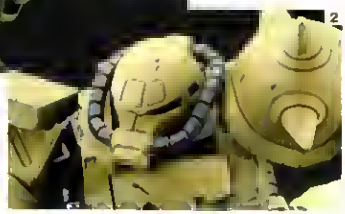
MS-09F/TROP
DOM TROPEN
BANDAI 1/144 scale plastic kit "High Grade UNIVERSAL CENTURY"
modeled by Toshio Iwata

The offensive and defensive battle of the burning sand

BANDAI 1/144 scale plastic kit
"High Grade UNIVERSAL CENTURY" use diorama
modeled by Kaisumori Kakuta

熱砂の攻防戦





1・2.サンドカラーのザクは、ボディを劇中通りにグリーンとデザートイエローのツートーンカラーで仕上げ、頭部にプラ板によるアップリケアーマーを追加している。

MS-06F-2 ZAKUII F2
MS-09F/TROP DOM TROPEN

限られた補給物資で戦うジオン残党軍MS

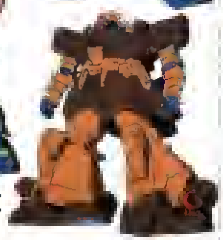
戦後、地球に取り残されたジオン残党軍は、一部のシンパからの支援はあるものの、満足な補給物資を手に入れることはできなかった。アフリカ大陸のキンバライト鉱山基地に潜伏するジオン残党軍も同様の立場だった。そのため、MS用塗料も足りず視認性の高い上半身のみサンドカラーに塗る機体も存在していた。



ザクIIF2型
ノイエン・ビッター機



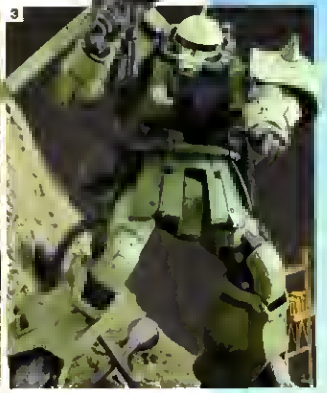
ザクIIF2型
サンドカラー



ドム・トローペン
サンドブラウン







3・5.隊長であるノイエン・ビッター少将の機体は、ランドセルのブースターロケットをプラ材で新造。また劇中では装備していなかったが、立体栄えを考慮して腰にヒート・ホークを懸架させている。

地上戦のクライマックスシーンをジオラマで再現!

前半の地上編クライマックスとなるOVA第4話「熱砂の攻防戦」。奪取されたガンダム試作2号機を追ってアフリカ大陸キンバライト鉱山に足を踏み入れたアルビオン部隊が、そこに潜伏するジオン残党軍と激戦を繰り広げる名シーンである。そんな迫力の砂漠戦を、HGUCキットを使いジオラマで再現。綿による煙の表現など、昔ながらのジオラマ製作技法で仕上げている。

熱砂の攻防戦
バンダイ1/144スケールプラスチックキット
"ハイグレードユニバーサルセンチュリー"使用ジオラマ
製作:角田勝成

ザクIIF2型
ドム・トローペン サンドブラウン
ジム・カスタム
ガンダム試作1号機
※すべてHGUCシリーズ

6.ザクⅡF2型やドム・トローペンの足元には砂埃を、綿で演出。サンドカラーでエアブラシ塗装を行い、それらしく仕上げている。
7.紙一重でドム・トローペンの放つバズーカ弾を避けるジム・カスタム。パイロットであるモンシアの技量の高さをうまく表現している。基本的にキットのままだが、腰アーマー裏側はプラ板で塞いでいる。
8.モノアイをウェーブ「H-アイズ」に置き換えた以外は、ドム・トローペンもほぼストレート。バズーカは劇中同様にザク・バズーカを持たせている。
9.ガンダム試作1号機は、フェイス部をHGUC「ガンダムMk-Ⅱ」の物に交換。パーツ各部に見られるセンサー部にはカラーテープを貼っている。

ジオラマサイズ
幅:420×奥行き:300×高さ:360ミリ









熱砂の攻防戦

バンダイ　144スケールプラスチックキット
バイグレード・ユニバーサルセンチュリー使用ジオラマ
製作・文:鳥田勝成

「今だッ！　かかれぇ！」数あるガンダム作品の中でも、『0083 STARDUST MEMORY』が一番好き！　という方も多いのではないでしょうか？　私も大好きな作品のひとつです。当時、ビデオレンタル屋さんに行っても行っても貸出し中だったことを思い出します。そして、もう『ガンダム』から卒業しよう、などと思っていた自分に、また熱い何かを呼び起こしてくれた作品でもありました。そんなこともあり、今回私もジオラマで参加させていただきました。場面は物語の中でも、とても印象深いOVA第4話「熱砂の攻防戦」をモチーフにしました。

HGUC「ジム・カスタム」をメインに、ジオン残党部隊の奇襲攻撃に、不意を突かれたアルビオンのMS隊の様子を再現しています。補給物資等がほとんど期待できないジオン残党軍MSには、連邦軍MSに比べ、かなりキツめにダメージ等のウェザリングを施してあります。傷はルーターなどのモーターツールで削り込んだ後、塗料を筆で塗ったチッピング塗装を行っています。

ベースは、スタイロフォームを下敷きにシーナリープラスターを表面に塗って地面を製作。また所々に鉱山跡地をイメージして、サビの表現を施したストラクチャーを配置しています。煙のエフェクト表現には綿を使用しました。

名作と言われる作品は何年経っても色褪せないものです。読者のみなさん、久しぶりに『0083』観てみませんか？　きっと、新たな発見がありますよ！

MS-14Fs GELGOOG M COMMANDER MODEL

BANDAI 1/144 scale plastic kit
"High Grade UNIVERSAL CENTURY" conversion
modeled by VAN



MS-14Fs GELGOOG M COMMANDER MODEL

一年戦争後期に開発された名機ゲルググの海兵部隊仕様

ジオン公国軍最後の量産機ゲルググをマイナーチェンジした機体。ビーム・ナギナタに替わり、ビーム・サーベルを装備。一般機はマシンガンにスパイク付きシールドと格闘戦を想定した仕様となっている。指揮官機はロングレンジのビーム・ライフルを使用する長距離支援型となっている。



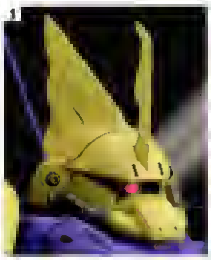
シールドは本体に合わせて、中央で切断した後プラ板を挟み、約10ミリ大型化。マルイチモールドはくり貫いて市販パーツでデコレートしている。また、ビーム・ライフルはキット3個分を使ってトータルで20ミリ延長している。

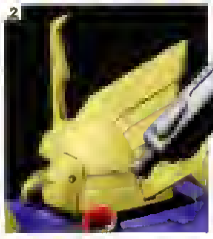
他のキットとのミキシングで
指揮官機をリビルドアップ！

シーマ・ガラハウの駆るゲルググMはバーニアやスラスターの増設とロングレンジのビーム・ライフル、紫を基調としたカラーリングが特徴の機体だ。ガンダム試作1号機を破壊せしめた強力な機体を、キットをベースにHGUCやHG各キットのパーツを流用してリビルド。シーマのパーソナリティーが表れた、よりスタイリッシュなゲルググMが完成した。

MS-14Fs ゲルググM 指揮官機

バンダイ1/144スケールプラスチックキット
"ハイグレードユニバーサルセンチュリー"改造
製作：VAN





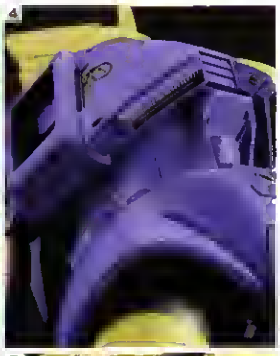




1-3. 頭部はトサカをプラ板で大型化。モノアイをくり貫きプラ材で基部を新造した後、市販パーツでモノアイを作り直している。
4-8. 胴体は上半身で分割しボールジョイントによるスイング機構を追加。胸正面のダクトはプラ板で作り直している。ダクト内部のモールドにも注目してほしい。













Coloring Data

黄色…21番・ミドルストーン
紫…CG5番・パープル(1)→パープルヴァイオレット(ガイアノーツ)
+72番・ミディアムブルー
赤…CG2番・レッド(1)
関節部…CG101番・ファントムグレー
+SM01番・スーパーファインシルバー
※特に表記のないものはGSIクレオスの「Mr.カラー」及び「ガンダムカラー」



9・10.股関節にはプラ板でクランク式の可動機構を新たに設置。太モモの可動範囲を広げている。
11-12.肩アーマーは裏側にプラ板を貼って設定の形状を再現している。
13・14.足首はプラ板を挟み、前後に3ミリ延長(写真13の左が無改造の足首※一般機のもの)。足首関節はHG「スーパーカスタムザクF2000」から流用している。
15・16.製作途中の全身写真。全身にわたってプラ材による延長・大型化が行われているのが分かる。
17.HGUC「ゲルググM(一般機)」(編集部製作)との比較。ほぼ同じパーツを使用したキットのはずが大改修でバランスが大きく変わっている。





MS-14Fs ゲルググM 指揮官機

バンダイ 144スケール プラスチックキット
バイグレード ユニバーサルセンチュリー 改造
製作・文:VAN

ゲルググは人によって持つイメージが違ったりして、さらに設定画では太めなのに劇中ではそうでもなかったりします。今回は劇中イメージを意識しつつ、個人的な好みでマッシブな感じになるように改造しました。

頭部は設定を参考にトサカを大きくしバルカンを市販パーツに置き換え。モノアイスリットのラインも変更し、モノアイもウェーブ「H、アイズ」にして可動式に。胸は抜きの関係で甘くなってしまったダクト類をプラ材で新造。胸下と肩にも可動を追加してみました。スカートはカットソーにて切り込みを入れ、クサビ形にプラ板を挟んだりして大型化。リアスカートはプラ板を挟み10ミリ延長しています。スカート内部とスネ内部のバーニアはそれぞれHGUC「量産型ゲルググ」のバーニア基部にキットのスカート裏のバーニアを3セット分加工したものを使用。股関節はクランク式の可動機構を仕込みました。肩は少し大きくしつつ内部等を作り込み。ヒジ関節は見栄えと可動を考慮し、HGUC「ゲルググJ」のものを流用。手首はHG「スーパーカスタムザクF2000(以下ザクF2000)」やHGUC「ブフカスタム」から流用。太モモはキットの上部をカットし、「ザクF2000」の股関節パーツを接続。フクラハギの3つのバーニアは、本来はスネ内部に使うバーニアを加工してそれぞれに使用。足首は前後に3ミリ延長し、関節は「ザクF2000」から流用。カカトも大型化、裏面もプラ板で塞いでいます。

シールドは本体に合わせて10ミリほど大型化。マルイチモールドはくり貫いて市販パーツでデコレート。ライフルもキット2個分を使ってトータルで20ミリ延長しています。





BELONGING:Deluze Fleet ■MODEL NUMBER:MS-14F ■MODEL NAME:GELGOOG MARINE ■OVERALL HEIGHT:19.2m ■TOTAL WEIGHT:45.1t

簡単仕上げ&ウェザリングで ゲルググMを作る

HGUC「ゲルググM」は2000年10月に発売されたシリーズ初期のキットではあるが、バランス、スタイリングともに申し分なく、そのまま組み上げるだけで十分満足できる内容だ。作例では成形色を活かした簡単仕上げで製作。ウォッシングを施し、ジオン残党軍MS特有の使い古されたイメージを投影している。

MS-14F ゲルググM
バンダイ1/144スケールプラスチックキット
"ハイグレードユニバーサルセンチュリー"
製作:岡田雅之

MS-14F GELGOOG M

BANDAI 1/144 scale plastic kit
"High Grade UNIVERSAL CENTURY"
modeled by Masayuki Okada



MS-21C DRA-C

BANDAI 1/144 scale plastic kit
"High Grade UNIVERSAL CENTURY"MS-06F-2 ZAKUⅡF2 conversion
modeled by Kojima doitoichou



HGUCザクⅡF2型のパーツで立体化!

デラーズ・フリートが潜伏していた繋留基地「茨の園」で量産したMSドラッツェ。ザクのボディにガトル戦闘艇の推進装置を組み込み、ムサイの外装パーツをシールドにした、いわば"寄せ集め"の機体。そんなジオン残党軍の資金難を象徴するようなドラッツェをHGUC「ザクⅡF2型」より改造。胴体と腕以外はほぼスクラッチという力作となった。

MS-21C ドラッツェ
バンダイ1/144スケールプラスチックキット
"ハイグレードユニバーサルセンチュリー"MS-06F-2 ザクⅡF2型 改造
製作:コジマ大隊長



2



1

MS-21C DRA-C

ジオン残党軍の資金難を象徴する"寄せ集め"

ドラッツェはザクⅡF2型やガトル戦闘艇などのパーツを寄せ集めて建造したMS。しかしながら機動力は高く、拠点防衛に向いているため、後にアクシズやパラオでも運用されている。





1.頭部は完全なスクラッチ。モノアイはウェーブ「H-アイズ」。
2.球体の肩パーツは重くならないように半円のパーツを組み合わせて中空で製作している。



4



3

3.ランドセルはプラ板の箱組みをベースに製作。
4.シールドもプラ板をベースにジャンクパーツでデコレート。腕にはネオジム磁石で固定する仕組み。

MS-09R-2
RICK DOMII

BANDAI 1/144 scale plastic kit
"High Grade UNIVERSAL CENTURY"
madeled by Masayuki Okada

1.頭部はMS-09Rから動力パイプが露出する方式に変更されている。
2-3.一年戦争中期から運用している機体と想定し、全身には無数の傷を配している。劇中でも同様の描写が施されたカットが見受けられた。







MS-09R-2 RICK DOMII
一年戦争中期に建造された09Rのバリエーション

一年戦争中期以降に局地戦に応じて改修された機体。プロペラントタンクの常設でペイロードが延び、基本性能もMS-09Rを上回る。後のAMX-009ドライセンの設計母体となった機体も、この機体と同型のものだと言われている。



2日間の簡単仕上げで0083風MSを再現したい!

劇中で活躍したジオン残党軍MSは、どれも使い古されたような無数の傷や汚れが描き込まれていた。ガトーの部下カリウスのリック・ドムⅡもそんなMSの一機。ここではバリバリに使い古されたジオン残党軍MSを、カリウスのドムをモチーフに、たった2日間の作業で再現してみよう。

TEXT:電撃ホビーマガジン編集部



まずは作業開始の前に全体にツヤ消しコーティング!



まずはエナメルカラーをしっかり定着させるために、GSIクレオス「Mr.スーパークリアーつや消し」を全体に吹き付けておこう。水性のトップコートより塗膜は丈夫になるので、こちらを選択した。

バトルダメージ 1



削りカスを取り払ってバトルダメージ完成。エッジがガタガタにへこんでいるのが分かるだろう。



パーツのエッジを中心にガリガリ削っていく。傷のバランスを見ながら少しずつ作業していこう。



先端は写真のような金属の丸い刃がオススだ。



まずはモーターツールでバトルダメージを施す。使用したのはウェーブの電動ルーター。電池式ではないため本体が軽く使いやすい。

フィルタリング 2



完成。写真左がフィルタリングを施したもの。パーツの成形色のトーンが一段落ちたのが分かるだろうか。



塗りすぎた部分はペトロールを浸した綿棒で拭き取っていく。



タミヤエナメルカラー・ジャーマングレーとレッドブラウンを足したものを、ペトロールでしゃぶしゃぶに薄めてパーツに薄く塗っていく。



「フィルタリング」とはエナメル塗料で薄い膜を作る手法。ただしエナメル塗料はパーツを割ってしまう恐れがあるので、溶剤はペトロールを使用。

ウェザリング&チッピング 3



先ほどモーターツールで傷を付けた部分の一部にタミヤエナメルカラー・ジャーマングレーで塗色し、色ハゲを表現。



オイルだれなどを表現するために綿棒に塗料を含ませたものを、上から下に擦り付けてウェザリングを施す。



まるで全塗装したかのようなリアルな仕上がり! 工作も含めて約2日間でここまでできるのでぜひお試しを!

MS-06R-2 RICK DOMⅡ After



RX-78GP03 GUNDAM GP03 DENDROBIUM

BANDAI 1/550 scale plastic kit
"Ultimate Grade MECHANICS"
Created by Masayuki Okada



RX-78GP03 デンドロビウム
バンダイ1/550スケールプラスチックキット
"ハイグレードメカニクス"
製作:岡田雅之

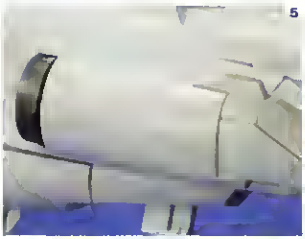


Coloring Data
白…GX1番・クールホワイト+13番・ニュートラルグレー
グレー…CG24番・グレー(24)
バーニア…CG24番・グレー(24)の上からUG05番・MSグレー連邦系をオーバーコート
※すべてGSIクレオスの『Mr.カラー』及び『ガンダムカラー』

HGメカニクスを丁寧に仕上げる① デンドロビウム編

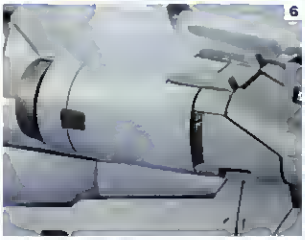
2001年7月に発売されたHGメカニクス「デンドロビウム」は、1/550スケールというコンパクトなサイズながら、スライド金型によるコンテナの一体成形や、大型クローの差し替えによる展開、同スケールのスティメン、ガーベラ・テトラが付属するなど、見所の多い内容となっている。作例は本書用新作。キットを活かしつつスケール感を演出するディテールアップや塗装を施している。

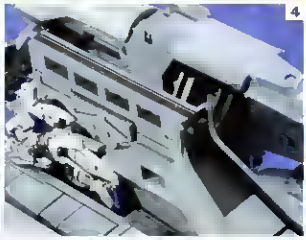














1.メガ・ビーム砲は差し替えでグリップが展開した状態を再現できる。
2.大型クローアームも差し替えで展開。挟み込みが多いパーツなのでマスキングをして丁寧に塗装している。
3-4.コンテナを支える支柱部分はモールドがなく寂しかったので、エバーグリーンのプラ材を貼ってディテールアップしている。(写真3がキット素組み)
5-6.各部のグレーのモールド内にも彫刻刀でディテールを追加した。(写真5がキット素組み)

RX-78GP03 ガンダム試作3号機

バンダイ　1/60スケール プラスチックキット
ハイグレードメカニクス

製作・文:岡田雅之

本書新作としてHGメカニクス「デンドロビウム」を製作しました。このキットはポリパーツを使わない比較的簡易な作りですが、モールドもシャープで、しかもコンテナパーツがスライド金型で一体成形で射出されている点など、今見ても非常によく出来たキットだと思います。作例ではよりスケール感を演出するために、各部のモールドにさらなるディテールを追加。グラデーション塗装でメリハリを付けてみました。

コンテナを支える支柱部分は合わせ目が露出し、かつディテールもなかったため、合わせ目を隠す意味合いも込めて、エバーグリーンのプラ材(コの字形)を貼っています。その支柱の後方にも市販パーツでデコレート。さらにその後ろの板状のパーツが挟み込み式になっていて塗装がしづらいので、この板を切り取り塗装後に接着する方式に変えました。

各部のグレーで塗られる一段落ち込んだ部分は、彫刻刀やデザインナイフでさらにモールドを彫り込んで密度感をアップ。モールドパターンはHGUC「デンドロビウム」を参考にしています。

塗装は基本色であるホワイトを三段階に分けたグラデーションにて再現。ベースにニュートラルグレーを吹き付け、その上からホワイトにニュートラルグレーを少しずつ足していったホワイトを三段階、空気の流れを意識しながら吹き付けていきます。この際ハンドピースのノズルを絞り、細吹きで吹き付けていくとスケール感を損なわなくてよいかと思います。

スミ入れはハルレッドにジャーマングレーを少量加えたものをチョイス。グレーよりもやさしく自然に仕上がったのではないでしょうか。

■BELONGING:Delaza Fleet ■MODEL NUMBER:AMX-002 ■MODEL NAME:NEUE ZIEL ■OVERALL HEIGHT:76.0m ■TOTAL WEIGHT:198.2t

AMX-002 ノイエ・ジール
バンダイ1/550スケールプラスチックキット
"ハイグレードメカニクス"
製作:人首猛

AMX-002
NEUE ZIEL

BANDAI 1/550 scale plastic kit
"High Grade MECHANICS"
modeled by Takeshi Hitakabe



AMX-002 NEUE ZIEL

アクシズが開発した超大型MA

一年戦争終結後、アステロイド・ベルトまで逃げ延びたジオン公国軍残党アクシズが開発したMA。その後デラーズ・フリートに譲渡され、アナベル・ガトーの最終搭乗機となった。サイコミュによらないオールレンジ攻撃が可能。

HGメカニクスを丁寧に仕上げる② ノイエ・ジール編

HGメカニクスとしては「デンドロビウム」の約半年後の2002年1月に発売された「ノイエ・ジール」。こちらもプラモデルとしては初の立体化とあって、当時のファンからはおおいに歓迎された。「デンドロビウム」同様の1/550スケールながら、隠し腕の再現やリード線による遠距離誘導攻撃を楽しむことができる内容となっている。本書新作による作例は各部の後ハメ加工を中心に動力パイプを市販パーツに交換するなど、スケール感を高める工作を随所に行っている。



小さいながら細かくモールデイングされた頭部。作例ではエリから伸びるフィンを削り込んでシャープにしている。







1.大きな肩アーマーから延びる細い腕は関節固定ながら精密な仕上がり。差し替えで再現されている。
2.腰の動力パイプは市販の金属パーツを使用。グラスチューブに一個ずつ通して再現している。
3.背部のアンテナはシンチュウ線に置き換えている。
4.キットはリード線が付属。写真のように遠距離誘導攻撃の再現が可能。
5.HGメカニクス「デンドロビウム」との比較。デンドロビウム内部に収納されているステイメンを見るとノイエ・ジールの異常な大きさがよく分かる。

Coloring Data

緑…70番・ダークグリーン+66番・デイトナグリーン+1番・ホワイト+2番・ブラック+109番・キャラクターイエロー
関節等…スターブライトアイアン(ガイアカラー)
バーニア…スターブライトアイアン+ライトステンレスシルバー(ガイアカラー)
動力パイプ等…真金(フィニッシャーズ)
※特に表記のないものはGSIクレオスの「Mr.カラー」

AMX-002 ノイエ・ジール

バンダイ 1/550スケール プラスチックキット
バイグレードメカニクス

製作・文/人首猛

■HGメカニクス

結構前に発売されたキット(2002年1月)なのですが、「ガンダムコレクション」のデンドロビウムとのセットアイテムを除くと、純然たるインジェクションでは唯一のキットなので、ある意味貴重なキットではあります。ただ時の流れを感じる部分もあるので、その辺りを丁寧に補正してあげれば小粒ではありますが、かっこよくなります。

■工作

腕や腰が挟み込みなので後ハメ加工をしています。腰やヒジ関節は接続ピンを削り取って塗装後に接着する簡単な手法です。肩アーマーも接続が挟み込みなので肩アーマー本体にポリパーツを仕込んで、取り外しができるようにしました。胴体の受けの部分にウェーブ「プラサポ」を使用しています。

動力パイプは家にあった「プラスパイプS」を使い、後ろのアンテナは0.5ミリのシンチュウ線に置き換えています。各部のスラスターのモールドが金型の関係で甘くなっているので彫り込んで、市販パーツ等でディテールアップしています。

■塗装

今回は少しトーンを落とした感じにしてみました。ちょっとアクセントが欲しかったので動力パイプなどを金色にしてみました。デカールはスケール的に合わないと判断して貼っていません。

HGメカニクスを丁寧に仕上げる③
ヴァル・ヴァロ編

HGメカニクスの最後となった「ヴァル・ヴァロ」は先の2アイテムと同様に、各ギミックを再現、ミニフィギュアも付属した内容。こちらも本書用作例だが、成形色を活かした簡単仕上げで完成させている。GSIクレオスの「Mr.スーパークリアーつや消し」を吹き付けて、ウォッシングを施し、チッピングなどのウェザリングを施しただけだが、全塗装と見違える出来栄えとなった。



MA-06 VAL-W

一年戦争の亡霊

一年戦争時にジオン公国軍で開発されたMA。終戦後、退役軍人のケリィ・レズナーの手により月面のフォン・ブラウン市郊外のジャンクヤードに秘匿され、修繕されていた。大型メガ粒子砲やプラズマ・リーダーなど当時の最新武装を備えていた。



■BELONGING:Principality of Zeon ■MODEL NUMBER:MA-06 ■MODEL NAME:VAL-WALO ■OVERALL LENGTH:68.0m ■TOTAL WEIGHT:354.1t

MA-06 ヴァル・ヴァロ

バンダイ1/550スケールプラスチックキット
"HGメカニクス"
製作:岡田雅之











1.機種先端部を展開すると大型メガ粒子砲が露出する。カバー裏などもしっかりモールディングされているのが分かる。
2.フレキシブルクローアームは設定通り展開する。アーム部分は延びた状態に差し替えて対応する。



BELONGING:Deloza Fleet
MODEL NUMBER:YMS-16M
MODEL NAME:XAMEL
OVERALL HEIGHT:27.0m
TOTAL WEIGHT:121.5t

YMS-16M XAMEL

1/144 scale scratch build
modeled by Kojima daitaichou

YMS-16M XAMEL

680mmカノン砲を持つ超長距離砲撃用MS

一年戦争末期にジオン公国軍にて試作された二人乗りの超長距離砲撃用MS。680mmの大口径カノンを射撃するために脚部と後部スカートに装備されたホバー機構で移動する。頭頂高27.0m、全備重量121.5tの巨体ながらその機動力は通常のMSとさほど変わらない。



ジム改との比較。頭頂高27.0mという設定どおり、作例ではその大きさ・ボリュームを見事に再現している。





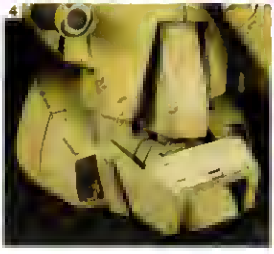
680mmカノン砲は折りたたみ式。砲撃時には後方の大型スカートアーマーがアウトリガーとして機能する。

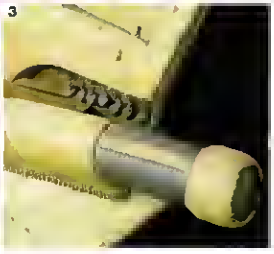
ミリタリーテイストをさらに盛り込み巨大MSをフルスクラッチ!

ストーリー前半にバニング大尉のジム改と激しい戦闘を繰り広げる、ジオン軍の巨大MSザメル。680mmカノン砲や防塵フィルターなど、AFVテイスト全開のこのMSをコジマ大隊長がフルスクラッチ! 一部ガンプラからのパーツ流用はあるものの、ほぼ全身がプラ板やマジックスカルプによるもの。それにAFVキットなどのエッチングパーツを活用し、さらに溶きパテによるツイメリットコーティングを施すなど、ミリタリーテイスト溢れる作品に仕上がっている。

YMS-16M ザメル
1/144スケールスクラッチビルド
製作:コジマ大隊長







1.ほぼプラ板の貼り合わせのみで構成されている上半身。スモークディスチャージャーは市販のエッチングパーツやシンチュウ線を使って再現している。
2.肩アーマーは1/100「ズゴック」の脚部パーツをベースにマジックスカルプで全体を構成。スパイクは市販パーツを使用している。
3.防塵フィルターの奥にはエッチングによるチェーンカーテンが取り付けてある。
4.足は1/100「ズゴック」などの流用パーツを芯にプラ板を貼り合わせて製作。

Coloring Data

黄色…21番・ミドルストーン:70%+45番・セールカラー:30%
グレー1…37番・RLM75グレーバイオレット:80%+2番・ブラック:20%
グレー2…40番・ジャーマングレー:80%+2番・ブラック:20%
※すべてGSIクレオスの「Mr.カラー」

YMS-16M ザメル

1／144スケールスクラッチビルド

製作・文:コジマ大隊長

ほぼスクラッチパーツで構成されておりまして、その行程を詳細に説明するには文章も冗長になりますので、掻い摘んでの解説となります。

ヒジと肩には1／100「ズゴック」のスネと前腕部のパーツを芯にしてマジックスカルプで形状を調整。スリッパ先端部にHGUC「ハイザック」の脚、スネに付いている防塵フィルターをHGUC「ドム・トローペン」から流用。それ以外は、ほぼプラ板とマジックスカルプで製作しました。その他は形状的には似ていてもサイズが違っていたりして、新規で作った方が早いと判断しました。主砲の砲身部に1／35「ワンメル用」のアルミパーツ、その他機体各所にエッチングパーツやシンチュウ製のスモークディスチャージャーを配してミリタリーチックな雰囲気を演出しています。

塗装は基本的にAFV手法を用いています。ラッカー系マホガニーで全体の下地塗り→同じくラッカーのミドルストーンと数種類のグレーでパーツごとに塗り分け、さらにイエロー部にはファレホのサンドイエローをスポンジに付けて、ポンポンと表面を軽く叩くように塗ります。その後油絵の具のバーントシェンナを中心にスミ入れを兼ねたウォッシングをして乾燥後、青、黄、赤、橙、茶系統の絵の具を使ってのフィルタリングで色相的な変化を加えます。これは巨大な面の風化具合が均一ではないという理論からの表現手法です。スポンジチッピングにはファレホのレザーブラウンを使ってエッジ部を中心に1／144というスケールを意識しながら、くどくならないように施し、最後にエナメルのバフをエアブラシで吹いてホコリっぽさを足まわりに加えます。ガンプラ以外のジャンルにも優れた手法が編み出されています。積極的に応用して表現の幅を広げてみると楽しいですよ!

■BELONGING:Dekaza Fleet ■MODEL NUMBER:YMS-16M ■MODEL NAME:XAMEL ■OVERALL HEIGHT:21.5m ■TOTAL WEIGHT:xx.xt



5

6

5.680mmカノン砲は、1/35「フンメル」用アルミパーツを使用。砲口内にはライフリングのモールドも再現している。
6.後部スカートアーマーとの連結部付近。現用兵器などを参考にオリジナルディテールを盛り込んでいる。
7-9.製作途中写真。パーツのあずき色に見える部分が1/100「ズゴック」からの流用。白い部分がプラ板製。スモークディスチャージャーも一つ一つ作り込んでいる。

7

8

9



MOBILE SHIP ALBION

BANDAI 1/1700 scale plastic kit "EX MODEL" (Coating color Version)
modeled by Masayuki Okada

■BELONGING:Earth Federation Force ■MODEL NAME:ALBION ■OVERALL LENGTH 305.0m ■OVERALL HEIGHT:82.2 ■OVERALL W 210.0m ■TOTAL WEIGHT:489,000t

コーティングカラーで EXモデルをレビュー!

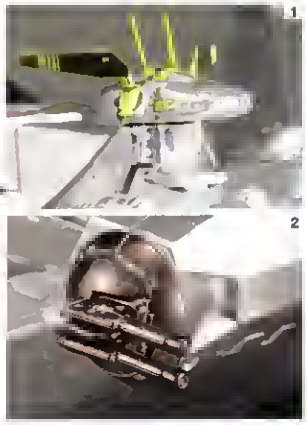
『機動戦士ガンダム0083』に登場する戦艦で、唯一EXモデルとしてプラキット化されているのが、この「アルビオン」だ。ここではカラーメッキで表面をコーティングした特別仕様「コーティングカラーバージョン」を掲載する。

モビルシップ アルビオン
バンダイ1/1700スケール
プラスチックキット
"EXモデル"
製作:岡田雅之



1.ブリッジのある艦橋はアンテナ部が別パーツ化されており、「コーティングカラーバージョン」ではメタリックイエローでメッキ加工されている。
2.2連装メガ粒子砲は差し替えで再現できる。





DENGEKI HOBBY MAGAZINE
SPECIAL BOOK
機動戦士ガンダム ファントム・ブレット

MOBILE SUIT GUNDAM PHANTOM BULLETS

フォトストーリー&モデル作例集



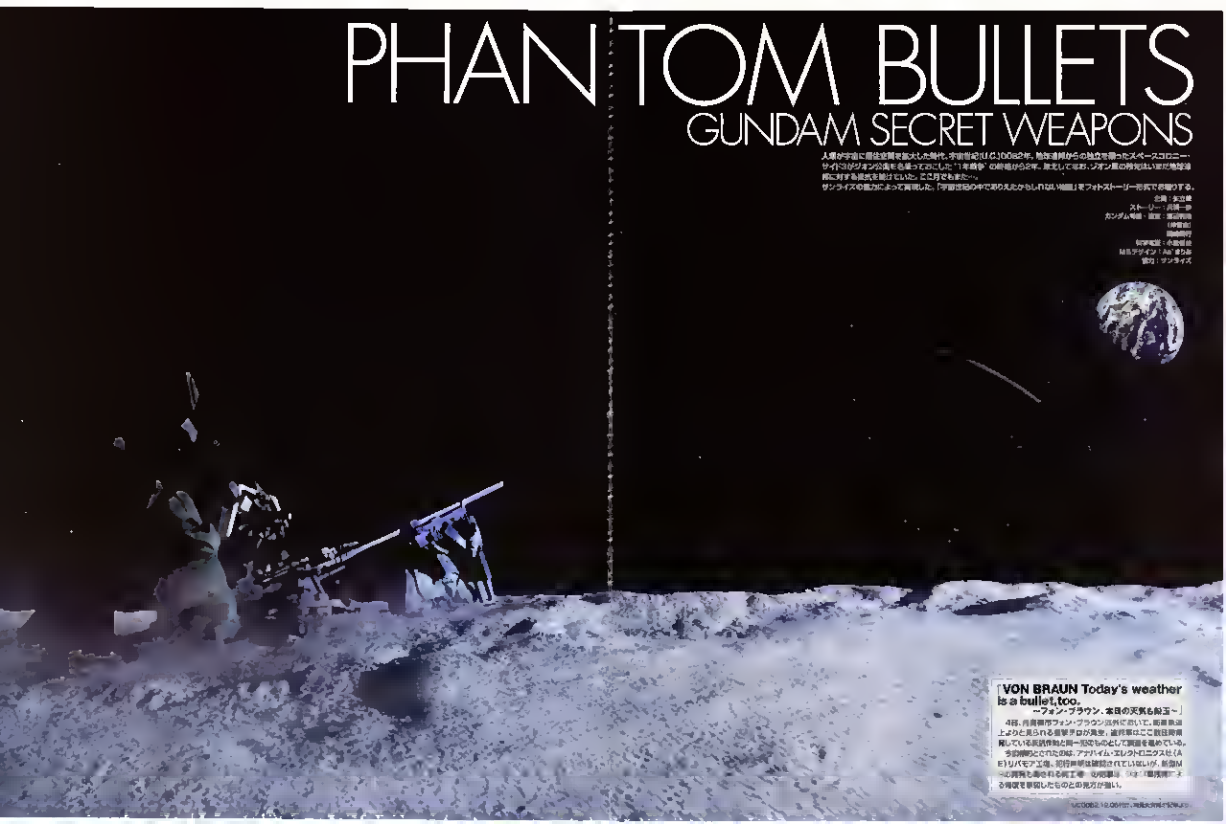
PHANTOM BULLETS

GUNDAM SECRET WEAPONS

人類が宇宙に居住空間を拡大した時代、宇宙世紀(U.C.)0082年。地球連邦からの独立を掲げたスペースコロニー・サイド3がジオン公国を名乗っておこした「一年戦争」の終結から2年。尚もしぶとく生き、ジオン軍の残党は人口が集中する地球連邦に対する報復を企てていた。ここ月でもまた…。

サンライズの協力によって実現した、『宇宙世紀の中でありえたかもしれない物語』をフォトストーリー形式で体験する。

企画・全体構成
ストーリー・台詞一部
ガンダム考証・設定　高山晶彦
(神宮寺)
撮影助手
特撮監督
特撮協力　小倉信也
MSデザイン「Ark」更加
協力：サンライズ



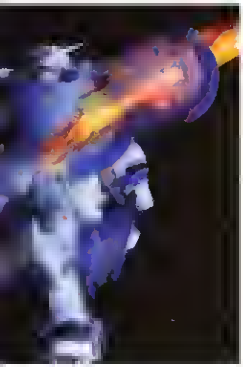
VON BRAUN Today's weather is a bullet,too.
～フォン・ブラウン、本日の天気も弾丸～

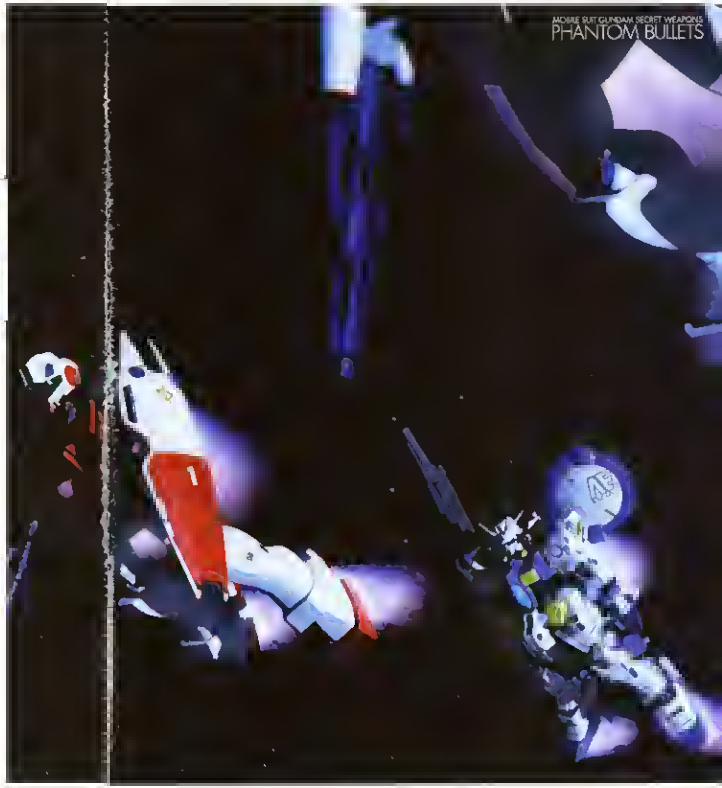
4月4、月面都市フォン・ブラウン市外において、配備前演習上よりと見られる重撃ヲロが発生。連邦軍はここ数日頻発している武装作動と同一犯人たちの仕業と見ている。

今回調査にあたったのは、アナハイム・エレクトロニクス社(AE)リバモア工場。犯行声明は確認されていないが、新型MSと両名とある「月面用」の可能性も。(文:「月面用」とある理由を承知したものとの光が強い。



PHANTOM BULLETS







月面一七に、先の大戦で轟沈したと思われるムサイ級巡洋艦の残骸が横たわっている。

そこに現れるようにして巨大な物体が投影されていた。画面には、MSらしき機。カスタマイズされたガンダムF2型とザクII F2型、それにゲルググJ型がそれぞれ一機ずつ。月映画で本日最初となる砲撃を終え、3機は次なる砲撃の準備に取り掛かっていた。連日続く過酷な作業であるので、各MSの動きには疲労感が感じられる。

「攻略に強行軍といった人工衛星の仕組みを、君たちは理解できないか？この訓練的な意義は、科学がたとう悪いた口マンティズムだよ…」

「そんなことより、標的の設置は、教授！…」

「フランソワ一曹長は私の言葉に疑問がおありかな？」

「そういうわけではないが…」

「ああ、なんと素晴らしい。月重力でなかなかも大がかりな実験対象は過去に例がない。頭の固いフランソワ一フランソワの研究者連中も、歴史的試みの目標となったことを喜ぶべきだな」

「…まったく」

「我々は結局相手を間違えたようです、フランソワー曹長。連邦の増長に鉄槌を下すという今回の目的は、断じてロマンティズムなどではない」

「言うな、タク軍曹。教授がいなければ、我々はこのザメル砲を命中させることさえ叶わなかったのだ。いや、MSに測距機を持たせその座標解析など、そもそも思いつきもしなかった」

「しかし機密漏洩で空気を読まれたような人物に切り札を委ねてしまうのは、どうも…。支援相手のおそ子たちにあわせる顔がありません」

「実際に物資を調達してきた軍曹の立場からがあるが、結果は出しているのだ。なんとでもいいわけはできる」

「ひゃはははは、どうした？ 2人とも？ 次弾の装てんは終わらんのかね？」

「…ですが、行動を共にするようになって半年経つというのに、教授のあの性格は、正直閉口します」

「正直なではいるが、あれも去の一つだ。…周囲たちの眠る戦場に身を隠し、仇討ちを願う我々とて、誰から見れば同じようなものかも知れない…」

「芸もん、完了しました」

「了解した、教授。次の目標は…」

「うっひゃあ!?」

「なんだ!?」

「攻撃、だと？」

「面上十一、メガ粒子砲の直撃を受けて崩落するムサイの残骸が見えた。

ジャックの眼下に、メガ粒子砲の直撃を受けて崩落するムサイの残骸が見えた。

「ランゴ！」

ロング・ライフルの射撃姿勢を解き、ガンダムF型機が月面に向かって降下する。

群絶な機体チェックを行った結果、レドームは巨大な砲撃の直撃を受けて破壊されたことがわかった。月面上から射出された巨大な砲弾エリバモアー型を狙っていたあろうその砲弾を、まさに天文学的確率の偶然でジャックは撃墜していたのだ。

だが、それにより砲弾の射出位置がある程度推定され、ジャックはロング・ライフルによる中距離からの狙撃を試みた。肝心の広域センサーなしの慣性のような射撃は、しかしの的確に敵の隠れ家を射抜いた。

直撃を受けたムサイの残骸の装甲は、思いの外大規模なものとなった。スローモーションのように吹っとんだ動きで巻き上がる粉塵。それが重機のように一直下にいるはずの敵の姿を覆い隠してしまう。

ジャックは、ライフルのエネルギーの充てんが完了するまでの間に、随伴する2機のジム・コマンドとともに6号機をさらに前上させ、敵との距離を詰めた。

一方、フランソワー曹長以下、反抗作戦部隊も着実に進んでいた。

残骸の観測に参加され、致命的なダメージを受けなかったものの、教授の搭乗したザクII F2型が手持ちの測距機を地表に落としてしまい、第2射を放つことが不可能になってしまったのだ。

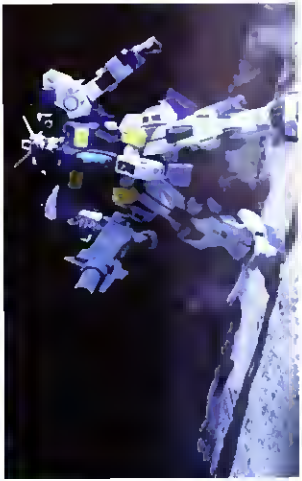
いや、それよりもそれは、命中したメガ粒子砲の出所の方が問題であるはずだった。

しかし。









END

SECRET WEAPONS

シークレットウェポンズ

今回の「ファントム・ブレット」に登場したメカニックのうち、新たに画稿が描き起こされたガンダム試作0号機、ザク測距手用&砲手用、ザメル砲をここに紹介する。本来はGP00最大の特長としてデザインされたコア・ブースターの設定など、ストーリーでは登場しなかったものや立体になっていないものもある。

RX-78GP00 BLOSSOM



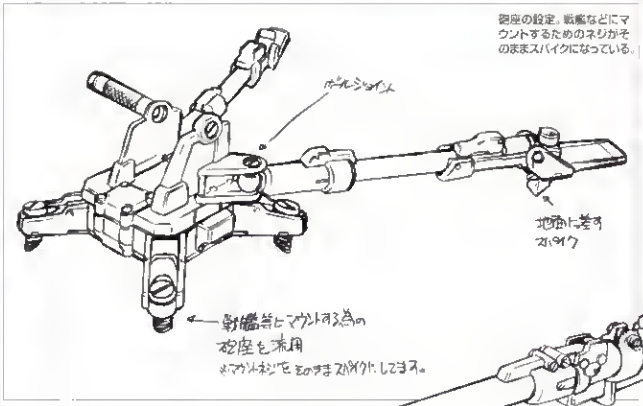
RX-78GP00 ガンダム試作0号機

アナハイム・エレクトロニクス社が「ガンダム開発計画」を進めるにあたり、トライアル機として開発した機体。愛称はブロッサム（花、開花）。RX-78のコア・ブロックシステムを推し進め、コア・ブースターとの合体を可能としたほか、長距離ビーム・ライフルやMPIWS(Minovsky-Particles Interference-Wave Searcher:ミノフスキー粒子干渉波検索装置)など様々な実験的装備が搭載された。しかし、それらの装備を搭載したまま開戦任務に出た0号機は、ザメル艦部隊との戦闘で大破してしまう。かろうじて貴重な実戦データを回収し分析した結果、いたずらに多機能化を求めることはパイロットに負担をかけることになるため、単一機能を追求すべきとの結論に達して1～4号機が設計されることになった。

FF-X(7)Ⅱ-Bst コア・ブースターⅡ

一年戦争時にコア・ファイターの支援戦闘機として運用するために開発された装備であるコア・ブースター。当時はその状態でのMSとのドッキングは不可能だったが、その機動力に着目した技術者が設計した。結果的に、この形態では機体制御が困難なことが判明し、試作0号機に装備されたのみで廃棄となっている。

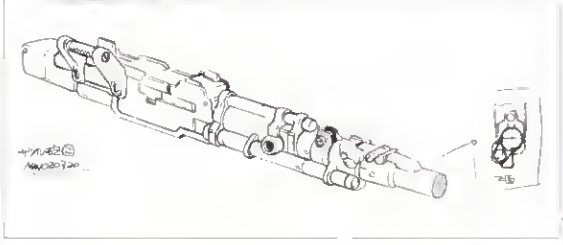
FF-X(7)Ⅱ-Bst
CORE BOOSTERⅡ

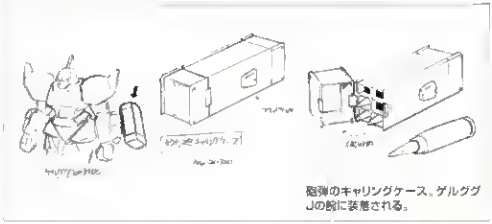


ザメル砲

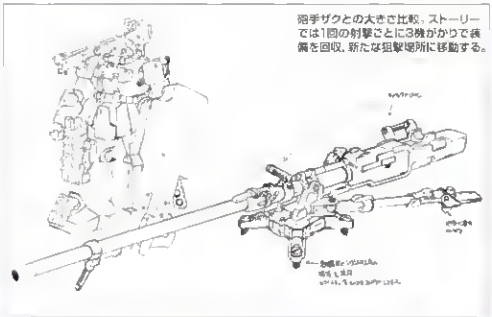
月に潜ちたムサイに搭載されていたザメル用の680mmカノン砲。フランシー伍長らは、終戦直後の潜伏期間中にMSが使用するものとしては最大のこの火砲を見出し、今回の計画を思いつく。後に"救援"が作戦に加わり、狙撃位置の特定が困難な弾道計算の実行と一回の狙撃ごとに移動を繰り返すという作戦を行った。その結果、真然ガンダム試作0号機に発見されるまで彼らの存在に気付く者は現れなかった。

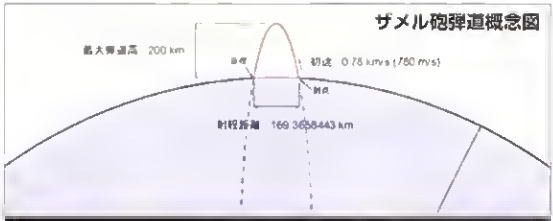
XAMEL CANNON





砲弾のキャリングケース、ゲルググJの脚に装着される。





【検証】
月での射程距離の一例についての一般弾道軌道

※戦艦大和の主砲・45cm砲を月面で撃った場合を参考に想定。

射程距離：169,3658443 km（地球上での4倍強！）
最大弾道高：200km（衛星軌道からの狙撃並！）

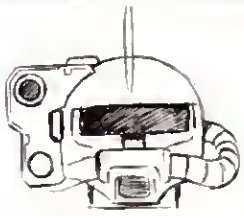
※ちなみに初速がそのままで最大弾道高を42kmに設定すると、射角が30.37°になります。これから算出すると、射程距離は約350 kmという地球では考えられない長射程射撃が可能になります。ただし、これだと非常にキレイな弾道なので、かなりの練度で射点がバレるでしょう。

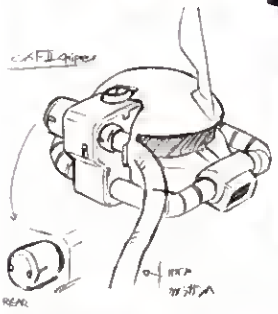
仮に最大射程160km（戦艦大和の主砲と同性能）とすると弾道高が200kmとなる。これは地球での大気圏をはるかに超えた衛星軌道から弾が飛んでくるのと同様である。それを利用して対象目標に軌道上からの狙撃だと誤認させるというのがこの作戦の骨子である。目標が動かない施設であり、自位置が正確にわかっている場合、この種類な山越え曲射は非常に有効となりうる。このとき、有効射程半径はおよそ170kmとなり、月の地平線までの距離が1km前後であることを考慮にいれると、対象目標は上空からの姿なき狙撃者に恐怖することだろう。

MS-06F-2 ZAKUⅡ

MS-06F2 ザクⅡ(測距手用)

170kmもの遠距離精密射撃を行うためには、目標との正確な位置関係を確認し、それを元に弾道計算を行わなければならない。それには高性能の測距機が必要だか、自らの位置を知られるわけにはいかない"ザメル電離"は、衛星通信などを使うことはできない。そのため、周囲の地形から敵と自分の位置を割り出すことになる。ましてやクレーターの底からの射撃となれば、単独でクレーターの端までデータ収集に出向かねばならず、測距手には敵と遭遇する可能性が高い。それゆえこのF2には、部隊で唯一ともいえる強力な火器が装備された。この機体に乗っていたのが"教授"でさえなかったら、事態はもう少し変わっていたのかもしれない…。

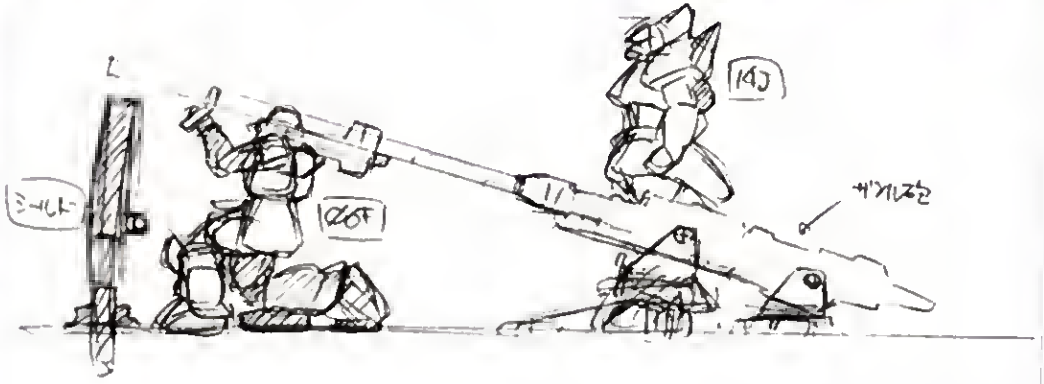






各MSの配置概念図

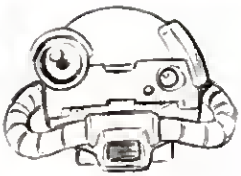
これは射角30°の場合。ストーリー中ではかなり急角度での狙撃を行っている。

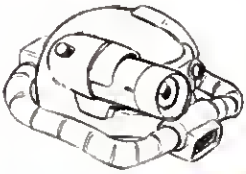


MS-06F ZAKU Ⅱ

MS-06F ザクⅡ(砲手用)

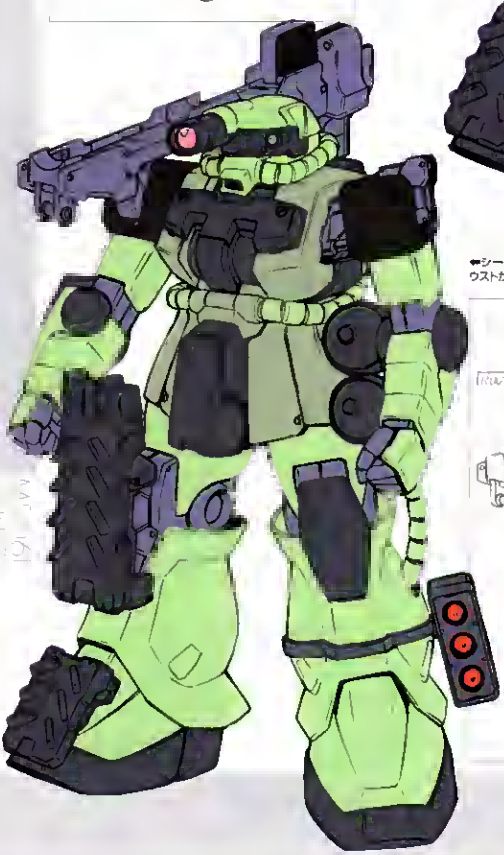
ザメル砲の発射時の衝撃に耐え、強烈なマズルフラッシュなどから機体を守るための装備で身を固めた量産型ザクⅡ。各所に取り付けられた装備の大半は、新造されたものではなく、スクラップ化したMSや戦艦など様々なジャンクから作り上げたもの。機体バランスもザメル砲を支えるためだけに特化されているため、MSでありながら戦闘には不向きなものになっている。

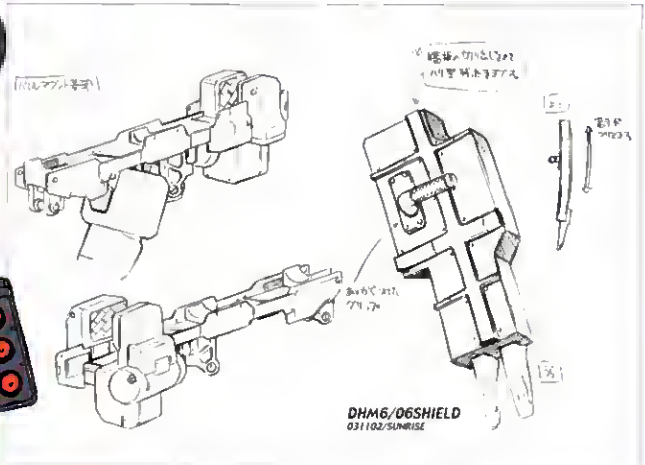






←シールドを外すと裏にシュツルム・ファウストがマウントされているのが確認できる。





RX-78GP00 BLOSSOM

BANDAI 1/100 scale plastic kit
"Master Grade"
RX-78GP01 GUNDAM GP01
modeled by
Ryuji Sorayama

RX-78GP00
ガンダム試作0号機 "ブロッサム"
バンダイ1/100スケールプラスチックキット
"マスターグレード"
RX-78GP01 ガンダム試作1号機改造
製作:空山竜司

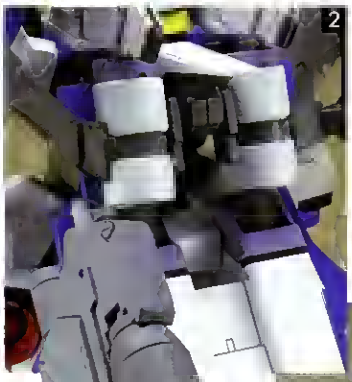


RX-78GP00 BLOSSOM

BANDAI 1/100 scale plastic kit "Master Grade" RX-78GP01 GUNDAM GP01
modeled by Ryuji Sarayama

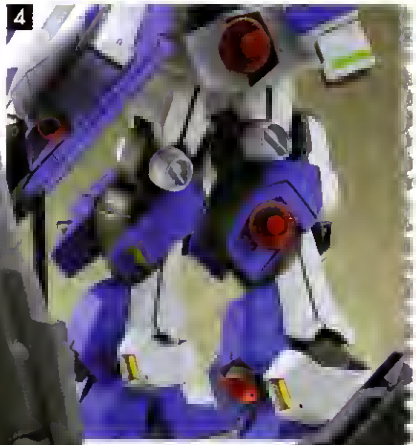
「ガンダム開発計画」開始にあたり、アナハイム・エレクトロニクス社が考えうる限りの要素を導入したという設定でデザインされた機体。その外観には後のGPシリーズにつながる様々な要素が含まれている。この機体を空山竜司が製作した。





■頭部はオーソドックスなRX-78の流れを踏襲したデザイン。両肩にはコア・ファイターのビーム砲とビーム・サーベルへの切り替えが可能な試作型が装備された。両肩にはスラスターノズルが搭載され、機動力の向上がはかられている。
■機体背面に位置するのは武装マウントアームがつながるドラム式フレーム。様々な装備をマウントできる装置として設計されたが、開発の方向性が単一機能の追求に変更された時点で廃案となっている。
■コア・ブースターユニットがそのまま大型スラスターとして機能するという、斬新な設計だったのだが、ビーム・ライフルやMPIWSといった大型装備を搭載したままでの高機動化は姿勢制御に問題が生じたため、設計そのものが見直されることとなった。
■高機動化を求め、脚部にも補助推進器を装備したが、0号機自体の調整難航に費があったことも手伝い、ブースターとのドッキング機能が廃案になったのと同時に、根本的な見直しが図られた。











当時、MSが装備する火器としては最大級のものだった長射程ビーム・ライフル。その威力も強力だったが、エネルギーCAPシステムが確立する以前のものだったこともあり、一斉射した後のエネルギーチャージに長い時間を要する。



←試作0号機の特徴的なシルエットを形作るMPIWS。大型高性能センサーとして高々度から月面にある残骸を補足することができるほどの性能を誇るが、発熱となく不調が生じるなど信頼度は低い。

RX-78GP00 BLOSSOM

BANDAI 1/100 scale plastic kit "Master Grade"
RX-78GP01 GUNDAM GP01
modeled by Ryuji Sorayama

COLORING DATA



濃いグレー
#301グレー
FS38081

薄いグレー
#28黒鉄色



本体色
#1ホワイト+
#80コバルトブルー少量

コックピットハッチ
#65インディーブルー70+
#4イエロー30

武器
#80グレー
バイオレット

胸部タクト
#4イエロー50+
#1ホワイト50

センサー部
#207蛍光グリーン

足首
#80コバルトブルー+
#58モンザレッド少量

RX-78GP00 BLOSSOM

BANDAI 1／100 scale plastic kit "Master Grade" RX-78GP01 GUNDAM GP01
modeled by Ryuji Soiyama

PHANTOM BULLETS

MODELER

そらやま・りゅうじ…キットの小改造よりもスクラッチに情熱を燃やす熱血師調モデラー。
今年度は毎月1体のスクラッチ作品掲載が目標らしい。

このGP00はGPシリーズの要素をすべて持ったMSで、それぞれの特徴を高めて開発されたのが、後に「デラーズ紛争」で活躍したGPシリーズという設定。最初自分が持った印象はオールマイティーなジョーカーといった感じ。デザイン自体もよく考えられていて、作り手としてはなかなか引かれるものがありました。

立体化するにあたってベースに選んだのは「GP01」。とはいっても無改造でそのまま使えそうなパーツはコックピットハッチとモモとスネの一部分くらい。まあそのへんは覚悟を決めて取りかかることに。ちなみに製作期間は20日程度というこれもなかなかのハイパースケジュール（笑）。

■頭部

設定画は初代ガンダムに似ていたのでMGガンダムVer.1.5の頭部を使用し、両サイドのダクトをプラ板やアルテコSSPなどで形状変更しました。アンテナはGP01のそれをそのまま使っています。

■胴体

GP01の胸パーツにセンサーを追加、ダクトはプラ板積層からの削り出し。肩に乗っている羽状のものはプラ板からのスクラッチ。腰身のみビームサーベルから作っています。腰周りはフレームと脱間パーツをVer.1.5から流用し、両サイドのスラスターはスクラッチです。左右対称パーツはシリコンで複製しています。

■腕部

肩はGP01ベースにポリパテで形状変更、ダクト部はプラ板の箱組です。上腕から下の部分はVer.1.5のそれを使い、前腕は細く削り込んでからセンサー部を追加しています。手首はB-CLUBの「ハイディテールマニピュレーター」の甲の部分を削り落とし、GP01の甲パーツを付けています

■脚部

GP01のモモパーツではバランス的に細いと感じたので、フレームはそのままで外装両サイドの面に1ミリプラ板を貼ってボリュームアップ。スネ部分は増加バーニアをスクラッチした以外はキットのままです。足首はつま先を延長し、カカトのパーツはプラ板の箱組です。

■バックパック、武器等

ここも流用パーツはバーニアくらいでプラ板中心のスクラッチ。設定画から読み取れないところはそれっぽくアレンジして作りました

■最後に

時間の都合でコア・フロックの再現ができなかったのがちょっと残念。歴代のコア・ファイターの中でもかなりアグレッシブでカッコイイので、もし今後機会があればもう一回挑戦したいですね。



MS-06F-2 ZAKUⅡ

BANDAI 1/100 scale plastic kit
"Master Grade"
MS-06F-2 ZAKUⅡ
modeled by
Toshio Iwata(TEAM TACO)

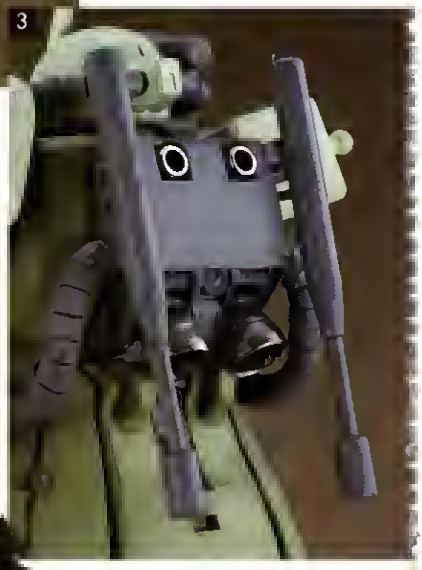


MS-06F-2 ZAKUII
BANDAI 1/100 scale plastic kit "Master Grade" MS-06F-2 ZAKUII
modeled by Toshio Iwata(TEAM TACO)

ザメル砲で長距離精密射撃を行うために、目標の正確な位置を確認するという目的でデザインされた機体。ノーマルF2型ザクⅡとの外見的な違いはほとんどないため、作例も岩田トシオが担当。一部パーツを差し替えて、この機体を再現した。







MS-06F-2
ザクⅡ(測距手用)
バンダイ1/100スケールプラスチックキット
"マスターグレード"
MS-06F2 ザクⅡ改造
製作:岩田トシオ(TEAM TACO)

■頭部は右手に持った鉄床型測距筒が直結されており、測距機を使用している場合、通常のモノアイはその機能を停止する。
■スパイクシールドには一本もスパイクがない。格闘戦を考えていないこの部隊には不必要な装備ではあるが、なんともこころもとない。
■場合によってはクレーターの端まで上らなければならないため、このF2型にのみロケット・ブースターが装備されている。

PHANTOM BULLETS





この部隊で唯一ともいえる強力な火器がこのシールドバルカン。自らの身を守るほか、最後尾で仲間を逃がすための殿軍でもある。塗装はザクと同系色になっている。



↑銃床型測距機。山越えカメラのような有線式カメラで目標を確認するのではなく、まわりの地形の正確な距離と位置を把握し、弾道計算を行うための装置。どうやらMS用携行火器のサイトを強化したものらしい。

MS-06F-2 ZAKUⅡ

BANDAI 1/100 scale plastic kit
"Master Grade"
MS-06F-2 ZAKUⅡ
modeled by
Toshio Iwota[TEAM TACO]

COLORING DATA



いわた・としお…本誌随一の最速モデラー。ガンダムからフィギュアまで様々なキャラクターモデルを高いレベルでこなす。

この特殊装備のF2ザクですが、ザク本体はキットレビューで製作したものを一部パーツを差し替えて使用しています（初出である電撃ホビーマガジン2002年6月号での掲載当時、同号掲載だったため）。

このザク、製作中は、どんな活躍を見せるのか楽しみに作ったのですが、変な教授がパイロットでちょっとがっかり（部隊では唯一戦える機体なのにね）。

■製作

ザク本体でノーマルとの相違点は頭部と左肩。頭部のカメラ基部ブロックはプラ板で製作。肩アーマーはスパイクをカットしてコトブキヤのマイナスモールドを貼り付けています。（コトブキヤのパーツは本当に便利だ！）。

ザクのキット自体はほとんど手を入れていません。キットはアニメ設定とは違ったアプローチでの立体化だが、旧MGのバージョンUPという意味でも素晴らしいキット。武器もたくさんついていて、つい何個も作りたくなってしまう。ストレスなく組み上がってしまうのもうれしいです。

左手のガトリングシールドは、設定画のイメージでヒジのアーマーに穴をあけて取り付けています。可動を考えるとヒジ関節の丸いパーツに取り付けたほうが良いでしょう。

右手のガンカメラは、なるべく楽に作ろうと、いろいろ流用パーツを探したけど、いい物がなく、MGのバズーカなどの円筒状パーツとプラ板で製作。

こういったデザインの物は精度の良し悪しがすぐにバレるのであまり作りたくはない物です。

■塗装

基本的にはノーマルのFIIと同じカラー。一部色の違うパーツは、レビュー用とは別にパーツを用意しています。配色は前ページを参照してください。いつものように各色とも白を加えた色でハイライトを入れています。スミ入れはエナメルのフラットクリーン、ブラッククリーン、ジャーマングレーを使用しています。





MS-06F ZAKUⅡ

BANDAI 1/100 scale
plastic kit "Master Grade"
MS-06F/J ZAKUⅡ
modeled by
Toru Kobayashi

MS-06F ZAKU II
BANDAI 1/100 scale plastic kit "Master Grade" MS-06F/J ZAKU II
modeled by Toru Kobayashi

ただ、ザメル砲を支えるという目的のためだけにデザインされたのかこの砲手ザク。ザメル砲発射時の衝撃に耐えるサイトスコープ月の支柱として、必要と思われる装備を様々なジャンクを利用して組み上げたという機体。これを小林とおるが製作。設定どおりの装備と動きをほぼ完璧に再現している。


1


2

MS-06F
ザクⅡ(砲手用)
バンダイ1/100スケールプラスチックキット
"マスターグレード"
MS-06F／J ザクⅡ改造
製作:小林とおる

1右肩のスパイクシールドはすでに失われており、代わりのパーツすら入手できないのが彼らの現状である。2頭部は通常のモノアイではなく、ザメル砲の照準を合わせるためのカメラが取り付けられている。胸部は一見するとF2型と同型に見えるが、単に装甲板を無理矢理取り付けただけのものである。3・4大型のシールドは戦艦の外装を切り取ったもの。敵からの攻撃ではなくザメル砲のマズルフラッシュを避けるのが主な目的である。




3


4

PHANTOM BULLETS





右肩になザメル砲の砲身を支えるための砲架が取り付けられている。ごこである程度までは角度をつけることも可能だが、微調整はザク自体が姿勢を変えることで行われる。

MS-06F ZAKUII

BANDAI 1/100 scale
plastic kit "Master Grade"
MS-06F/J ZAKUII
modeled by
Toru Kobayashi

⬆ザメル砲発射時の反動に耐えるためのスパイク板は写真のように使用する。

COLORING DATA



肩ブロック
#71ミッドナイトブルー80%
#2ブラック20%

ザメル砲用固定架
各関節部
左肩スパイク
アーマー用
マウント
ミサイルポット
etc 同色
#40
ジャーマングレー

顔部 胸部 脚部
同色
#20
ライトブルー80%
#T35
ロシアングリーン20%

脚体
(薄いグレー)
#56明灰緑色90%
#23ダーク
グリーン10%



胸部装甲 股関
スパイク板 ツマ先
etc 同色
#13ニュートラルグレー10%
#14ネイビーブルー90%)
*☆シールド裏面

シールド表面
#124
暗緑色90%
#66
ディトナ
グリーン
10%

カメラアイ(左)
#50クリアブルー
カメラアイ(右)
#H99蛍光ピンク
※これのみ水性!
左カメラアイ
横のセンサー
ミサイル先端 同色
#68モンザレッド

MS-06F ZAKUII

BANDAI 1/100 scale plastic kit "Master Grade" MS-06F-1 ZAKUII
modeled by Toru Kobayashi

PHANTOM BULLETS

こばやし・とおる…ホビーマガジンきってのベテランモデラー。
丁寧なキットレビューに定評がある。

この狙撃作戦のためだけにジオンの残党が。一年戦争で使用されていたザクを独自に改修した機体です。胸の増加装甲の形状からF2型ザクIIだと勘違いしそうですが、よく見るとベースはF型ザクなので、形状にはマスターグレードのF1型ザクIIのままにして、各種装備を取り付けました。特撮用に可動が必要とのことだったので。その再現も行っています。

■頭部

基本的にはキットのままです。望遠スコープも兼ねた頭部カメラは可動バイザーではなく。このザクの固定装備。もっとも特徴的な望遠カメラは、ハセガワの1/48スケール「エアクラフトウエポン」シリーズから燃料タンクを改造して取り付けました。レンズ部分はウェーブの「Hアイズ」です。

■砲架

このザクの最大のポイント。基本的にプラ板工作です。ザメル砲の砲身の径を聞いておき。それがしっかり載るように設計します。前後のデザイン画から判断すると後部に砲がはまらないので、万力のようにスライドするものとして解釈。砲身を固定するためのギミックを独自に追加してあります。

砲架の可動部は最初のラフ設定にあわせたため、物語にあったような急角度にはできませんが。とにかく、佐藤さんのザメル砲とうまく組み合わせることができたようなので安心しました。

■スパイク板

砲撃の反動に耐えるための装備だそうです。パーツ自体はプラ板で作ったものですが、立てヒザにしたときにうまく水平にするために、かなり調整を行っています。

■シールド

ムサイの外装を切断したもので。設定画で指示されているように、微妙な曲面と裏側のフレームも再現してあります。すべてプラ板工作。裏側のクリップは、捨てずに保存してあるランナーの4ミリ径のものを使いました。

■その他

F2型ザクIIを思わせる胸の増加装甲はプラ板中心で製作したものです。

左肩のスパイクアーマー固定用フレーム(?)も設定画にあわせてプラ板で製作。可動機構などは不明なので再現していません。

前腕ヒジ関節は、設定画に合わせて凸モールドに変更。コトブキヤの「P-107 丸モールド」の上面をヤスリで平らにならしたものを貼ってあります。このとき、使用する4個のパーツを両面テープで平らな面に固定し、同時に作業すると均一なパーツが比較的簡単に作れます。

フンドシブロックもキットパーツをベースにプラ板を使って設定どおりに延長を行いました。

塗装は設定に合わせたものにしてあります。



XAMEL CANNON(680mm CANNON)

1/100 scale one-off model built by Kazuhiko Sato

ザメル砲

1/100スケールスクラッチビルト

製作:さとうかずひこ



XAMEL CANNON



2



1

1本来はザメル砲のためのものではなく、戦艦に固定するための砲座を流用したという設定。この部分も設定画どおりに再現した。
2バイポッド砲の固定脚は基部のボールジョイントと先端の固定用スパイクがかなり自由に可動する。支柱自体は伸縮が可能。

XAMEL CANNON(680mm CANNON)

1/100 scale one-off model
built by Kazuhika Sato

ある意味で今回の物語の真の主人公とも言えるのがこのザメル砲(680ミリキャノン)。
一年戦争中にMSに搭載された火砲としては最大のものとなるこの砲がなければ、この物語すら成り立たなかったはず。これを1/100スケールでスクラッチ。製作は佐藤加寿彦が行なった。



3 AB まりお氏の画稿を参考にプラ板によってスクラッチされた砲の後部。
4 キャリングハンドルまわりも精密に再現。もちろん、射角の調整も可能。
5 現代戦車では砲身内部にライフリングが施されていないものも多いのだが、見映えを優先してモデルガン用のパーツを使用。

PHANTOM BULLETS

MODE ERS PROFILE

さとう・かずひこ…スケールからキャラクターまで、なんでもモデラー。
近況／自分だけは絶対に大丈夫だと信じていた「老眼」になっていることに気づいてしまった。ショックだなぁ

■きつかった製作期間

最終の設定画手元に届いたのが締切りの1週間前、それから設定のディティールを解釈して図面を引き直し製作開始。「本当に終るのだろうか（まぁそん時は知らねっと…）」そんな思いが絶えず頭をかけ巡った日々でした。

[redacted]製作は建築設計なんかで使う透視図法を逆に行い、設定画（透視図）から平[redacted]と側[redacted]を作図しました。これを元に既成のプラ材（エバーグリーン社製のプラ棒・プラパイプ等）を使った寸法に置き換えた図面を作れば、あとは切って貼って削るの繰り返し。まぁこう書くと簡単だけどね。

今回のスクラッチ製作で使用したのは1&2ミリのプラ板とエバーグリーン社製のプラ棒・プラパイプ…あっ左右の脚のボールジョイントは丸い頭の画鋲でした。違う材質といえば、砲身に使った13ミリ径（内径9ミリ）のアクリルパイプとその中に入れたエアーガン用のシンチュウパイプぐらいで、他キットからのパーツの流用がまったくできずに99.9%がプラ材からの自作です。ゆえに塗装前は真っ白でした。特に意味は無いけど、パテは一切使っていません。ただ全体に大味な感じになりそうだったので、アクセントとして砲口にライフリングを見せようと思い、エアーガン用のものを物色したらバッチシなのを発見。なんとそれは、モデルガンフリークにとっては神格的ブランドの「六研」製ではないですか。でも高いんだよね。しかし完成後にキラリと金色に光る砲口、シャープなライフリング…目立たないけどかっこいいです。

■塗装

アクリルの砲身には、塗料がのりやすいようにペーパーをかけておき（ヘアライン風に）、下塗りにタミヤのサフェイサーを軽くかけています。

基本色はGSIクレオス「Mr.カラー」（116）RLM66ブラックグレイで、黒系のエナメル塗料でウォッシングの後、タミヤ「ペイントマーカー」のクロームシルバーを筆に取り、ドライブラシしました。時間の関係でマーキングをオミットしたのは残念！

MS-14JG GELGOOG J

BANDAI 1/100 scale
plastic kit "Master Grade"
MS-14A GELGOOG
& B-CLUB
1/100 scale resin kit
MS-14JG GELGOOG J
conversion kit
madeled by Y2

MS-14JG
ゲルググJ（イェーガー）

バンダイ 1/100スケールプラスチックキット
"マスターグレード"
MS-14A 量産型ゲルググ &
Bクラブ 1/100スケールレジンキット
ゲルググJ改造パーツ
製作:Y2

本来は遠距離射撃用に設計された機体。その射撃性能に着目し、フランシー・ベルドー伍長がザメル砲の砲手としてレストアを行ったもの。"教授"の乗る測距手ザクF2からのデータからザメル砲の角度等を決定する。搭乗者はダグ軍曹。



MS-14JG GELGOOG J

BANDAI 1/100 scale plastic kit "Master Grade" MS-14A GELGOOG
& B-CLUB 1/100 scale resin kit MS-14JG GELGOOG J conversion kit
modeled by Y2

ストーリー部ではザメル砲のガンナーとして使用されていたゲルググJ（イェーガー）。
この機体をMG量産型ゲルググとB-CLUBのレジンキット「ゲルググJ改造パーツ」を組み合わせて製作。
他の機体とあわせて量産カラーで仕上げてみた。製作はY2が行っている。

MODELERS PROFILE

わいつー…絞め切り無期限の作例があればなと強く思う今日この頃。

さて今回のお題はゲルググJ（イェーガー）です。どこぞの言葉で「狩人」と言う意味らしいですが確かに狩人らしいフォルムだなと一人納得しておりました。作例は最近Bクラブから発売になった改造パーツを使っています。ゲルググJは1/144でしかキット化されていなかっただけに、改造パーツとはいえ1/100スケールで手に入るのはファンには嬉しい限りです。

■製作

プロポーションは全身ちょこちょこと改修してあるのですが、今回は塗装前の段階で送ってる時間がなかったので申し訳ありませんがキットと比べてください。バランス的には設定画のややスマートなスタイルとゲルググ・マリーネの無骨な感じの中間をイメージしています。コックピットハッチは好みでコトブキヤの丸モールドに置き換え。マニピュレーターはイメージ的に大きいグーが欲しかったのでB-CLUB「ハイディテールマニピュレーター」のサザビー用を使用しています。注意点としては、改造パーツといっても見えている部分すべてがレジン製なのでかなり重いことです。νガンダムのフレームのように堅ければいいのですがMGゲルググのフレームを使用しているのでそのままだとかなり厳しいものがあります。プロペラントタンクは中空なのですがそれでも重く、つけるとヒザがかっくしいってしまいます。作例では時間がなかったので一部関節は固定にしてあります。

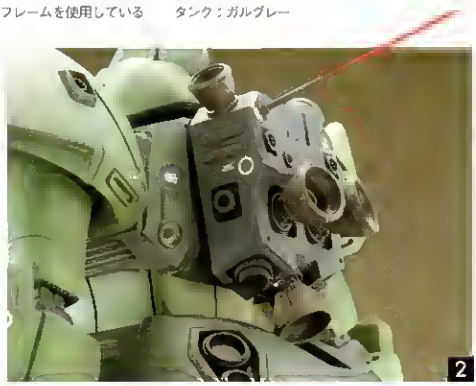
■塗装

改造パーツそのものがよく考えられて分割されているのでマスキングを必要とする箇所はほとんどありません（足とコクピットハッチくらい）。ガレージキットのマスキングが苦手という人も大丈夫だと思います。さて塗装ですが、本来ゲルググJはあずき色なんですが、今回の発注は緑色でした。最初は量産型ゲルググのグレーと緑の配色で塗ろうかとも思いましたが、それではあまり新鮮味がないのでゲルググJの配色をそのまま緑色に反転させました。アクセントとしてライフルやバックパックのアンテナ、プロペラントタンクの一部に赤や黄色を配してみました。単色カラーのMSに一味加えるのには効果的かと思います。基本色はベタ塗りにならないように色を重ねていっています。仕上げはGSIクレオスの「スーパークリアー」のつや消しです。

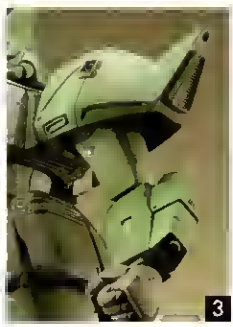
濃い緑：暗緑色＋黒＋etc
薄い緑：薄松葉色＋暗緑色＋etc
関節：ブラックグレー
タンク：ガルグレー











1量産型に比べ遠距離射撃用にセンサー類が強化された頭部。この作戦では射撃時には頭部カメラを使用せず、測距手ザクF2からのデータから射角等を分析する。
2JG型は基本装備としてプロペラントタンク2基を装備するが、大戦から2年が経過していることもあってゲリラ的な戦いには充分な燃料が得られない。そのため、どうの首にタンク自体が廃棄されている。
3胸の機関砲もすでに弾切れ状態。膝裏の扉にはザメル砲の弾倉を固定する。
4本来は高い機動力を持つMS-14系の機体だが、最低限の燃料しか手に入らないため、脚部は最低限の歩行と月面でジャンプ移動を行う程度にしか役に立たない。

PHANTOM



DENGEKI HOBBY MAGAZINE SPECIAL BOOK



MOBILE SUIT GUNDAM PHANTOM BULLETS

機動戦士ガンダム ファントム・ブレット

機動戦士ガンダム0083

STARDUST MEMORY

メカニック設定資料集

ここからは「機動戦士ガンダム0083
STARDUST MEMORY」に登場した
地球連邦軍、デラーズ・フリートのモビルスーツおよび、
各種メカニック設定資料を掲載!

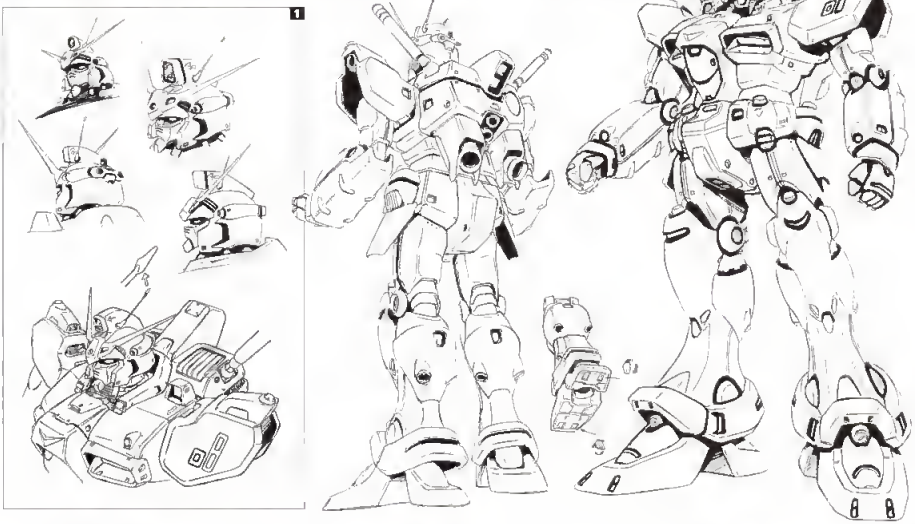


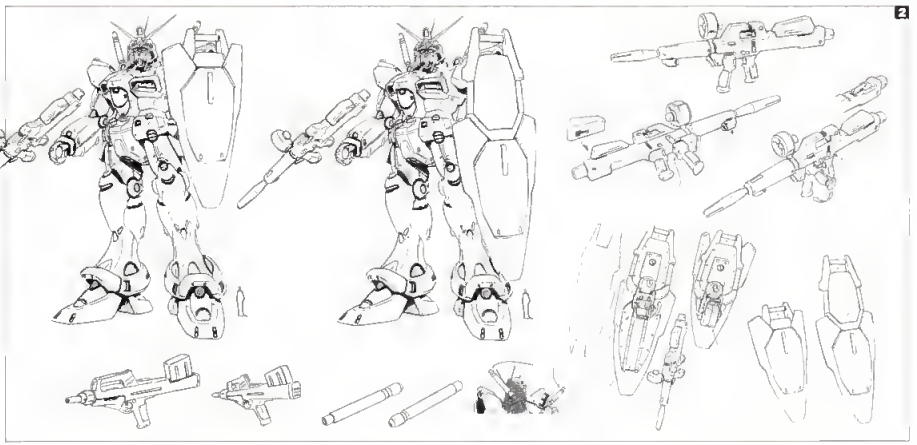
RX-78GP01
GUNDAM GP01 (ZEPHYRANTHES)

全高：18.0m
本体重量：39.7t
全備重量　65.0t
ジェネレーター出力：1,790kw
スラスター推力：42,000kg×4 / 12,000kg×4
武装：60ミリバルカン砲 / ビーム・ライフル
　　ビーム・サーベル / シールド
パイロット：コウ・ウラキ

ガンダム試作1号機（ゼフィランサス）

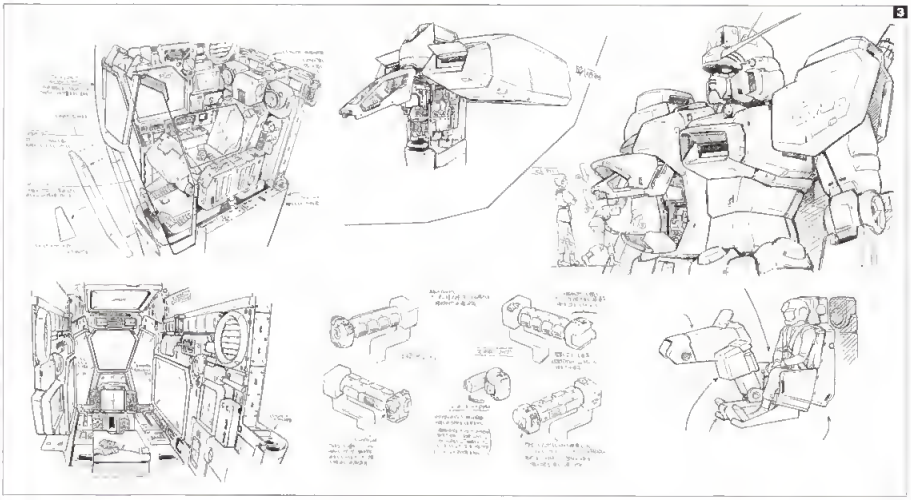
連邦軍再建計画の一環であるガンダム開発計画の下にアナハイム・エレクトロニクス社が開発した試作MS。「RX-78-2」の後継機として、地上と宇宙の戦闘領域で高性能を発揮するというコンセプトで作られ、運用試験のため重力下仕様の姿で地上に降ろされていた。



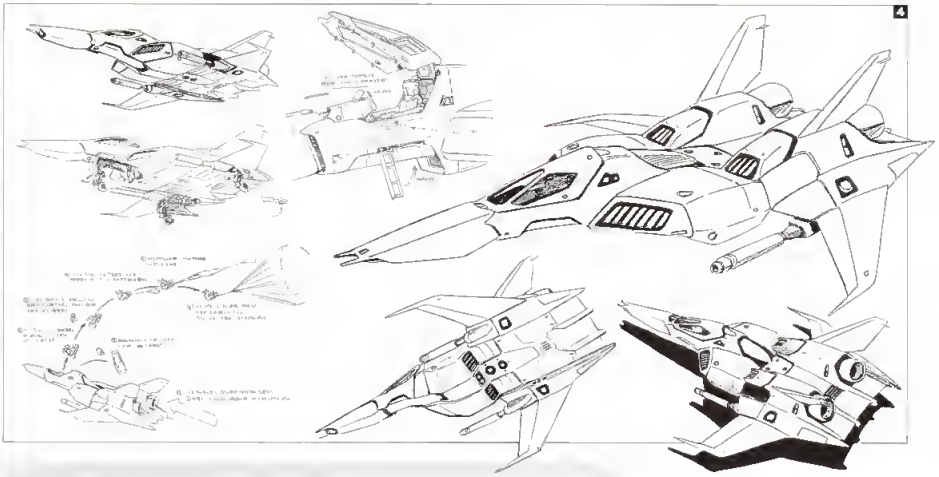


1.頭部
カメラアイやアンテナ、バルカン砲などRX-78-2の仕様を踏襲しつつ、センサーの強化など各部がアップデートされている。
2.武装
基本装備はビーム・ライフルやビーム・サーベル、シールドを用意。シールドは伸縮機能を持つ。ジム改の90ミリマシンガンも使用した。

3



4

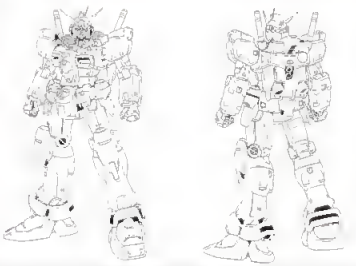


MASTER GRADE

RX-78GP01 GUNDAM GP01 (ZEPHYRANTHES)

ガンダム試作1号機（ゼフィランサス）

マスターグレードキット化に合わせ、商品開発用にカトキハジメ氏により描かれたGP01。河森正治氏の手によるアニメーション設定から、関節可動やコア・ブロック収納などのギミックを盛り込んだ際のバランスやディテールを調整したりファインが行われている。



3.コクピット
RX-78-2同様にコア・ブロック・システムを採用している。シート位置はMS運用時にスライドする仕組み。
4.コア・ファイターII
GP01用に開発された戦闘機。ビーム・サーヘルを転用してのビームガンが主武装となる。

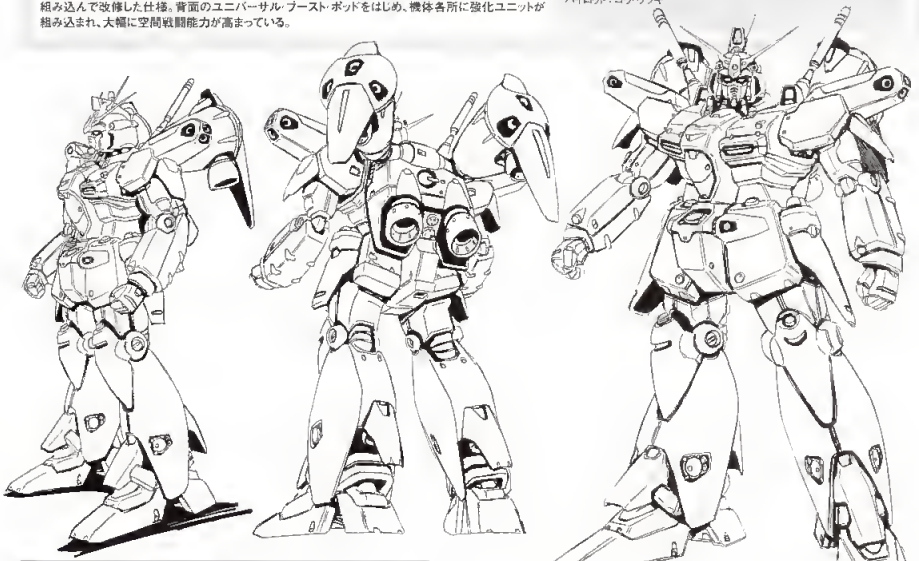
RX-78GP01Fb

GUNDAM GP01Fb

ガンダム試作1号機 フルバーニアン

シーマ部隊と交戦して大破した試作1号機に、宇宙での運用を想定して開発された専用オプションを組み込んで改修した仕様。背面のユニバーサル・ブースト・ポッドをはじめ、機体各所に強化ユニットが組み込まれ、大幅に空間戦闘能力が高まっている。

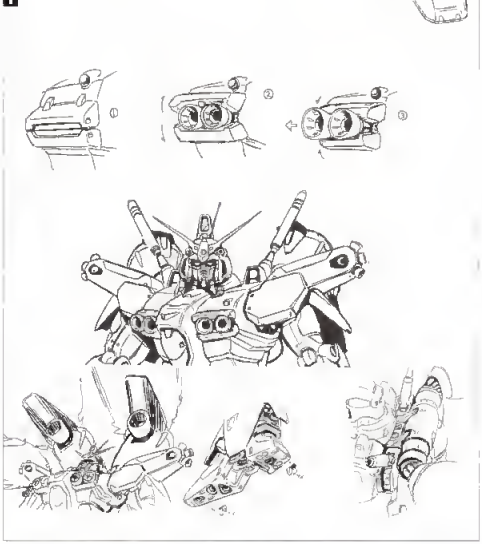
全高：18.5m
本体重量：43.2t
全備重量：74.0t
ジェネレーター出力：2,045kw
スラスター推力：42,000kg×4 / 13,500kg×4
武装：60ミリバルカン砲 / ビーム・ライフル
　　ビーム・サーベル / シールド
パイロット：コウ・ウラキ



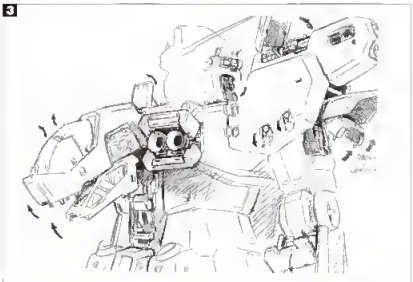
2

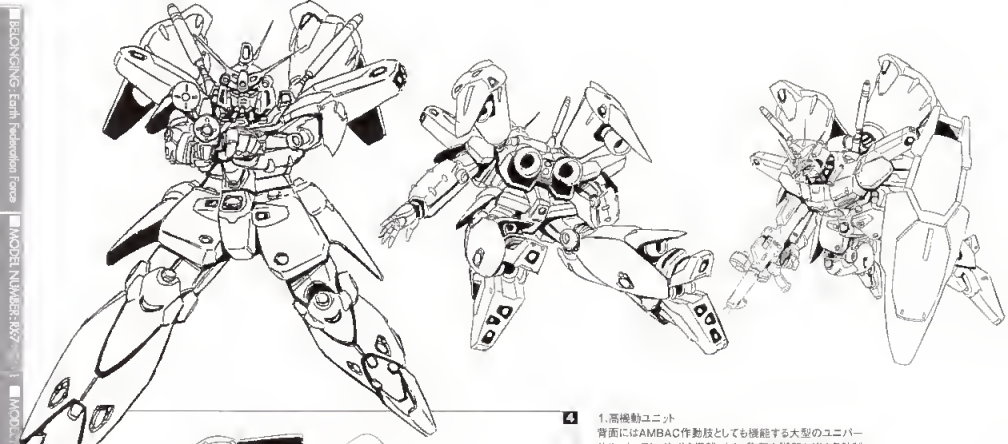


1



3







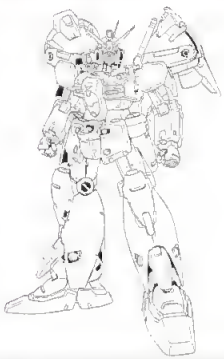
1.高機動ユニット
背面にはAMBAC作動肢としても機能する大型のユニバーサル・ブースト・ポッドを搭載。また、胸部や脚部などに姿勢制御用や推進用のスラスターを多数備える。
2.胴体ジョイント
コア・ブロックは下半身側のロックピンでしっかりと固定される構造になっている。上半身と下半身は緊急時には脱座に分離させることも可能。
3.メンテナンス・ハッチ
各部には細かくハッチが設けられており、整備の利便性が高められている。
4.コア・ファイターII（宇宙仕様）
フルバーニアン形態時のメインスラスターとなるユニバーサル・ブースト・ポッドを搭載しており、推力が格段に高まっている。

MASTER GRADE

RX-78GP01Fb GUNDAM GP01Fb

ガンダム試作1号機 フルバーニアン

GP-01のマスターグレード化に際し、フルバーニアンへの対応も想定して開発用画稿がカトキハジメ氏により描かれている。

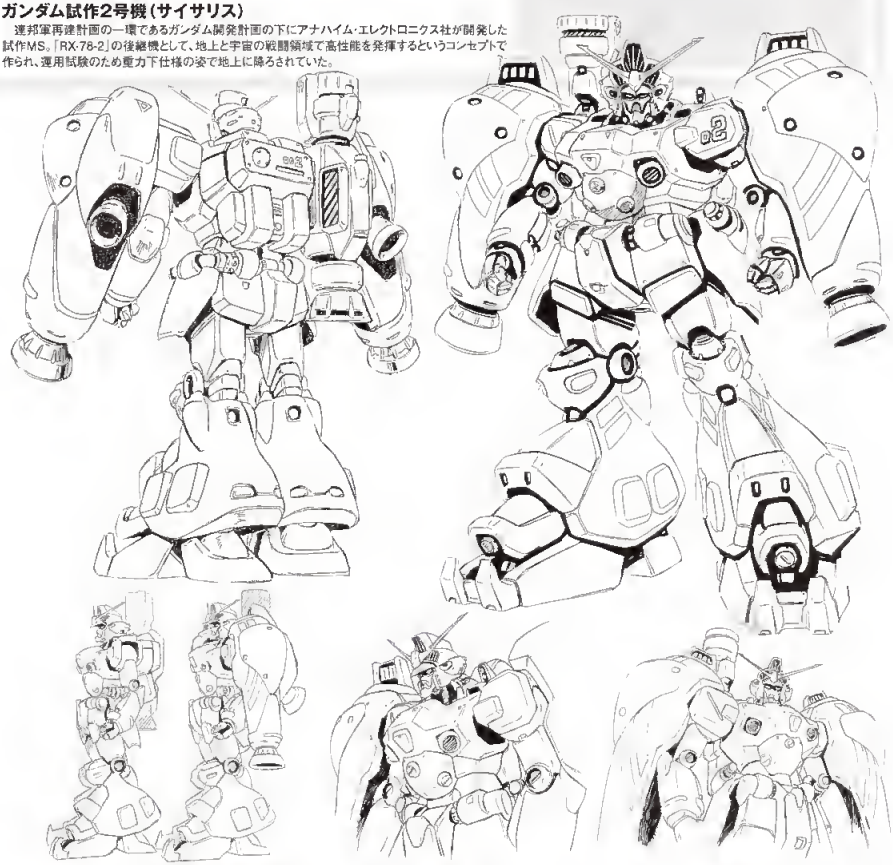


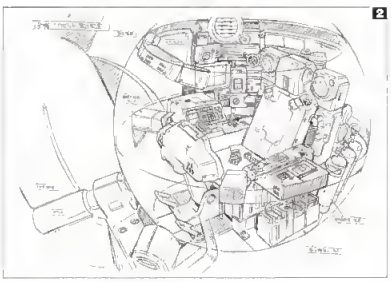
RX-78GP02
GUNDAM GP02
(PHYSALIS)

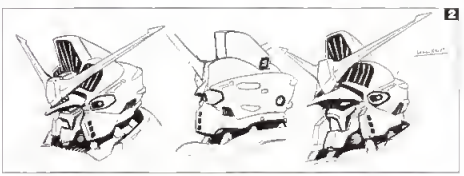
全高：18.5m
本体重量　54.5t
全備重量　83.0t
ジェネレーター出力：1,860kw
スラスター推力：32,000×4 / 6,800kg×4
武装：60ミリバルカン砲 / アトミック・バズーカ / ビーム・サーベル / シールド
パイロット：アナベル・ガトー

ガンダム試作2号機（サイサリス）

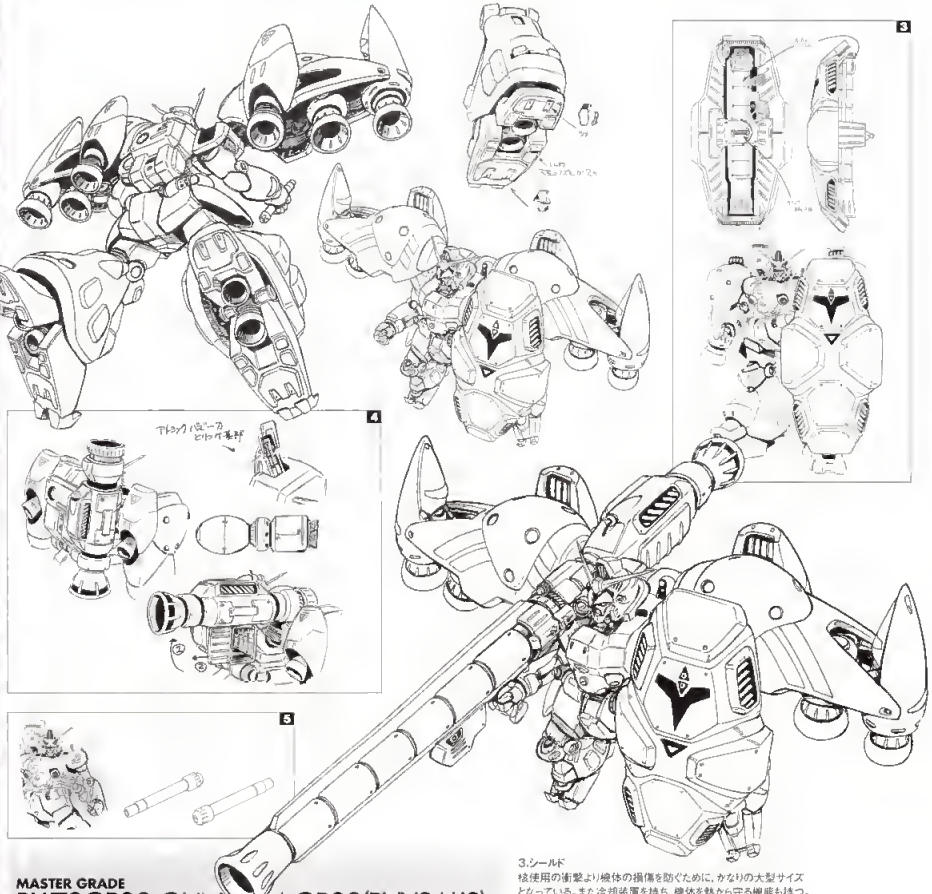
連邦軍再建計画の一環であるガンダム開発計画の下にアナハイム・エレクトロニクス社が開発した試作MS。「RX-78-2」の後継機として、地上と宇宙の戦闘領域で高性能を発揮するというコンセプトで作られ、運用試験のため重力下仕様の姿で地上に降ろされていた。







1.頭部
"ガンダム"の雰囲気は残しつつも独特の意匠を持つ形状。固定武装として60ミリバルカン砲を備えている。
2.コクピット
核使用時の耐熱や衝撃波、放射線の影響から搭乗者を守るため、堅牢な構造を持つコクピット。ブロックは外圧に強い球体の形状となっている。



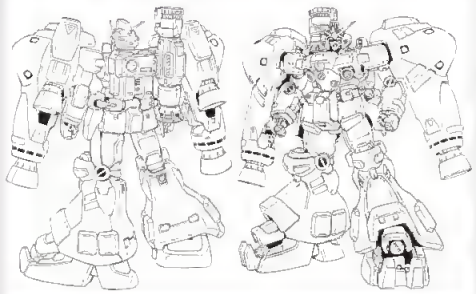
3.シールド
核使用の衝撃より機体の損傷を防ぐために、かなりの大型サイズとなっている。また冷却装置を持ち、機体を熱から守る機能も持つ。裏側にはアトミック・バズーカ非使用時にバレルを格納する。
4.バックパック
背面のユニット内にはMk-82核弾頭を搭載。これをアトミック・バズーカ内に給弾し、射出する。
5.ビーム・サーベル
腰部に収納されている格闘専用装備。
6.アトミック・バズーカ
本機の最大の特徴である核装備。背面に背負う本体とシールドにマウントされたバレルを繋いで使用する。

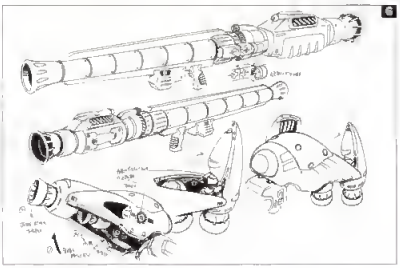
MASTER GRADE

RX-78GP02 GUNDAM GP02(PHYSALIS)

ガンダム試作2号機(サイサリス)

マスターグレード開発用にカトキハジメ氏が描いたGP02A。肩のバインダー部をはじめ、各部のスタイリングやディテールに、アニメーション設定から立体化に合わせた調整がなされている。



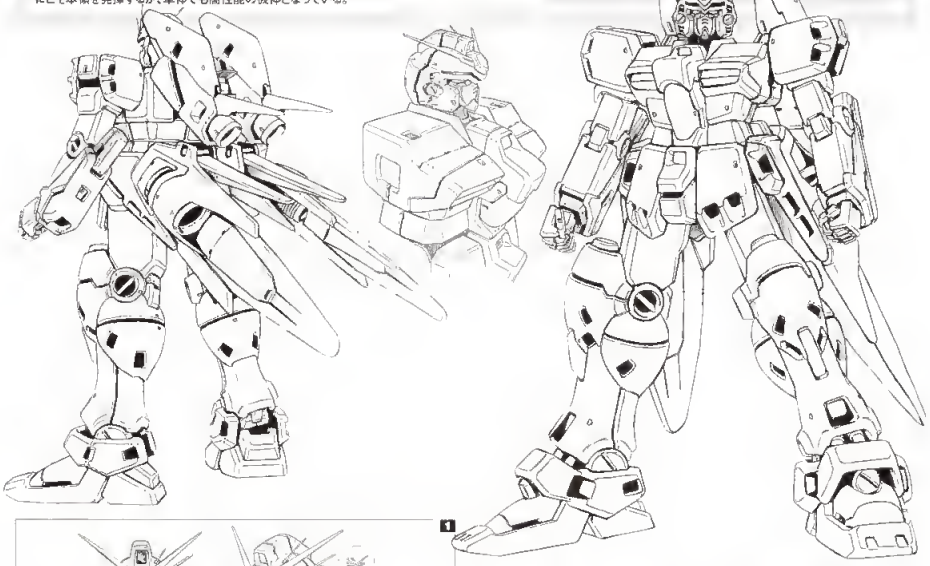


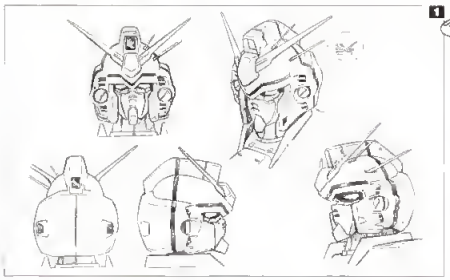
RX-78 GP03S
GUNDAM GP03S (STAMEN)

全高：18.0m
本体重量：41.6t
全備重量：70.0t
ジェネレーター出力：2,000kw
スラスター推力：40,000kg×2 / 42,000kg×2 / 12,000kg×2
武装：ビーム・ライフル / ビーム・サーベル / フォールディング・バズーカ
　　フォールディング・シールド
パイロット：コウ・ウラキ

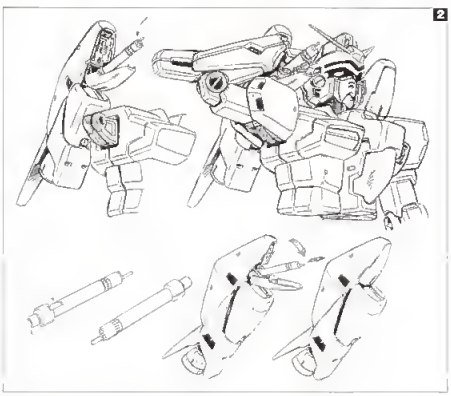
ガンダム試作3号機（ステイメン）

MSの汎用性とMAの機動性の高さを併せ持つというコンセプトで開発されたガンダム試作3号機。本機はそのコア・ユニットとなるMSだ。武装はほぼアームド ベース・オーキスに格納されており、合体時にこそ本領を発揮するが、単体でも高性能の機体となっている。

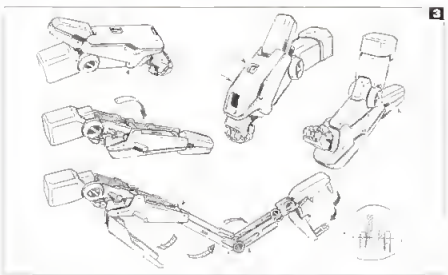




1

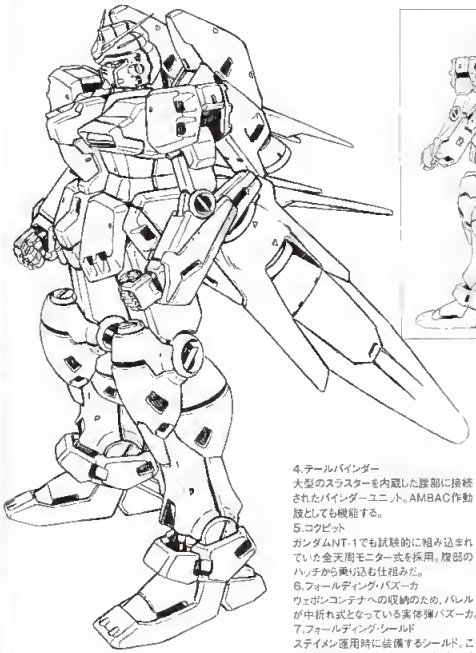


2

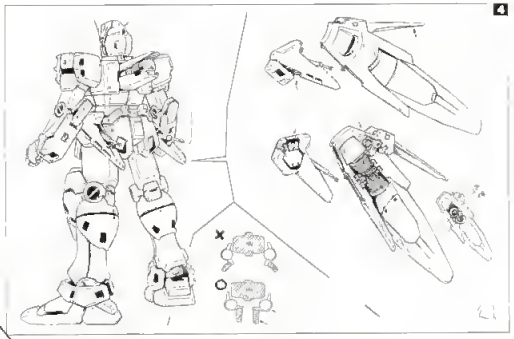


3

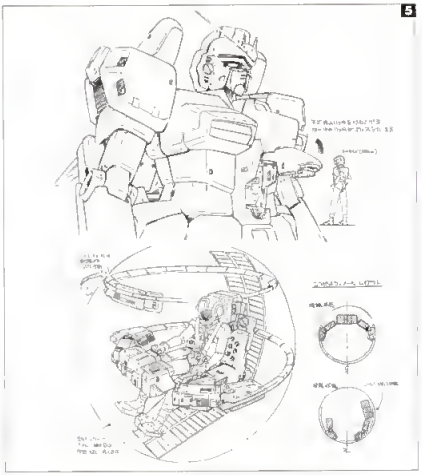
1.頭部
バルカン砲は内蔵せず、左側頭部にはサブアンテナが設けられている。
2.ビーム・サーベル
ステイメンの固定武装。バックパック内に収納されている。
3.フォールディング・アーム
ウェポン・コンテナに格納された武器を取り出す際は、アームをクロー状に展開させる。



4

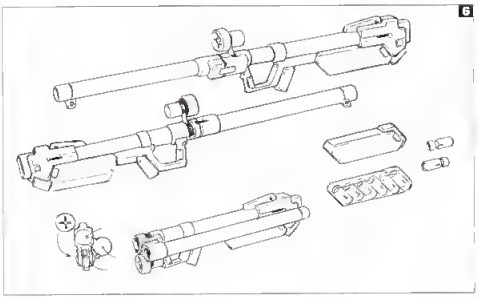


5

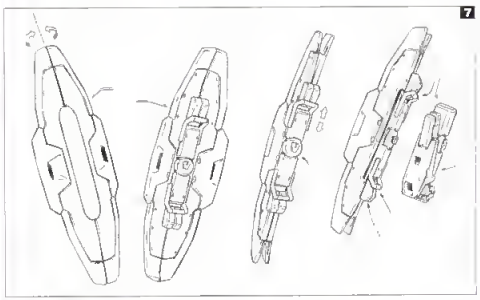


4.テールバインダー
大型のスラスターを内蔵した腰部に接続されたバインダーユニット。AMBAC作動肢としても機能する。
5.コクピット
ガンダムNT-1でも試験的に組み込まれていた全天周モニター式を採用。腹部のハッチから乗り込む仕組みだ。
6.フォールディング・バズーカ
ウェポンコンテナへの収納のため、バレルが中折れ式となっている実体弾バズーカ。
7.フォールディング・シールド
ステイメン運用時に装備するシールド。こちらも収納に合わせてセンター部分で折れる構造。

6



7

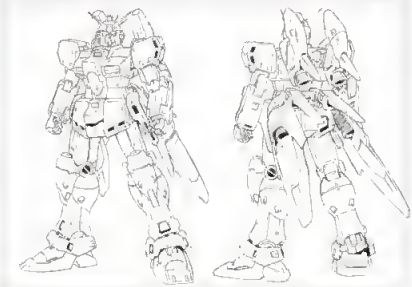


MASTER GRADE

RX-78GP03S GUNDAM GP03S (STAMEN)

ガンダム試作3号機(ステイメン)

マスターグレード開発用にカトキハジメ氏により描かれたもの。MG用にコア・ファイターの新設定も起こされている。



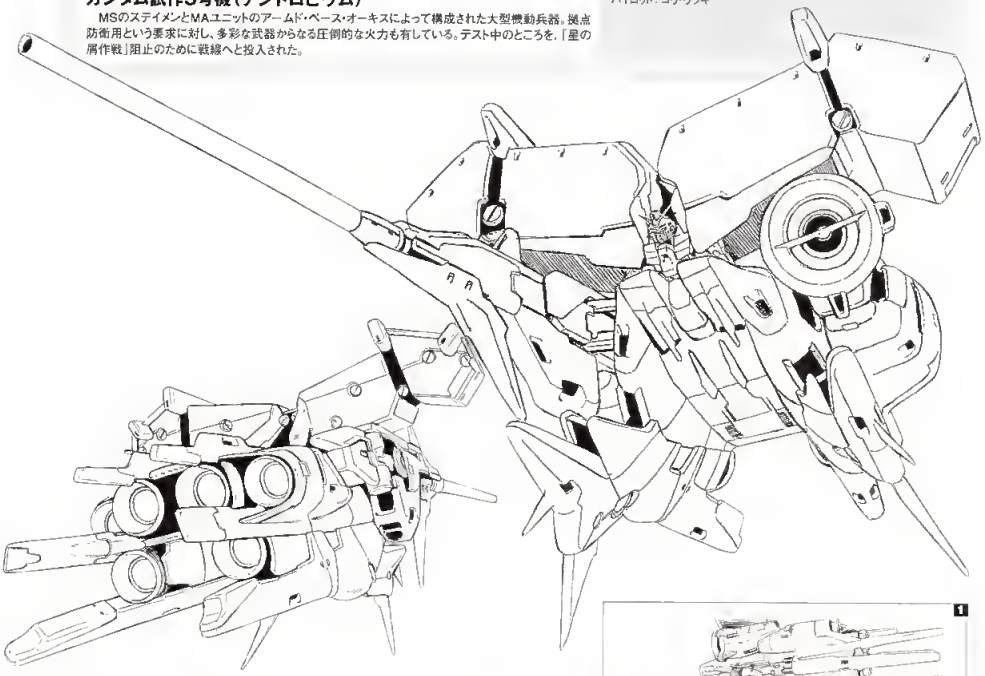
RX-78 GP03

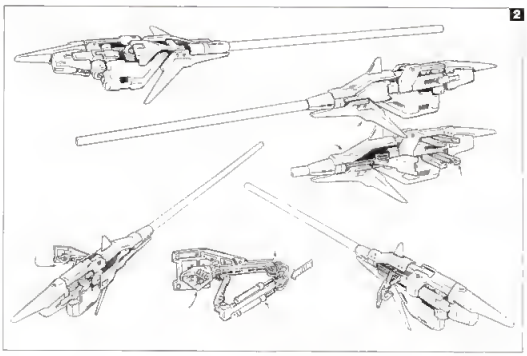
GUNDAM GP03 (DENDROBIUM)

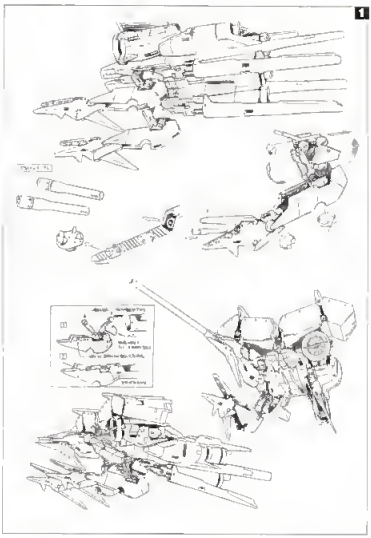
全長：140.0m(砲を含まぬ本体のみ73.0m)
全高：38.5m　全幅：62.0m
本体重量：226.4t
全備重量：453.1t
ジェネレーター出力：38,900kw
スラスター推力：377,500kg×6
武装：メガ・ビーム砲 / 大型ビーム・サーベル / Iフィールド・ジェネレーター
大型集束ミサイル / マイクロ・ミサイル・コンテナ / 爆導索, 他多数
パイロット：コウ・ウラキ

ガンダム試作3号機（デンドロビウム）

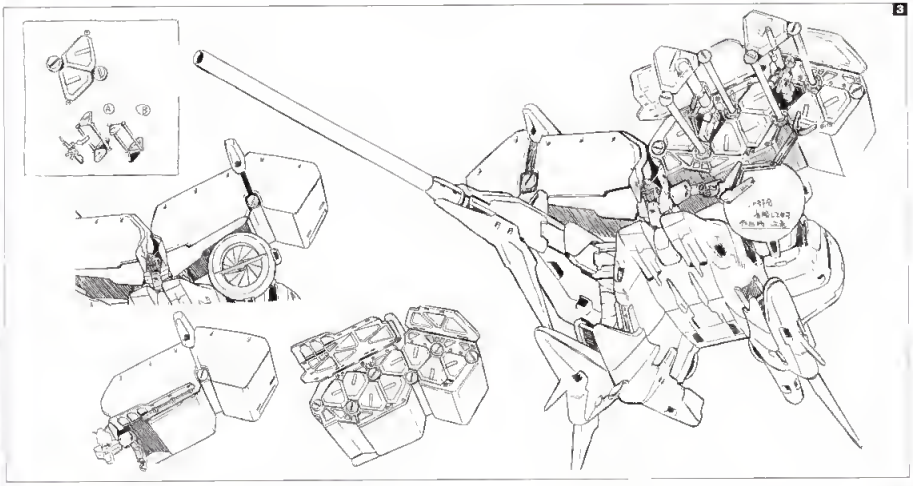
MSのステイメンとMAユニットのアーム・ベース・オーキスによって構成された大型機動兵器。拠点防衛用という要求に対し、多彩な武器からなる圧倒的な火力も有している。テスト中のところを、「星の屑作戦」阻止のために戦線へと投入された。



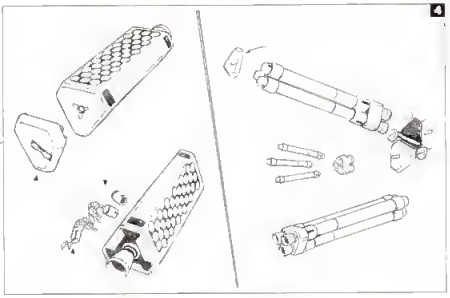




1.クローアーム
機体下部に備える巨大なアーム。超大型のビーム・サーベルが格納されており、これによる斬撃を行うことも可能だ。
2.メガ・ビーム砲
機体右側に装備された90mにも及ぶ主砲。戦艦を一撃で沈めるほど強大な威力を誇る。



3.ウェポンコンテナ
各種ミサイルや、フォールディング・バズーカ、ビーム・ライフル等を収めたスロットなどを内蔵する。
4.ミサイル
近接戦闘用の小型ミサイルや破壊力の高い大型ミサイルなど、各種弾頭がコンテナ内に収納されている。

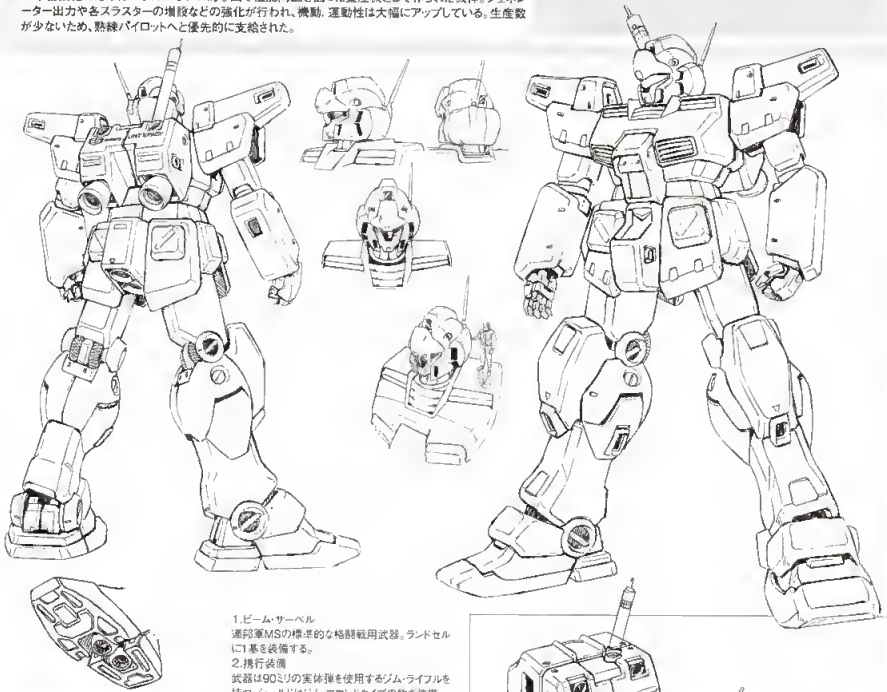


RGM-79N
GM CUSTOM

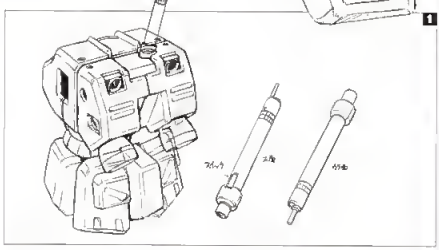
ジム・カスタム

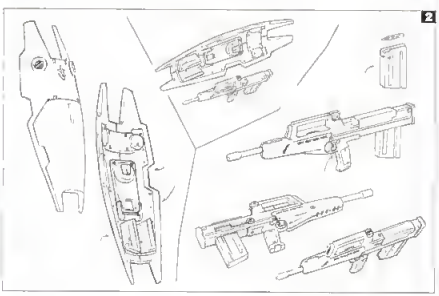
軍備強化のため、トータルバランス的な面で性能向上を図った量産機として作られた機体。ジェネレーター出力や各スラスターの増設などの強化が行われ、機動、運動性は大幅にアップしている。生産数が少ないため、熟練パイロットへと優先的に支給された。

全高：18.0m
本体重量：42.0t
全備重量：57.6t
ジェネレーター出力：1,420kw
スラスター推力：30,000kg×4 / 1,870kg×4
武装：60ミリバルカン砲 / ジム・ライフル / ビーム・サーベル / シールド
パイロット：サウス・バニング / ベルナルド・モンシア 他



1.ビーム・サーベル
連邦軍MSの標準的な格闘戦用武器。ランドセルに1基を装備する。
2.携行装備
武器は90ミリの実体弾を使用するジム・ライフルを持つ。シールドはジム・コマンドタイプの物を装備。





RGM-79Q GM QUEL

ジム・クゥエル

ジム・カスタムをベースに作られた機体で、ティターンズ結成時の主力モビルスーツとして配備されていた。

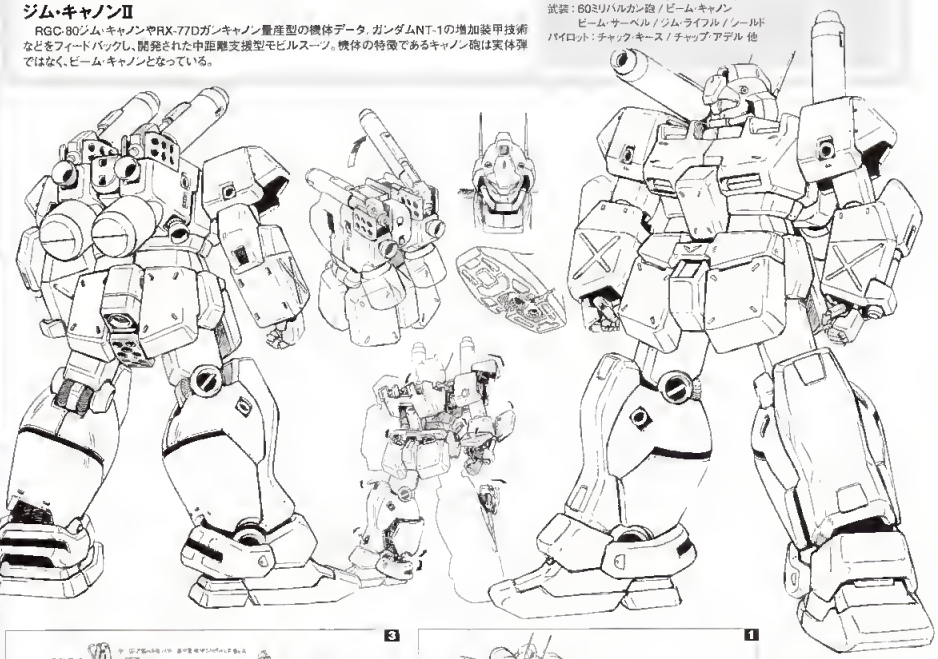


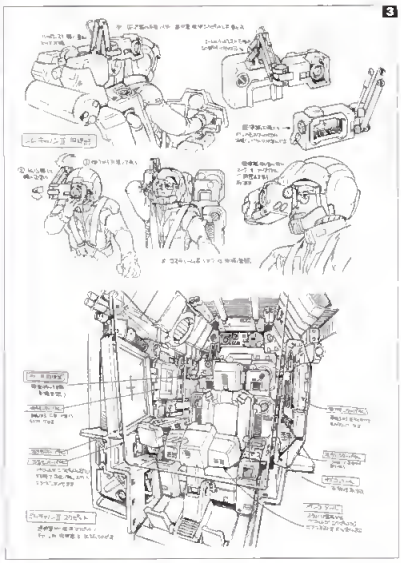
RGC-83
GM CANNON II

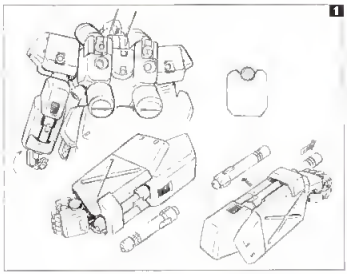
ジム・キャノンII

RGC-80ジム・キャノンやRX-77Dガンキャノン量産型の機体データ、ガンダムNT-1の増加装甲技術などをフィードバックし、開発された中距離支援型モビルスーツ。機体の特徴であるキャノン砲は実体弾ではなく、ビーム・キャノンとなっている。

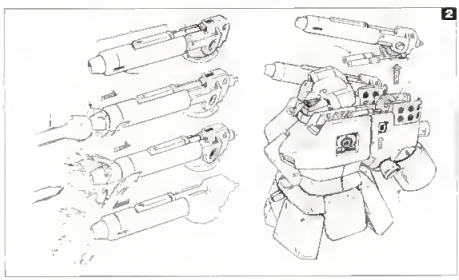
全高：18.0m
本体重量：47.3t
全備重量：66.9t
ジェネレーター出力：1,420kw
スラスター推力：13,000kg×4 / 1,870kg×4
武装：60ミリバルカン砲 / ビーム・キャノン
　　ビーム・サーベル / ジム・ライフル / シールド
パイロット：チャック・キース / チャップ・アデル 他







1.ビーム・サーベル
後方支援タイプの本機だが、格闘戦も想定して左腕にビーム・サーベルを装備する。
2.ビーム・キャノン
ジム・カスタムと同様に高出力のジェネレーターを搭載しているため、キャノンはビームタイプを採用している。
3.コクピット
ジム改やジム・カスタムなど、GMタイプの共通規格を持つ操縦席。専用装備として照準機が取り付けられている。

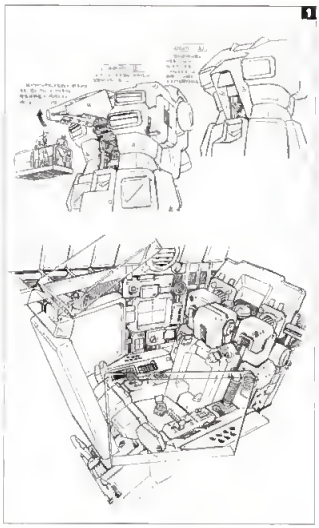


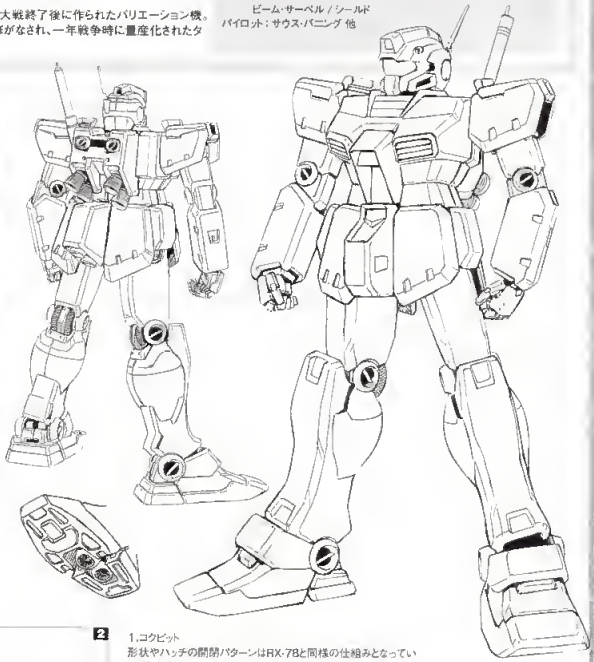
RGM-79C
GM TYPE C

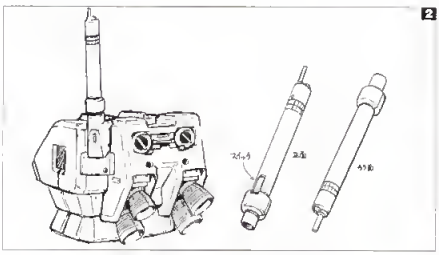
ジム改

一年戦争における後期生産型のGM系列機をベースに、大戦終了後に作られたバリエーション機。ジェネレーターやバックパックの強化および、一部武装の改修がなされ、一年戦争時に量産化されたタイプよりも大幅な性能向上を果たしている。

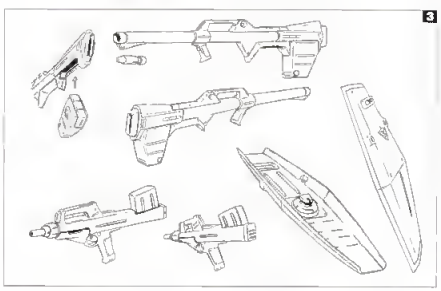
全高：18.0m
本体重量：41.2t
全備重量：58.8t
ジェネレーター出力：1,250kw
スラスター推力：12,500kg×4 / 1,870kg×4
武装：60ミリバルカン砲 / 90ミリマシンガン / 360ミリバズーカ
　ビーム・サーベル / シールド
パイロット：サウス・バニング 他







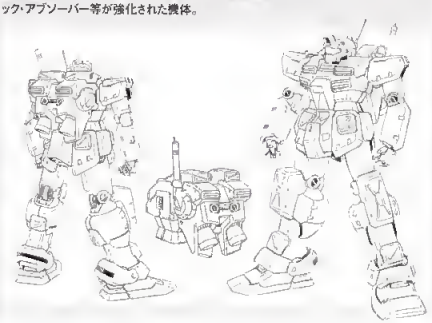
1.コクピット
形状やハッチの開閉パターンはRX-78と同様の仕組みとなっている。操縦系のレイアウトは、他のGM系列機と共通の規格を持つ。
2.ビーム・サーベル
連邦軍MSの標準的な武装。性能はRGM-79 GMの物と比べて向上している。
3.携行装備　武器は90ミリマシンガンやバズーカ等を使用。シールドは連邦軍MS用の標準タイプを備える。



RGM-79 POWERED GM

パワード・ジム

新MS開発（GPシリーズ）用のデータ収集、評価試験用に、GM改をベースに推力やショック・アブソーバー等が強化された機体。

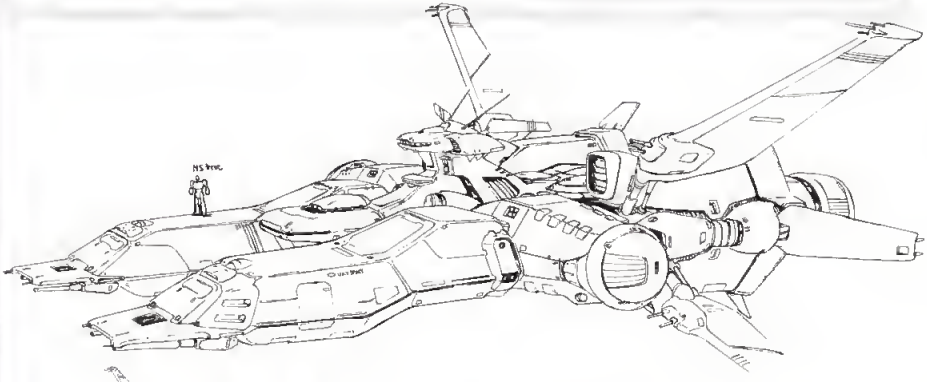


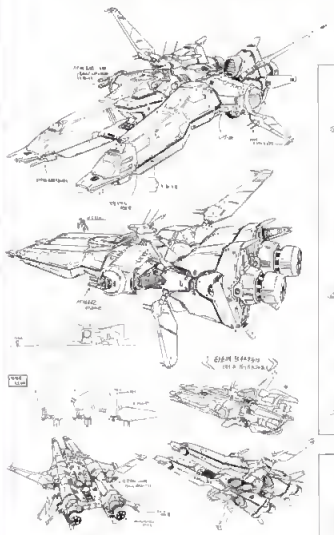
ALBION

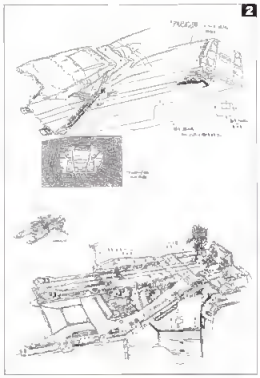
ペガサス級強襲揚陸艦 アルビオン

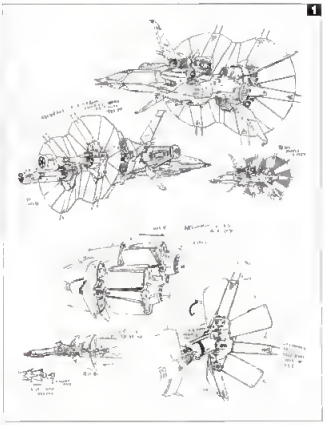
新型ガンダムの開発計画に合わせて、その母艦として建造されたペガサス級強襲揚陸艦。一年戦争時に就航した同級艦であるホワイトベース等と比べ、ほぼ新造といってもいいくらいに設計に改良が加えられており、大幅に性能が向上している。

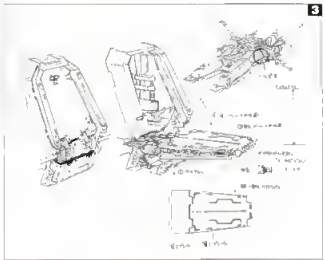
全長：305.0m(放熱翼除く)
全高：82.0m(放熱翼除く)
全幅：210.0m
本体重量：469,000t
主武装：連装メガ粒子主砲 / 連装メガ粒子副砲 / 連装レーザー砲
大型ミサイル発射管

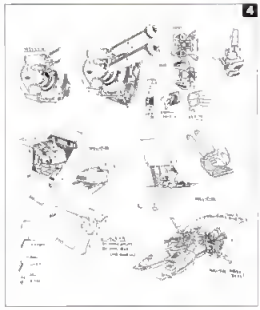












1.レーザー推進システム
受光ミラーを展開させ、発振施設から発せられたレーザーを集光し、推進剤を膨張させて噴出することで、容易に加速することが可能となっている。
2.カタパルト
格納庫とは別スペースに設定され、またMSと艦載機用が各々に用意されており、運用効率が高められている。
3.艦載機ハッチ
MSの艦載に用いられる専用ハッチを両舷に備えている。
4.主武装
出力向上した核融合炉を搭載したことで、高い威力を持つメガ粒子砲を主砲としている。他に対空火砲としてレーザー砲も搭載。

BIRMINGHAM

バーミンガム級主力戦艦 バーミンガム

地球連邦軍の新造戦艦となるバーミンガム級の一番艦として建造された。コンペイ島における観艦式に受閲艦として参加していた。

全長：398.0m
全幅：171.0m
全高：129.0m
本体重量：88,500t
主武装：連装メガ粒子主砲 / メガ粒子副砲 / 連装レーザー砲
12連装ミサイル・ランチャー

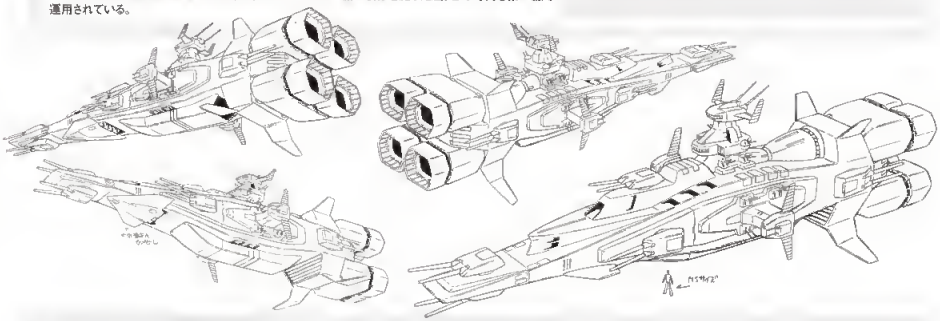


MAGELLAN

マゼラン改級戦艦

一年戦争時に地球連邦軍の主力戦艦であったマゼラン級に改修を施した艦。この時代も第一線で運用されている。

全長：327.0m
全幅：102.0m
全高：96.0m
本体重量：62,900t
主武装：連装メガ粒子主砲 / レーザー砲

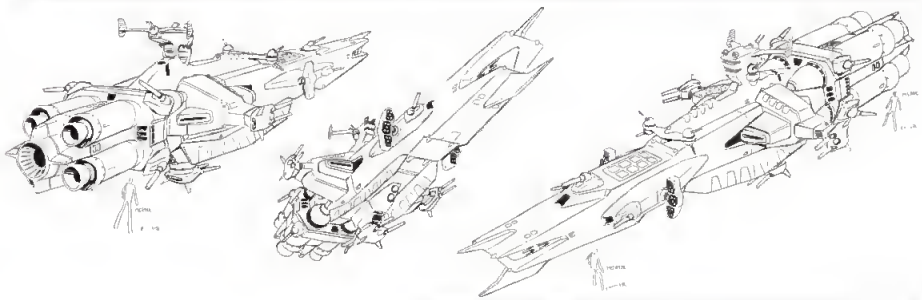


SALAMIS

サラミス改級巡洋艦

地球連邦軍戦力の一翼を担う巡洋艦。一年戦争時に就役していたサラミス級に、武装の強化などの大幅な改修を加えている。

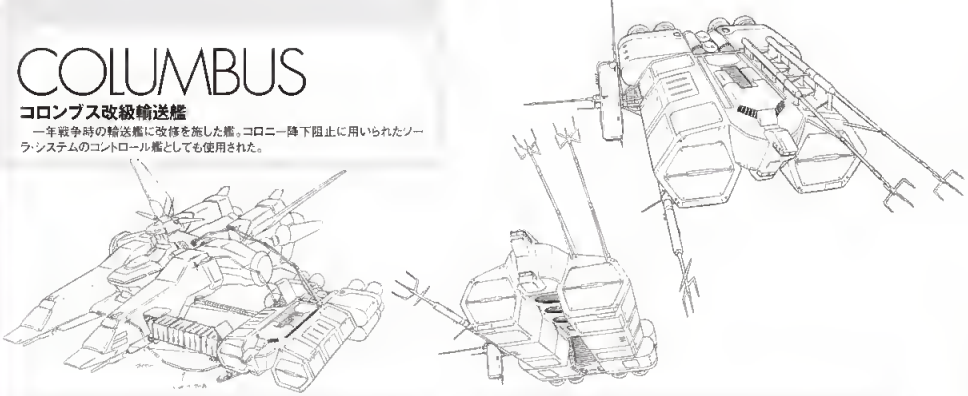
全長：198.0m
全幅：75.0m
全高：58.0m
本体重量：12,100t
主武装：連装メガ粒子主砲 / メガ粒子副砲 / レーザー砲
90ミリ連装機関砲 / 15連装ミサイル・ランチャー



COLUMBUS

コロンブス改級輸送艦

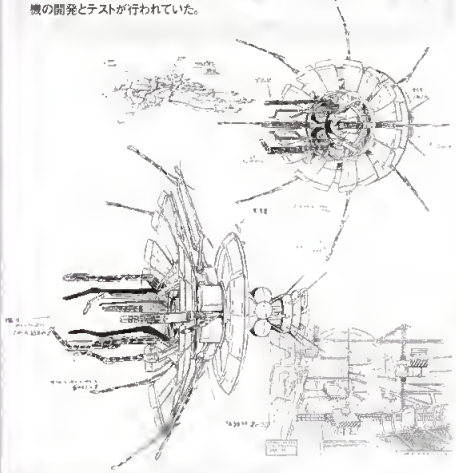
一年戦争時の輸送艦に改修を施した艦。コロニー降下阻止に用いられたソーラ・システムのコントロール艦としても使用された。



LA VIE EN ROSE

宇宙ドッグ艦ラビアンローズ

アナハイム・エレクトロニクス社が所有する超大型のドッグ艦。ガンダム試作3号機の開発とテストが行われていた。



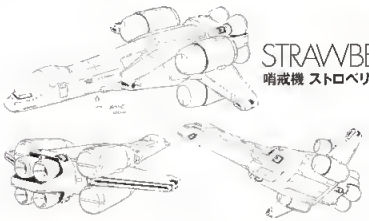
EARTH FEDERATION SPACE FORCE MECHANICS

地球連邦軍メカニック

宇宙にて用いられていた地球連邦軍所属のサブメカ。

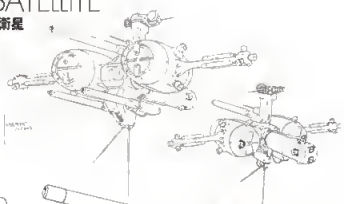
STRAWBERRY 9

哨戒機 ストロベリー9



BATTLE SATELLITE

防空用戦闘人工衛星

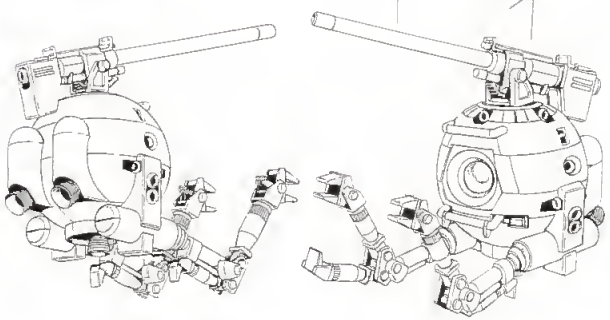


RB-79C BALL

ボール改

RB-79 ボールの派生機で、作業用にサブアームの増設など改修が加えられている。ソーラ・システムの展開作業と警備を行っていた。

全高：12.8m
本体重量：17.2t
全備重量：25.0t
ジェネレーター出力：400kw
スラスター推力：24,000kg
武装：180ミリ低反動キャノン砲

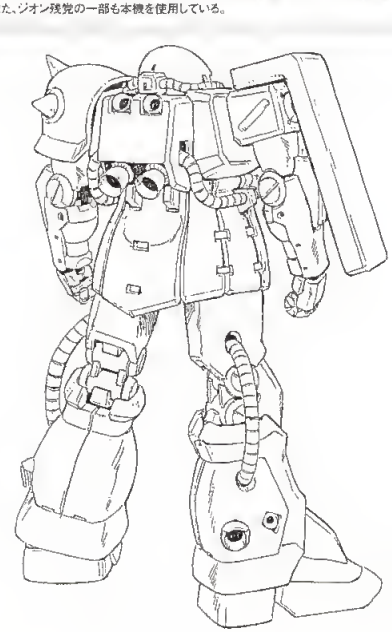


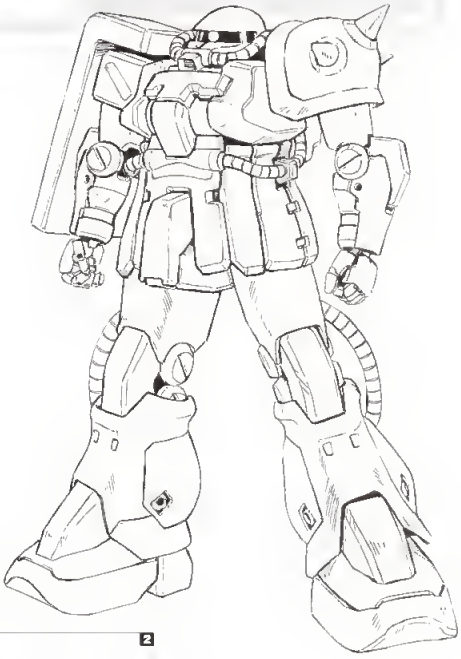
MS-06F-2
ZAKUⅡ (F-2 TYPE)

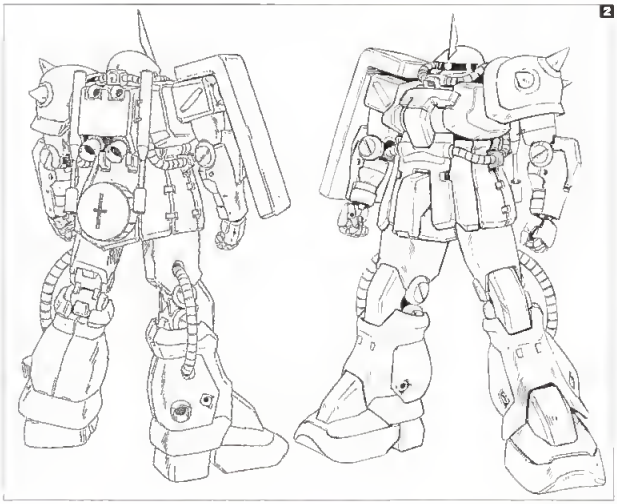
ザクⅡF2型

一年戦争におけるジオンの傑作量産型モビルスーツであるMS-06F ザクⅡの後期生産型で、ジェネレーター出力向上や装甲の強化などが図られている。戦後は連邦軍に接収されて機体検証などに用いられた。また、ジオン残党の一部も本機を使用している。

全高：17.5m
本体重量：49.9t
全備重量：70.3t
ジェネレーター出力：986kw
スラスター推力：20,500kg×2/3,100kg×4
武装：120ミリMMP-78マシンガン / 90ミリMMP-80マシンガン
　　ザク・バズーカ / ヒート・ホーク 他
パイロット：ノイエン・ビッター 他

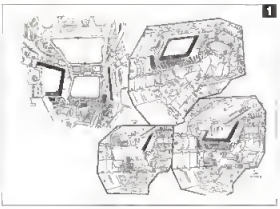






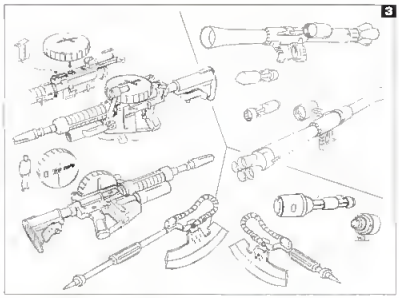
2

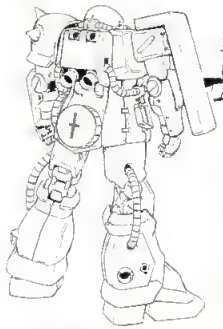
1.コクピット
「統合整備計画」に合わせて見直された公国軍の共通規格レイアウトとなっている。
2.ノイエン・ビッター機
アフリカで抵抗戦を続けるキンバライト基地司令、ノイエン・ビッター少将の機体。頭部にブレードアンテナ、背中にロケットブースターを備える。

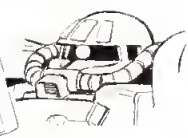


1

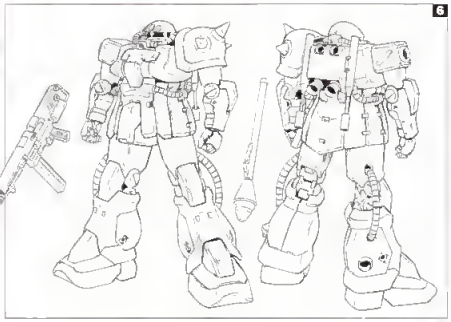


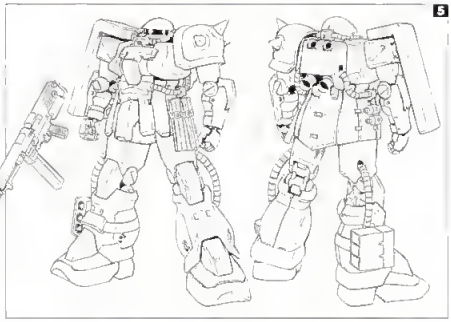


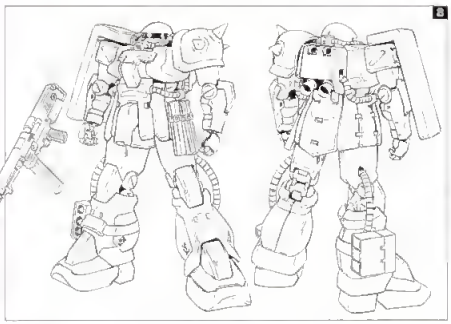


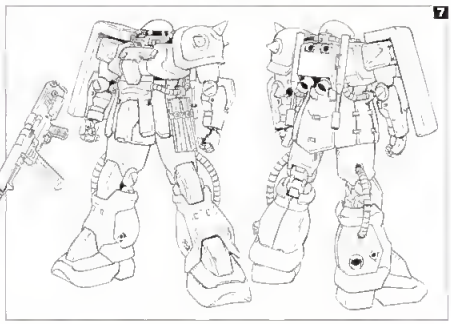


3.携行装備
火器は主にMMP-78マシンガンや、一年戦争後期に作られたMMP-80マシンガンを装備する。他にはザク・バズーカやハンドグレネード、ヒート・ホーク等を使用。
4-8.キンバライド基地所属機
ストックしていた装備などで部分的なカスタマイズを行ったMSで抵抗を続けていた。物資不足から、ペイントや補修がままならない状態の機体もある。







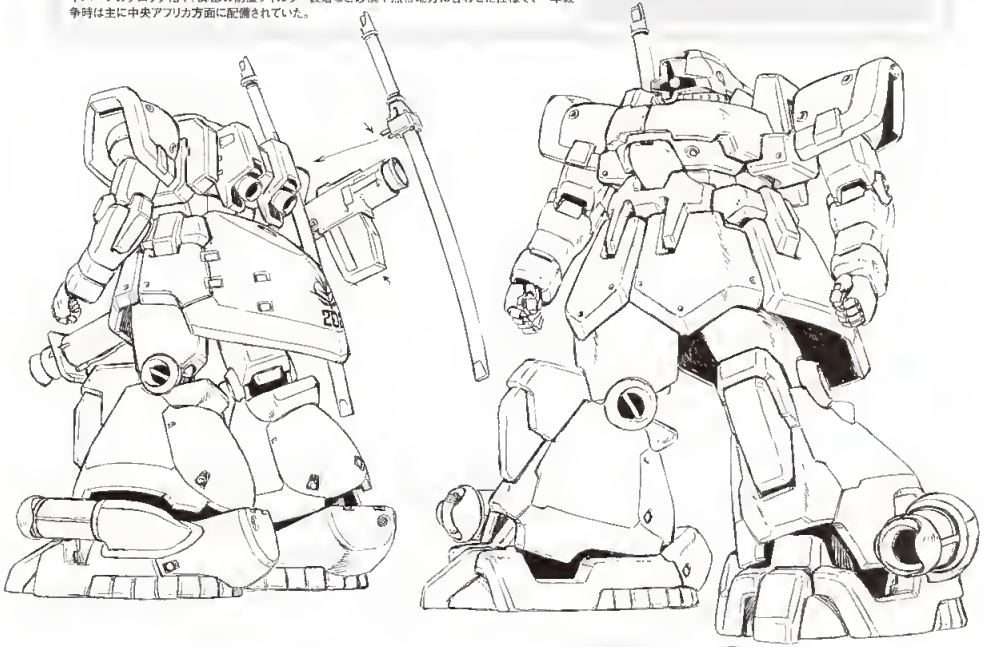


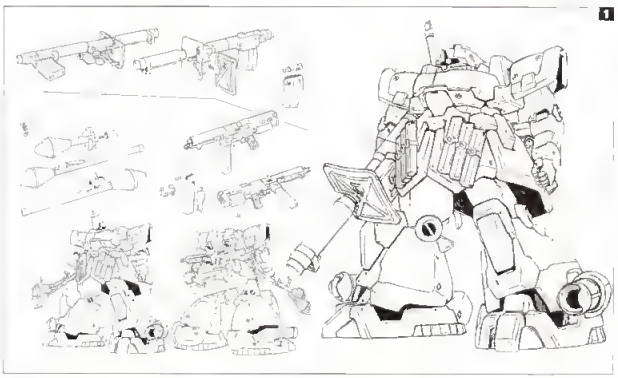
MS-09F/TROP
DOM-TROPEN

ドム・トローペン

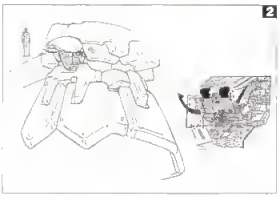
ジオン残党が用いた、MS-09ドムを局地専用に改良したバリエーション機の一種。整備性を高める装甲パーツのブロック化や、脚部の防塵フィルター装着など砂漠や熱帯地方に合わせた仕様で、一年戦争時は主に中央アフリカ方面に配備されていた。

全高：18.5m
本体重量：44.8t
全備重量：79.0t
ジェネレーター出力：1,199kw
スラスター推力：20,500kg×2 / 3,100kg×2
武装：ラケーテンバズ / 90ミリMMP-80マシンガン
　　シュツルム・ファウスト / ヒート・サーベル 他
パイロット：ゲイリー / アダムスキー 他





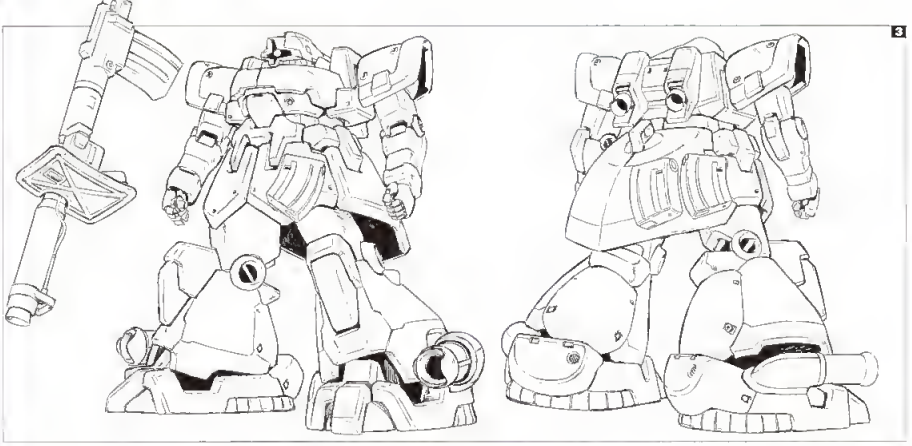




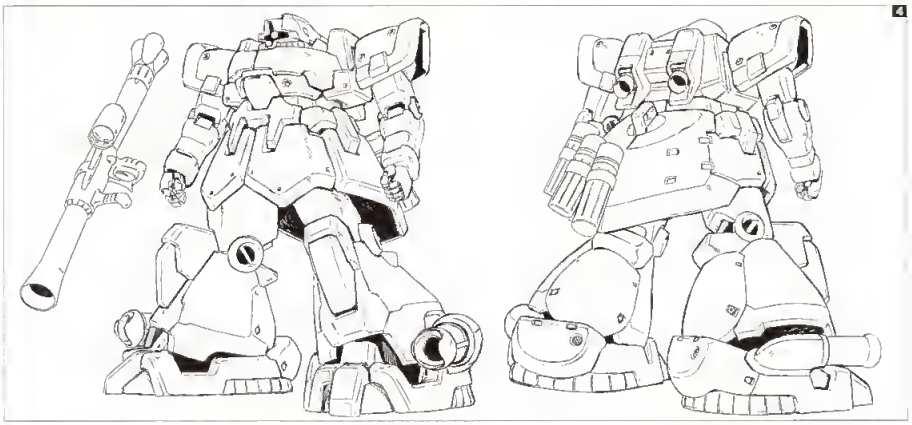
1.武装
携行火器としては主にラケーテンバズやMMP-80マシンガン、シュツルム・ファウストを使用。他に格闘戦用のヒート・サーベルや、予備マガジンなどを装備する。
2.コクピットハッチ
他のMS-09タイプ同様に、腹部に搭乗口を持つ。乗降時はコンソール部分が邪魔にならぬよう移動する仕組み。
3-5.キンバライト基地所属機
物資の不足から、装備品もまばらな状態で運用されている。ザク・バズーカなど正規武装以外の装備品を持つ機体もあった。

BELONGING: Deize Rieg | MODEL NUMBER: MS-09F/TROP | MODEL NAME: DOMTROPEN | OVERALL HEIGHT: 18.5m | TOTAL WEIGHT: 44.8t

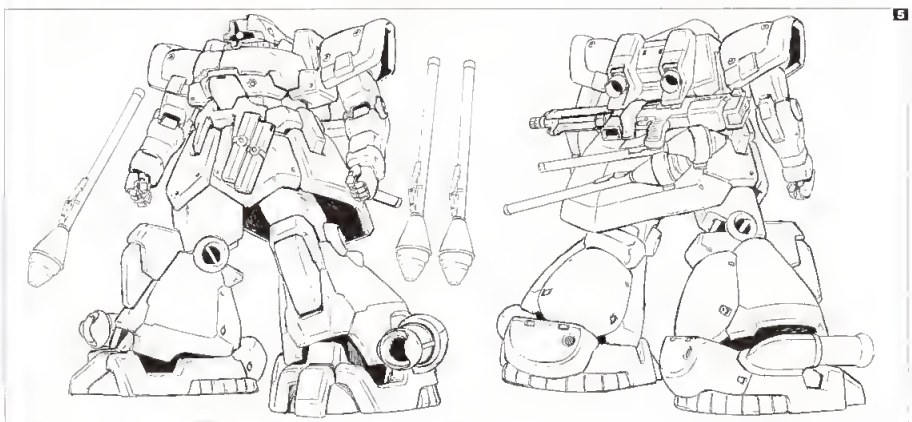
3



4



5

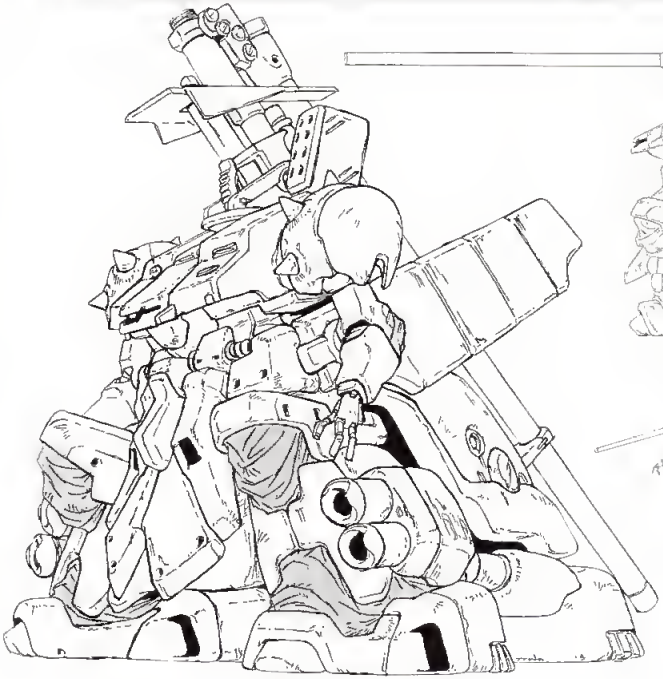


YMS-16M
XAMEL

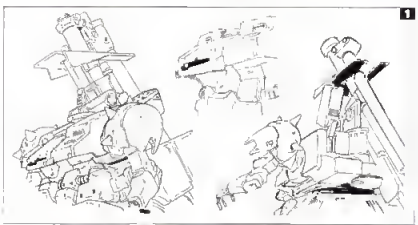
ザメル

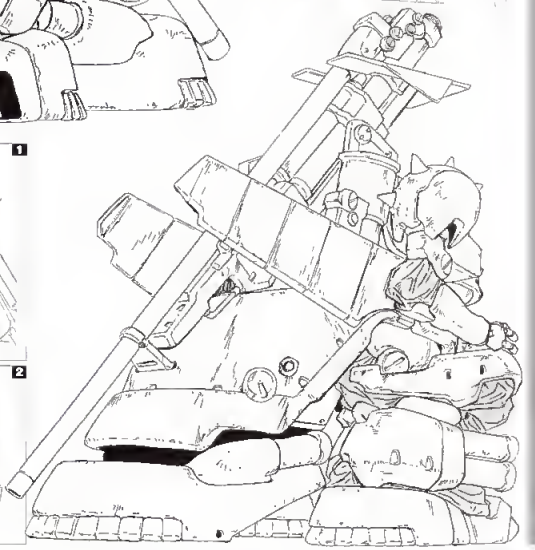
一年戦争時に試作された長距離支援型のモビルスーツ。主武装として、長射程かつ高い威力を持つ680ミリカノン砲を備える。また、ドムに採用されている熱核ジェットエンジンを採用しており、巨体ながらもホバー走行による高い機動性を誇る。

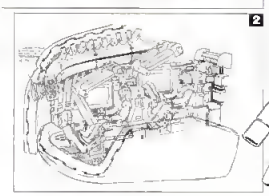
全高：27.0m
本体重量：75.0t
全備重量：121.5t
ジェネレーター出力：1,080kw
スラスター推力：10,300kg×6
武装：680ミリカノン砲 / 20ミリバルカン砲
　　8連装多弾倉ミサイル・ランチャー 他
パイロット：ボブ











1.680ミリカノン砲
ザメルの特徴である大型火砲。通常はバレルが折りたたまれてマウントされており、使用時は担み上げて砲撃を行う。
2.コクピット
前方に操縦士、後方に射撃手が搭乗する複座タイプとなっている。操縦は一人でも行うことが可能だ。

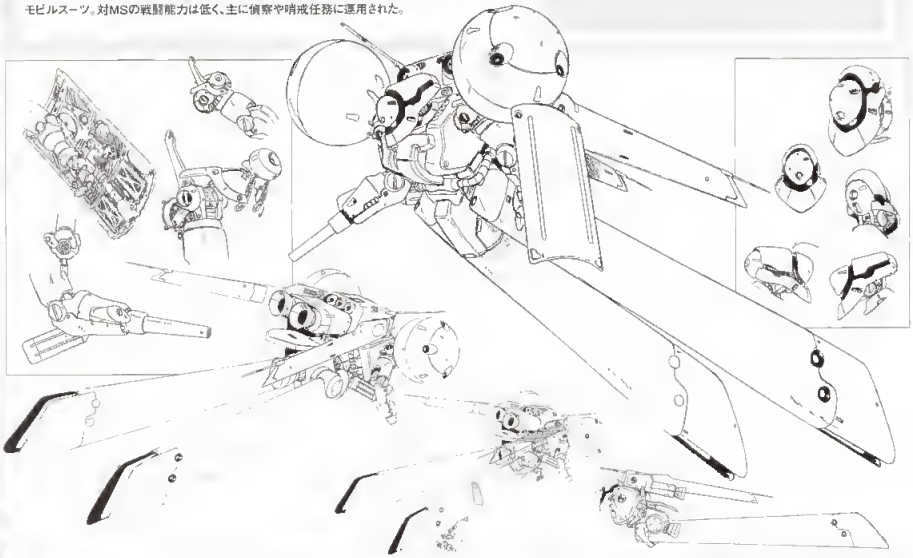
BELONGING:Delaz Fleet ■MODEL NUMBER:MS-21C ■MODEL NAME:DRA-C ■OVERALL LENGTH:28.9m ■TOTAL WEIGHT:231.9t ■MODEL NUMBER:MS-09R-2 ■MODEL NAME:RICK DOMII ■OVERALL HEIGHT:18.6m ■TOTAL WEIGHT:45.6t

MS-21C
DRA-C

全高：28.9m
本体重量　23.9t
全備重量：49.0t
ジェネレーター出力：596kw
スラスター推力：28,000kg×2 / 20,500kg×3
武装：40ミリバルカン砲 / ビーム・サーベル
パイロット：ー

ドラッツェ

MS-06 ザクII、ガトル宇宙戦闘機のパーツを流用してデラーズ・フリートが独自に開発した突撃戦用モビルスーツ。対MSの戦闘能力は低く、主に偵察や哨戒任務に運用された。

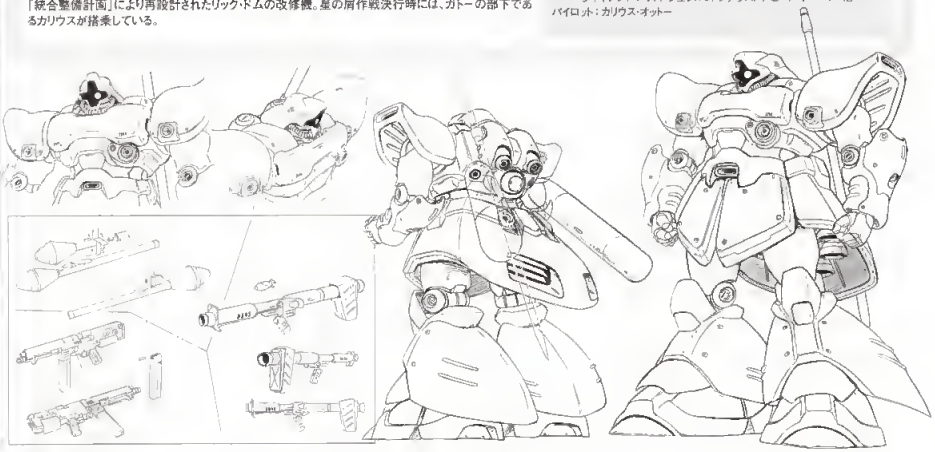


MS-09R-2
RICK DOMII

全高：18.6m
本体重量：45.6t
全備重量：79.9t
ジェネレーター出力：1,219kw
スラスター推力：21,200kg×2 / 7,000kg×2
武装：ラケーテン・バズ / 90ミリMMP-80マシンガン
　　ジャイアント・バズ / シュツルム・ファウスト / ヒート・サーベル 他
パイロット：カリウス・オットー

リック・ドムII

「統合整備計画」により再設計されたリック・ドムの改修機。星の屑作戦決行時には、ガトーの部下であるカリウスが搭乗している。

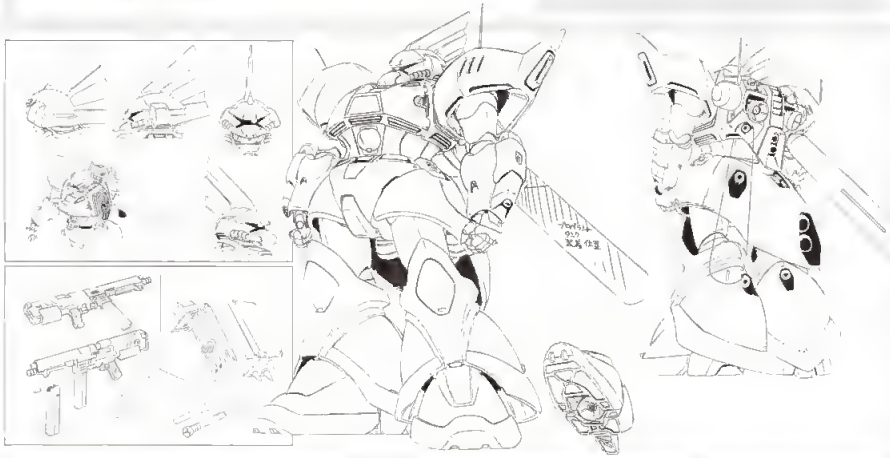


MS-14F
GELGOOG M

ゲルググM（量産型）

MS-14B高機動型ゲルググから派生した海兵隊仕様機。プロペラントタンクの増設やバーニアの強化が図られている。物資不足から、武装はあり合わせのものを携行している。

全高：19.2m
本体重量：45.1t
全備重量：81.3t
ジェネレーター出力：1,440kw
スラスター推力：20,500kg×2 / 7,000kg×2
武装：90ミリMMP-80マシンガン / ビーム・サーベル
　　スパイク・シールド / 110ミリ速射砲
パイロット：ー

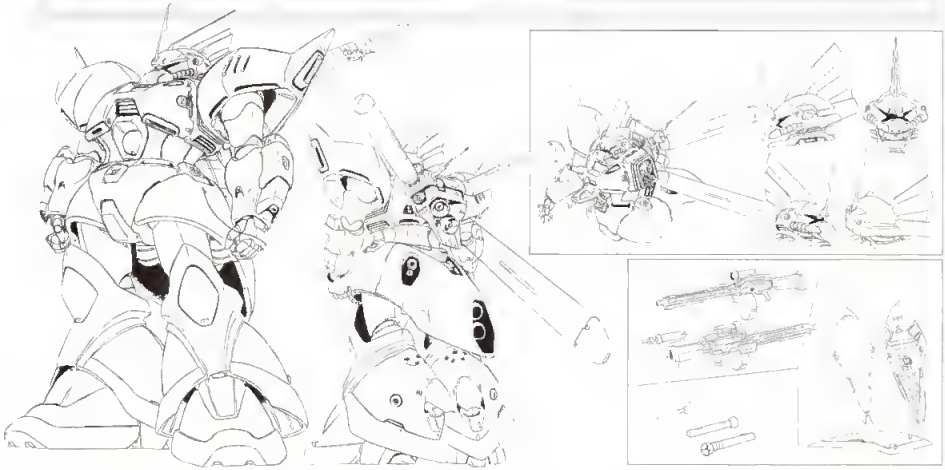


MS-14Fs
GELGOOG M
COMMANDER MODEL

ゲルググM（指揮官用）

量産型に出力やスラスター推力の強化、プロペラントタンクの増設を行い、性能を向上させたカスタム機。大型ビーム・ライフルの装備やバルカン砲の内蔵など武装面も強化されている。

全高：19.2m
本体重量：40.5t
全備重量：80.0t
ジェネレーター出力：1,490kw
スラスター推力：20,500kg×3 / 7,000kg×4
武装：ビーム・ライフル/ビーム・サーベル / シールド
　　40ミリバルカン砲 / 110ミリ速射砲
パイロット：シーマ・ガラハウ

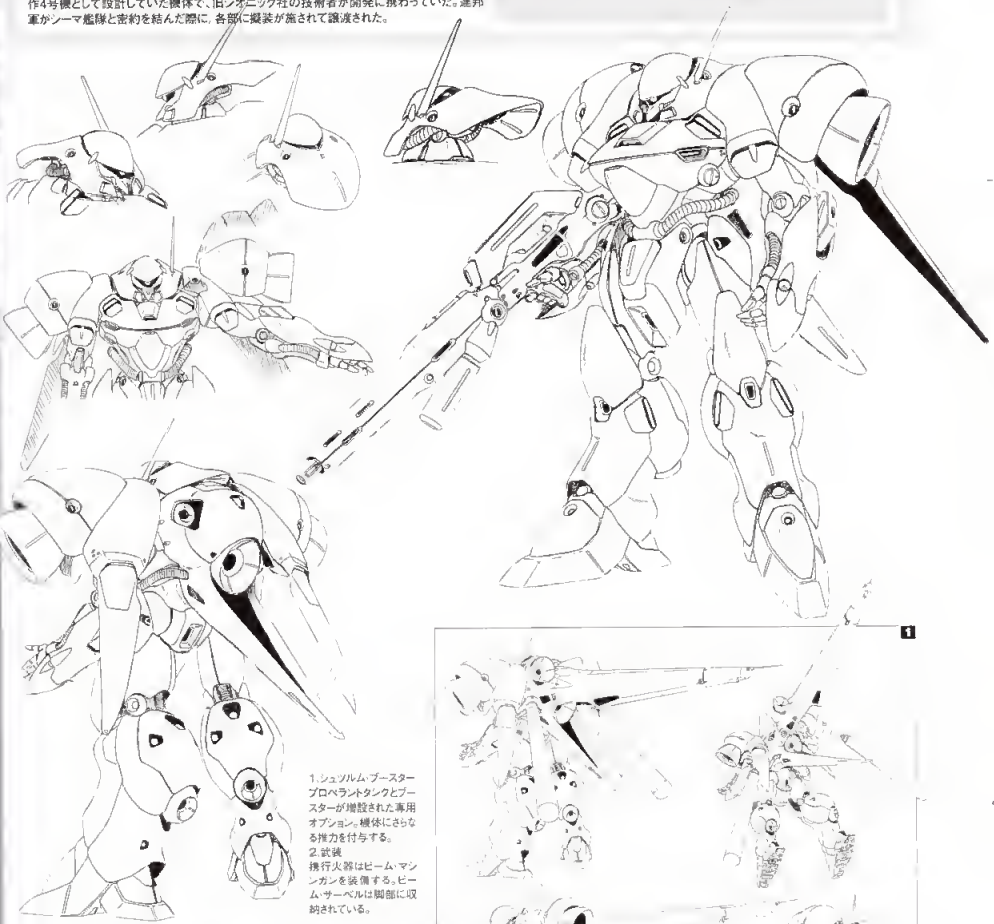


AGX-04
GERBERA-TETRA

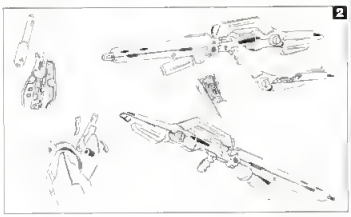
ガーベラ・テトラ

元々は、アナハイム・エレクトロニクス社が突撃・強襲型MSのコンセプトを持つガンダム試作4号機として設計していた機体で、旧ジオニック社の技術者が開発に携わっていた。連邦軍がシーマ艦隊と密約を結んだ際に、各部に擬装が施されて譲渡された。

全高：18.0m
本体重量：41.6t / 48.5t(シュツルム・ブースター装着時)
全備重量：73.2t / 86.0t(シュツルム・ブースター装着時)
ジェネレーター出力：1,710kw
スラスター推力：56,000kg×2 / 50,000kg×1 / 13,500kg×4
(シュツルム・ブースター装着時)56,000kg×2 / 50,000kg×3 / 13,500kg×4
武装：ビーム・マシンガン / ビーム・サーベル / 110ミリ機関砲
パイロット：シーマ・ガラハウ



1. シュツルム・ブースター
プロペラントタンクとブースターが増設された専用オプション。機体にさらなる推力を付与する。
2. 武装
携行火器はビーム・マシンガンを装備する。ビーム・サーベルは脚部に収納されている。

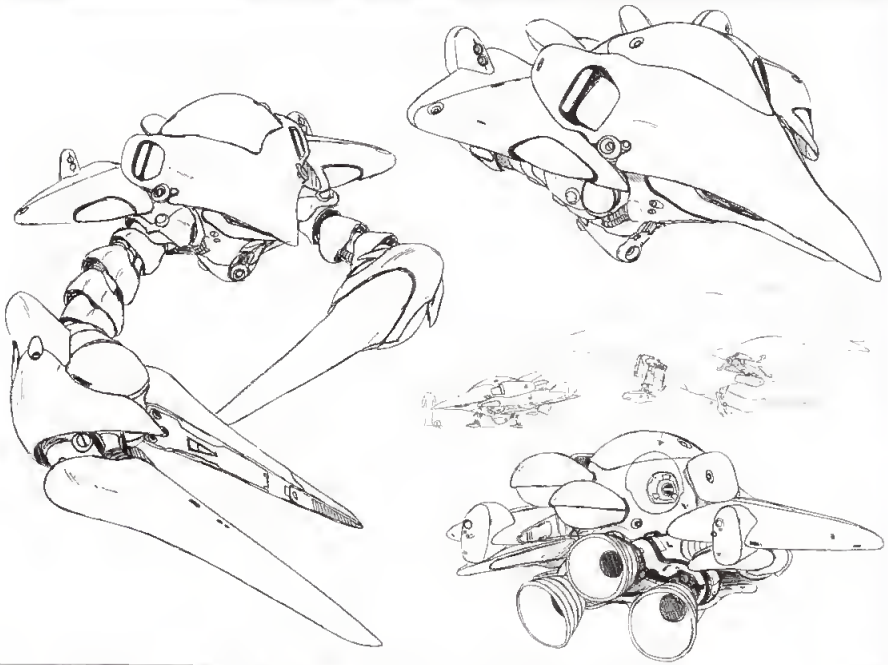


MA-06
VAL WALO

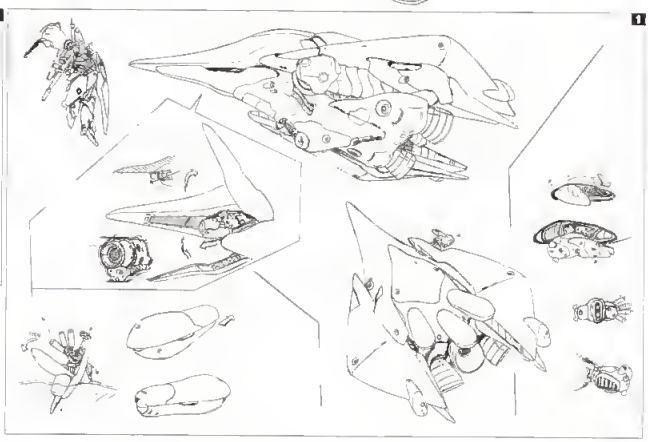
ヴァル・ヴァロ

一年戦争末期に開発されたジオンの大型モビルアーマー。メガ粒子砲やクローアームなど多彩な武装を持ち、高い戦闘力を持つ。グラナダの公国軍工廠に存在していた機体を、元ジオン兵であるケリィ・レズナーがフォン・ブラウン市へと移して秘匿していた。

全長：68.0m　全幅：22.5m
全高：46.0m
本体重量：254 1t
全備重量：379 8t
ジェネレーター出力：26,030kw
スラスター推力：184,000kg×3/56,000kg×3
武装：大型メガ粒子砲 / ミサイル・ポッド / プラズマ・リーダー
　　対空ビーム・ガン / 110ミリバルカン砲
パイロット：ケリィ・レズナー







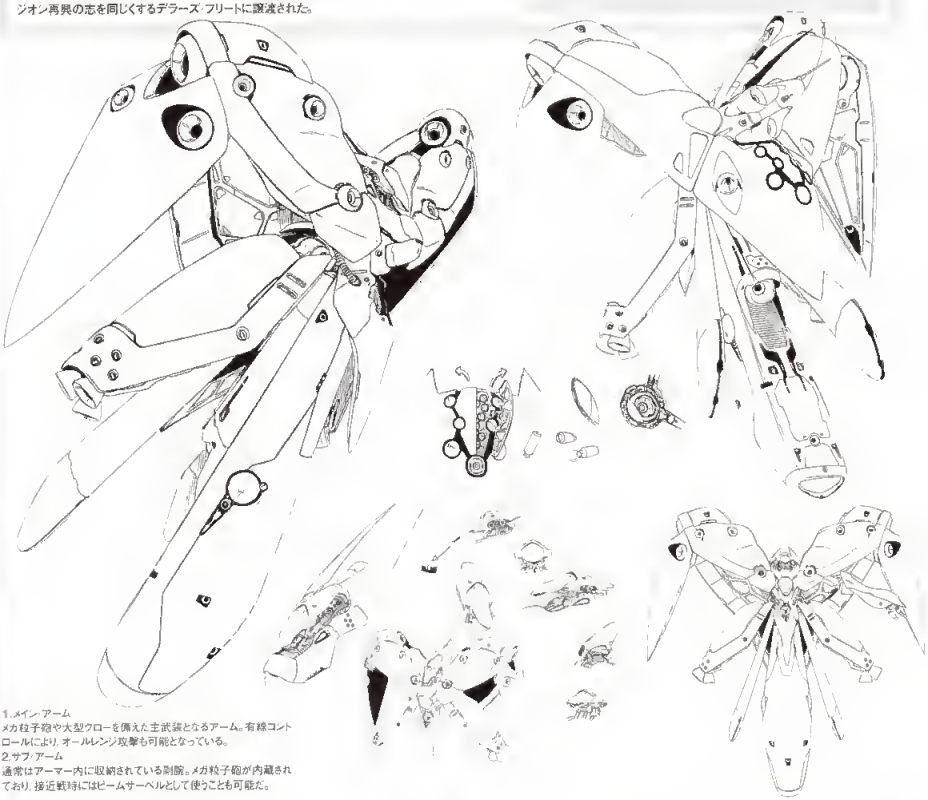
1.武装
機体中央部には主武装となるメガ粒子砲を備える。他にも対空ビーム・ガンやミサイル、そして「アッザム・リーダー」の発展形であるプラズマ・リーダーなど、多くの武装が搭載されている。
2.コクピット
モノアイレールが存在する機体中央部に操縦席が存在する。搭乗時は装甲カバーが開いて、ハッチが現れる仕組み。

AMA-X2 (AMX-002)
NEUE ZIEL

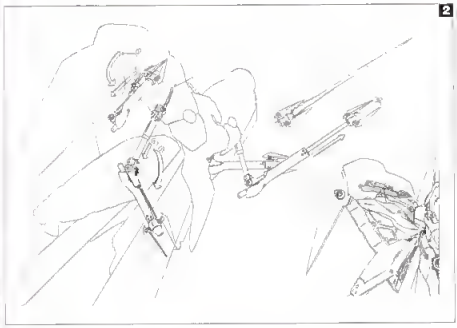
全高：76.6m　全幅：73.6m
本体重量：198.2t　全備重量：403.5t
ジェネレーター出力：75,800kw
スラスター推力：359,000kg×1 / 20,400kg×1
武装：メガ・カノン砲 / 有線メガ粒子砲 / 有線クローアーム
　　メガ粒子砲 / 大型ミサイル・ランチャー
　　小型ミサイル・ランチャー / Iフィールド・ジェネレーター
パイロット：アナベル・ガトー

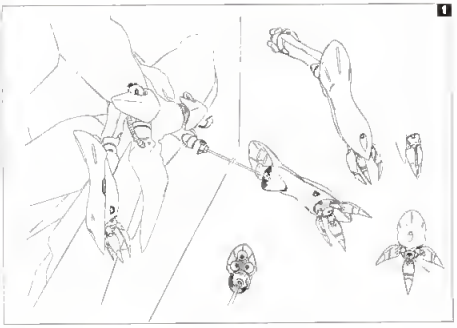
ノイエ・ジール

小惑星帯に隠れていた「アクシズ」のジオン残党が開発した試作MA。コンピューターによる半自動コントロール式のオールレンジ兵器やIフィールドなど、旧公国軍が開発した様々な技術が投入されている。ジオン再興の志を同じくするデラーズ・フリートに譲渡された。



1.メイン・アーム
メガ粒子砲や大型クローを備えた主武装となるアーム。有線コントロールにより、オールレンジ攻撃も可能となっている。
2.サブ・アーム
通常はアーマー内に収納されている副腕。メガ粒子砲が内蔵されており、接近戦時にはビームサーベルとして使うことも可能だ。



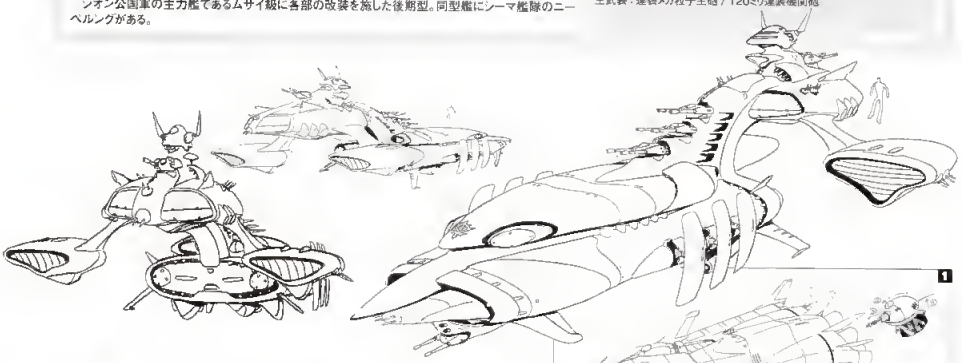


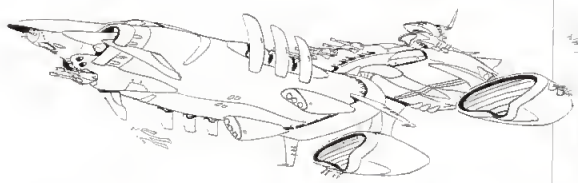
PEER GYNT

ムサイ級巡洋艦(後期型) ペールギュント

ジオン公国軍の主力艦であるムサイ級に各部の改装を施した後期型。同型艦にシーマ艦隊のニーベルングがある。

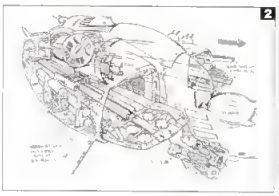
全長：248m
全幅：162m
全高：69m
本体重量：26,200t
主武装：連装メガ粒子主砲 / 120ミリ連装機関砲







1.コムサイII&ブースター
ムサイ級の艦首にある大気圏突入用の小型連絡艇。地上から軌道上に打ち上げる際には、専用ブースターを装着する。
2.MS格納庫
船体下部に用意されており、MSを4機搭載することが可能。



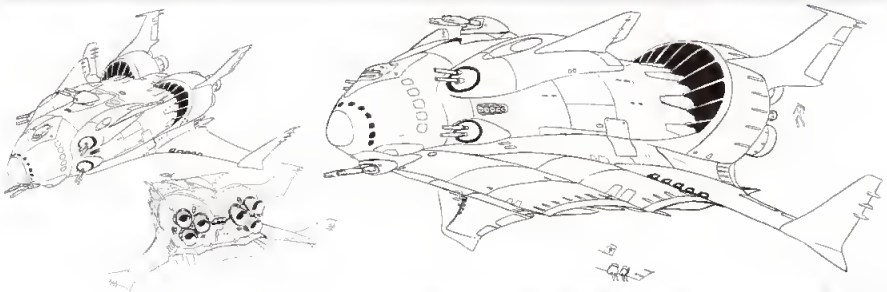


LILI MARLEEN

ザンジバル級機動巡洋艦 リリー・マルレーン

自力での大気圏突入が可能なザンジバル級機動巡洋艦に強化を施した改修艦。シーマ艦隊の旗艦となっている。

全長：255m
全幅：223m
全高：128m
本体重量：42,500t
主武装：連装メガ粒子主砲 / 連装メガ粒子副砲 / 120ミリ連装機関砲



GWANZAN

グワジン級戦艦 グワンザン

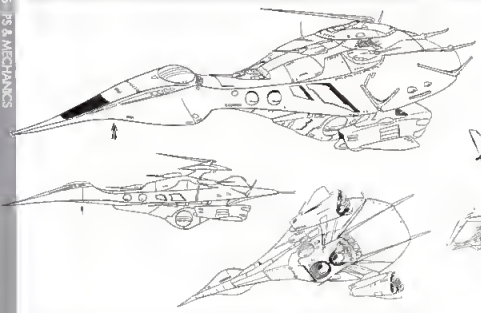
デラーズ・フリート支援のために現れたアクシズ先遣艦隊の旗艦。グワジン級に、アクシズ独自の改良を施した新型艦だ。

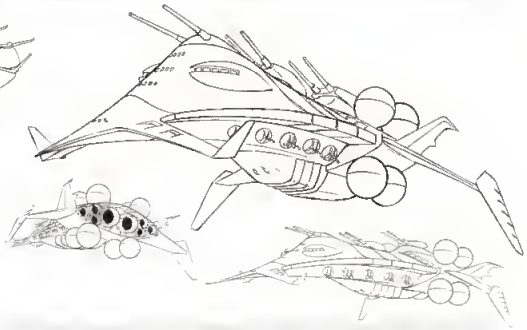
GWADEN

グワジン級戦艦 グワデン

デラーズ・フリートの旗艦となるグワジン級の巨大戦艦。

全長：440m
全幅：320m
全高：103m
本体重量：108,100t
主武装：連装メガ粒子宝砲
連装メガ粒子副砲
155ミリ連装機関砲

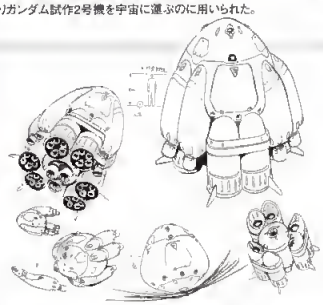




HEAVY-LUNCH VEHICLE

HLV

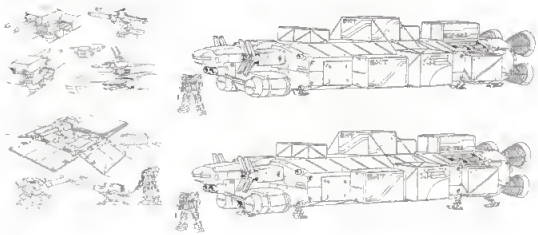
物資運搬に使われる垂直離着陸式の輸送ロケット。キンバライト基地よりガンダム試作2号機を宇宙に運ぶのに用いられた。



TRANSPORT SHIP

偽装宇宙輸送船

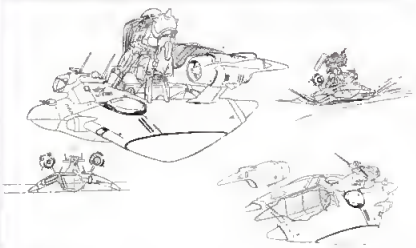
月のフォン・ブラウン市に潜入するためシーマが使用した輸送船。貨物コンテナの内側に武装やMSが隠されている。



HOVERCRAFT

MS揚陸用ホバークラフト

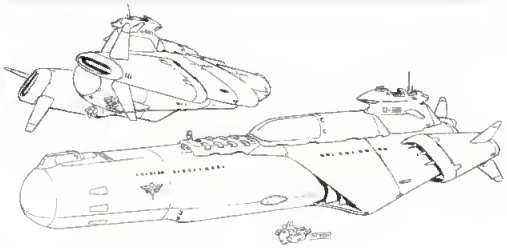
U-801に搭載されていたモビルスーツ輸送用の揚陸艇。



JUKON U-801

ユーコン級潜水艦 U-801

ユーコン級潜水艦の最終生産型。U-801はガンダム試作2号機の奪取を支援した。



スペシャルインタビュー

今西隆志監督

最後に監督を務めた今西隆志氏に制作当時のエピソードや思い出などを伺った。あの熱き名作「機動戦士ガンダム0083 STARDUST MEMORY」がどのように誕生し、そして完成したのか？　今西氏のお話からその一端を感じ取っていただけたらと思う。

インタビュアー　河合宏之



ガンダムフィルムを作るプロジェクトの一員として

――機動戦士ガンダム0083 STARDUST MEMORY」に参加することになった経緯をお聞かせください。

巡りあわせのような部分はありますよね。というのも富野（由悠季）さんみたいに、自ら企画して指揮を執る……というのとはまた別な話ですから。ちょっと不思議な言い方かもしれませんが、サンライズという会社の方針として「今度は第3スタジオでガンダムを作る」というプロジェクトの中にいたということです。そこで加瀬（充子）さんが監督に立って、僕がサポートをしていたという状況ですね。映画の班や組といった枠組みを理解していただくと、そのあたりがすっきり入ってくると思います。たとえば監督が全部決めて、「僕の作品だ！」っていう、絶対君主制ではないんですよ。ただ作品が後半に差し掛かると、結果として監督が全部やるケースは多いです。スタート時は、みんなあれこれ好き勝手なことを言うんですけどね（笑）。

――今西監督は様々なガンダムに携われていますが、本作でも特別な気持ちはありましたか？

作品作りに対して身構えることはあっても、ガンダムというタイトルに身構えることはないですね。また、当時は世の中的にも、ガンダムが31年も続くビッグタイトルになるという意識はなかったですから。最近では作画さんでも、声優さんでも、ガンダムにぜひ関わりたいっていう人が多いですよね。そういう好きな人が集まってくる、という意味で単純にすごいなと思います。僕はそこまでガンダムに対してこだわりはなかったんですが、戦争物として独特の世界を築いているという印象はありました。もちろん面白いシリーズではありますが、「ガンダム命」ということではなく、客観的に携われたと思います。

参加された段階で、企画の概要はどの程度決定していたんでしょうか？

なにをもって企画が成立しているか、という意味では難しい部分ではあります。そもそもガンダムを作るという時点で、サンライズやプロデューサーをはじめ、水面下でいろいろなことが進められていますから。我々が参加するのは、どんな演出や、ストーリーでやるかという段階ですね。そこは加瀬さんを中心にして進められていて、僕は世界設定に力を入れていた部分が大きいです。

――0083年という時代は、どのような経緯で決まれたんでしょうか？

取り上げるなら、その辺りの時代がいいんじゃないかっていう話だったかな。あまりファーストガンダムから離れていなくて、でも途中をかいつまんだ物語とは違う。そうした中で、必然的に選ばれたものでしょう。結局は一人が何かを決める、ということではないんですよ。たとえば　登場させるMSにしても、いろんな人がいろんな立場から意見を言いますからね。

――当時は、1話ごとにクオリティが上がっていく感がありました。

昔のOVAって存在感がありましたよね。TVよりもすごい映像を、シリーズ作品として見ることができるもの。それも、いろんな人が手を貸してくれたから実現できたんですよね。メカにしても佐野（浩敏）さんがいなければ、あれだけの魅力は出せなかったけど、同じようにがんばってくれる人がたくさんいた。1人のエースのおかげというのではなく、第3スタジオみんなの力、という意識が強いです。昔はスタジオの色って個性として表れていましたから。あとは、大物になる直前の人がたくさんいたことも大きいですね。

実は4話をはじめ、僕の担当した話数は作画の枚数も少なくて、一番予算がかかっていないですよ。でもみんな遠慮なく動かしていましたよね。振り返ってみると、もっと動かせばよかったなって思います（笑）。

生々しさを感じられるMSのリアリティ

――今西監督が携われた設定面は、本作の重要な上官を集められていますよね。

どの作品もそうなんですが、僕は設定面から入る仕事が多いですね。「装甲騎兵ボトムズ」もそうですし、「ノンティハンター」も読解類から携わっていますから（笑）。個人的に好きな方向性は2種類あるんですよ。今携わっている子供向けの作品もそうですし、大人っぽいリアルで生々しい作品も好きです。リアルといってもいろんな描き方があると思いますけど、今だったら、きっとハイテク兵器を描くほうに走っているでしょうね。

――当時のMSのリアリティという意味では、バランスが難しい部分もありましたか？

「機動戦士ガンダム0080　ポケットの中の戦争」っていう先鞭がいましたから、そこは基準にしています。ただ、これは否定ではないんですが、小さな分隊規模の物語でしたからね。1つの地域の紛争物という意味では、方向性が違っていた思います。ちょっと人間頼りなところが残っているメカ、という部分を意識していました。世の中ではどんどん無人機が飛ぶような時代になっていて、今は誰かが乗っても一緒なんじゃないかと感じられる部分はありますよね。そういう意味では、ちょっと巻き込まれた感じがあるという意味合いがあると思います。この辺りは近年のガンダム作品に登場するMSと、機械の質が違うと感じられるかもしれません。

――本作のMSたちは、装甲の重さや、サスペンションの動きを感じられるような印象を受けます。

まぁ、重力に縛られなければ人間ですからね（笑）。重みのあるほうが動きやすいですよね。ガンダムの動きって難しいんですよね。たとえば「機動戦士ガンダムSEED」なら、独特の見得の切り方と速さがありますよね。そ

今西隆志 いまにし・たかし　**Profile**

サンライズ`D.I.D.スタジオ CGプロデューサー
「装甲騎兵ボトムズ」等の演出を手掛けた後、`「機動戦士ガンダム0083 STARDUST MEMORY」を監督。「機動戦士ガンダムMS IGLOO」シリーズではプロデューサーも兼務。現在は「バトルスピリッツ ブレイブ」に参加している。

れに比べたら遅いもいいところです（笑）。ただファーストガンダムと比較すれば速い。重力を感じる範囲での速さ、というんでしょうかね。それ以上の速さになると航空機的になってしまうけど、ギリギリ重力を感じられるライン。航空機的な軽さになっちゃうと、動きにドスが利かないんですよ。

――本作はジオン側の視点から描く、という点でもその後に大きな影響を与えた作品と考えられます。

あまりにもジオンを持ち上げるから、不思議がられていましたよ（笑）。当時、ジオニストは少なかったみたいなんで。きっと「0080」と「0083」がジオニストを養成したんだろうね。

――ガトーやデラーズはもちろん、キンバライト鉱山の残存兵もそうですし、ジオン側に感情移入して見ている人は多いです（笑）。

連邦軍は、ちょっと見えないところがあるんですよね。だからジオンのほうがストレートだし、わかりやすいんです。まあ根本的にはジオン側が好きなんでしょうね。プラモデルはHGUCジム・カスタムが発売されるそうですが、「うーん、ジムか……」と思う部分もあります（笑）。まあ、あまりにもガンダムをヒーローにしてしまうとジオンが魅力的じゃないし、かといってガンダムが弱すぎると物語が成立しない。そこでどんなドラマを成立させるか、ということになるんです。たとえば「0080」のアレックスはニュータイプ専用機で、単純に機体を比較すれば「0083」のガンダムよりもスペシャル。でも、そこに普通のパイロットが乗ることでドラマが成立していますよね。

ガンダムって放っておくと、スマートでかっこいい方向に進みますから。こっち側に来ると泥臭くなる。当時は「こんな泥臭いので大丈夫か？」って、プロデューサーにいつも言われていましたからね。突き詰めていくと、最終的には「MS－GUOO2 重力戦線」になるんです（笑）。

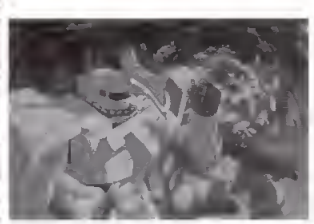
一方で、デンドロビウムは方向性の異なる特別な機体という印象でした。

追加装備の化け物ですからね。現在では1つのシンボルになっていますけど、当時はなかなか理解してもらえなかったんです。「これはなんだ？　どうやって動かすんだ？」って。しかもガンダムが隠れてヒーロー性が落ちてしまうということで、後半にしか出せなかったんです。でも、ただ形が面白いというだけじゃなく、用途やデザインに意味性があれば、映像として存在できるんですよ。

アイデアに関しては、僕の出したリクエストも多かったと思います。本体にコンテナをつけて手を伸ばしたら届く、IフィールドもギリギリOK……なんて話をした覚えがありますね。ただ、かなり趣味に走りすぎて、あまりデザイナーの苦労を考える余裕がなかったのが反省点ですね（笑）。カトキ（ハジメ）さんは相当大変だったと思います。きっとTVシリーズだったら成立していないでしょうね。みんなが止めに入ったと思いますから。







存在することの意味性がメカに息吹を与える

メカの意味性は、本作を象徴する言葉と感じます。たとえばツートーンカラーのザクをはじめ、画面の構図や情報から、様々な意味が見えてきますね。

最初は、なぜツートーンなのかわかってもらえなくてね。「色間違い」なんて言われたんですよ（笑）。軍服も間に合わないときは、上半身だけサンド色の上着を着ますよね。ペイントだって最低限、上半身だけ塗って済ませる場合もある。理にかなっていますから、知っている人の意識には引っかかるんでしょう。一般的には「軍隊は統一されているんじゃないの？」っていう意識が強いらしいんですが、なにせ残党だし、ペンキも残り少ないし（笑）。

全身サンド色のザクもいれば、グリーンのザクもいる、そしてツートーンのザクもいる。バラバラだからこそ、「らしさ」を感じるんだよね。

そういうこだわりが、映像の中に生きてくるんでしょうね。

僕らはそういうことが好きな世代ですからね。先日、親しいメカデザイナーと「戦艦大和はどんな色か？」という話をしていたんですけど、船体って基本的にグレーじゃないですか？　でも当時、日本海軍で採用されているペンキって黒と白しかないんですよ。一応決められた割合で調合するんですけど、現地で塗るもんだから多少、色合いや明るさが違うんですよね。

あとは甲板もそうです。プラモデルの大和って、基本的に甲板は板張りを再現していますよね。でも実際には板をはがして、全部グレーになっていたという説があるんです。残っている白黒写真を調べて、コントラストから色を調べている人がいるんですけど、明るい色じゃないらしい。大和と武蔵を比べても、明らかに違う。どうやら沖縄戦のときの大和の甲板は、黒かったらしいんです。こんな風に、塗装ひとつとっても意味があって面白いんですよね。

――今戦艦をはじめ、スタッフの方々のプラモデルやメカに構造されている部分が、フィルムに現れている印象を受けます。

神田（武幸）さんもそうでしたけど、昔の世代ってミリタリー映画が好きで、プラモデルも好きっていう人が多いからですね。それにガンダムという作品は、放送する前から模型化が決定していますから、プラモファンが楽しめることは盛り込もうって考えますよね（笑）。鬼門だったのはデンドロビウムですね。銃（メガ・ビーム砲）の重さが耐えられるのか心配で、そこに静岡のバンダイの工場へ、何度もチェックに行きましたよ（笑）。

僕らは今、プラキットの色を参考に、バンダイ ホビー事業部さんに色を指定したりしているんですよ。一方で、サンライズD.I.D.スタジオで作った3DのCGをコンバートして、ホビー事業部さんに渡したりもしています。プラスチックに成形されると、原型からどれくらい縮小するかを計算できるのはこのスタジオだけですよ（笑）。相互関係はかなり強いです。CGのスタジオであり、立体とのリンクが一番密接なスタジオといえますね。

20年が経過し、「0083」はご自身にとってどんな作品となりましたか？

この作品が転機になったスタッフがたくさんいましたけど、自分にとってもそうだったのかもしれませんね。ある程度若くて、仕事を身に付けたときに巡り会い、OVAだったからこそアイディアやエネルギーを全部詰め込むことができた。20周年としての意味というよりは、何年経っても自分にとっては「メモリアルな作品といえますね。

（2010年12月サンライズ D.I.D.スタジオにて）

THE LAST DUEL



BANDAI 1/550 scale plastic kit "High Grade MECHANICS"

RX-78GP03 DENDROBIUM
modeled by Masayuki Okada

AMX-002 NEUE ZIEL
modeled by Takeshi Hitokabe

©sotsu·sunrise

ANAHEIM ELECTRONICS

Gundam Project series

RX-78GP01	GUNDAM GP01	ZEPHYRANTHES
RX-78GP01Fb	GUNDAM GP01Fb	FULLBURNERN
RX-78GP02A	GUNDAM GP02A	PHYSALIS
RX-78GP03S	GUNDAM GP03S	STAMEN
RX-78GP03	GUNDAM GP03	DENDROBIUM
RX-78GP04	GUNDAM GP04	GERBERA



BANDAI 1/100 scale plastic kit "Master Grade"
modeled by NAOKI/Tatsuya Yanezu/Kazuhisa Tamura/yumato